

第28回「日退教組織活動交流集会」(2022年10月14日)

レポート

第2分科・分散会 「教育・人権・文化・組織」

① 「組織加入拡大に向けた網走退教のとりくみ」

原田敏博（北海道退）

第27回五者合同学習会・第27回日退教組織活動交流集会
「平和・組織」分科・分散会レポート

組織加入拡大にむけた網退教のとりくみ

～ 現退一致ですすめる加入促進ととりくみの工夫をめざして ～



北海道退職教職員連絡協議会
網走退職教職員協議会 副会長 原 田 敏 博

1. 關於本會之宗旨及業務範圍，應由本會章程予以明定，並經會員大會通過，始得生效。

★ 本會之經費來源及用途

本會之經費來源包括：會員會費、捐款、政府補助、社會捐助等。



本會之經費來源及用途，應由本會章程予以明定，並經會員大會通過，始得生效。

第27回日退教組織活動交流集会 <2022年10月14日>

組織加入拡大にむけた網退教のとりくみ報告

～現退一致ですすめる加入促進ととりくみの工夫をめざして～

北海道網走退職教職員協議会

はじめに

平和も民主主義も暮らしも危ない！ でも、もう一つ危ないものが！

網走退職教職員協議会（以下「網退教」）は、1974年に結成された北海道退職教職員連絡協議会（北退教）に加盟し、北海道内26退教協のうちの1つであり、地域的にはオホーツク管内の18市町村に居住する退職者や再任用者で組織しています。運動の基本方針を①会員の親睦と交流、②生活保障としての年金・医療・介護・税制などに関する要求実現、③護憲、平和、民主教育の確立、④組織拡大のとりくみ強化、⑤現退一致のとりくみ推進などに据えて活動しています。

しかし、これらの方針や暮らしの安定に相反する状況が続いています。ロシアのウクライナ侵略による戦火の拡大、台湾有事や北朝鮮の脅威を口実にした軍事費増強画策、国民世論を無視した安倍元首相の国葬強行、旧統一教会と自民党の長年にわたる癒着構造、後期高齢者の医療費負担改悪、一向に収まらない物価高など平和も政治も暮らしもきわめて危ない水域に突入していると言わざるを得ません。網退教もこの間北教組網走支部と連携して平和と民主主義及び生活を破壊する動きに対し反対してきましたが、今後も北退協の「平和なくして社会保障なし」を銘としてとりくむことにしています。

一方でこれらのとりくみを一緒にすすめ継承していくためには、何と云っても仲間づくりが大切ですが、これもきわめて危ない状態になってきました。危ないもう一つは組織そのものの維持です。かつては、退職者のほとんどが加入する組織として運営されてきましたが、昨今は「現職組合の加入率減に比例した入会減」「高齢化による死去や退会」などが影響し網退教も新規加入が停滞し深刻な状況を抱えています。

網退教は、これらの実態を少しでも改善していくため組織強化拡大を最重要課題とし、これまでの活動を見直し新たなとりくみに着手しています。依然として厳しい状況に変わりありませんが、この間の一定の成果や今後の課題について報告します。

1. 網退教の組織状況の経過と現状

■会員数の推移

組織確立期	新規加入対象者	新規加入者	死去・退会	会員数	名誉会員（内数）
2017.4月	32	10	33	489	62
2018.4月	30	3	26	466	57
2019.4月	22	5	24	447	55
2020.4月	19	9	40	416	46
2021.4月	35	10	15	411	39
2022.4月	13	5	45	371	31
2022.6月			7	364	29

※ 新規加入対象者の人数は退職組合員数（定年退職及び再任用で未加入組合員）

この間の推移を見ても新規加入者は少数にとどまり、2018年3名、2019年5名と一桁になりました。役員会でも議論となり「毎年、20～40名の減少」「組織の高齢化が急速だ」「新規加入者が0になって、それが

ちょっとまずいんじゃないの！

15年続くと網退教消滅か！」等々、役員会メンバーの認識も一致。これまでの組織拡大のとりくみを見直すとともに、日常活動に関しても検証してみることにしました。

これまでの加入拡大の手法と弱点

- ①教職員共済説明会での北退教・網退教説明と加入呼びかけ
- ②北教組網走支部主催「退職組合員を囲む会」への出席と個別説明
- ③対象者への入会案内文書類の送付

- ・他の企画や行事への便乗で時間的制約あり。〈コロナ禍で企画自体が中止〉
- ・加入案内文書、チラシ類配布後のフォローが不十分

- ・以前は役員が職場訪問して対象者と面談し加入実現をはかってましたが、ここ数年職場や分会環境が変化し難しい状況があります。
- ・対象者が元同僚などの場合、役員や会員が直接声かけをしてとりくんだ例もありますが限定的なものでした。

なぜ組織拡大がすすまないのか？

◆組織サイドの問題

- ①直接的な勧誘や機会の減少・・・職場（分会）訪問困難、電話・住所（個人情報）
- ②負のスパイラル・・・会員減少→高齢化→世代継承停滞→組織拡大への意欲減退→加入減少
- ③日常活動のマンネリ、北見市中心の行事や活動・・・地方居住の退職者に身近な組織でない

◆対象者サイドの問題

- ④退職組合員の意識変化・・・「もういいしょ」「燃えつき」「組織に縛られたくない」
- ⑤再任用と網退教・・・「再任用期間が終了するとき考える」→そのまま看過、北教組と網退教の重複加入（組合費&会費）

でも、もう一方で

なかなか思うように組織拡大がすすまない一方で次のような声も聞こえてきます。

そう言えば加入案内の文書が来てたような

北退教
網退教

すすんで入りたいとは思わないけど、入らないと決めてるわけでもない

退職前も退職後も1回も加入の話をされたことがない。

世話になった先輩から声かけられたらやっぱり入るしかないもんね

もう一度丁寧なとりくみが必要

2. 網退教のとりくみ

新規加入者が一桁になり会員数の減少に歯止めがかからない実情を少しでも改善していくため、網退教は2019年以降とりくみの見直しに着手しました。それは、このままの状態が今後15年続けば会員数が激減し組織崩壊を見ることになるという「あせり」のようなものです。以下その概要を報告します。

(1) 管内ブロック活動の推進・・・ 網退教を身近に感じられる組織に！

網退教の会員は下表のとおり18市町村のうち14市町村に居住していますが、総会・交流会、各種行事（パークゴルフ退会、麻雀大会）、女性部企画などの日常活動は、いずれも北見市で実施されており遠方の会員にとっては参加できないのが実態です。＜斜里町→北見市まで車で2時間弱、興部町からは2時間30分弱＞従って、会員と網退教をつなぐものは定期的に発行される網退教広報「オホーツク便り」のみで交流の機会がきわめて制限されていました。唯一、網走市ブロックが例年総会・交流会を開催しています。

この状況を改善していくため、2019年6月に紋別ブロック交流会、10月に遠軽ブロック交流会を実施しました。少人数での交流でしたが、今後ともブロック内での近況交流や情報交換をはかる機会をつくることを確認しました。ともかく網退教が身近に感じられなくなったとき、じわじわと組織離れがすすむことは間違いありません。

■会員の居住地

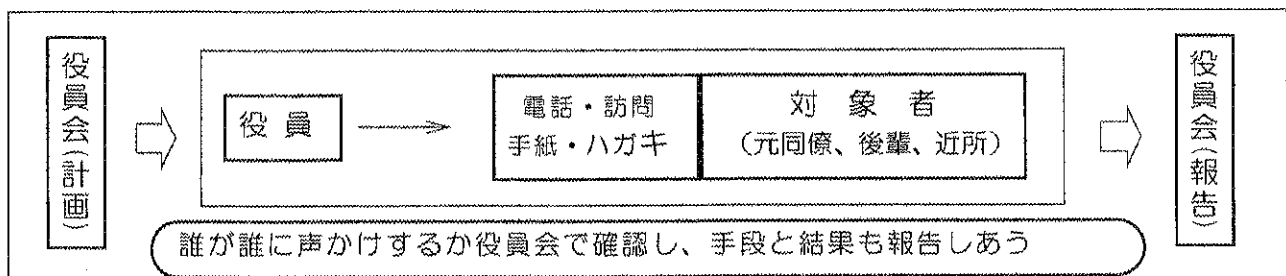
市町村名	会員数	市町村名	会員数	市町村名	会員数
斜里町	3	置戸町	1	興部町	2
清里町	0	訓子府町	2	西興部町	0
小清水町	1	佐呂間町	4	雄武町	0
大空町	1	遠軽町	23	網走市	51
美幌町	13	湧別町	2	紋別市	16
津別町	1	滝上町	0	北見市	244
合 計					364

(2) 直接的な声かけ・・・その反応や結果を役員会で共有！

低調な加入実態の主要因は、何と言っても直接的な声かけが決定的に不足していたことです。確かに「教職員共済説明会」や「退職組員を囲む会」での説明や加入呼びかけは大切ですが、どうしても時間的制約や出席した役員が対象者と初対面で十分なコンタクトがとれないなどの難点がありました。

加えて2020年は新型コロナの感染防止のため、これらの事業がことごとく中止となったため計画の練り直しを余儀なくされました。

役員会は10月期のとりくみとして、役員が面識のある対象者に直接声かけをし加入をすすめることを提起しました。このとりくみにより新たに2名が加入し、役員会でも「やってよかった」「次へつながるね」などの声があり一定の成果がありました。



(3) 支部・支会・分会との連携・・・組織拡大も現退一致で！ 資料1～9参照

次に再検討が必要だったのは、何と言っても3月の退職期にむけたとりくみです。従来から北教組網走支部と連携をし3月～4月を強化月間に位置づけて退職者への加入呼びかけ文書やチラシを送付するとともに役員会事務局が支部・支会の定期大会で激励の挨拶や網退教紹介を行う中で一定の加入者がありました。しかし「加入の案内文書がきてたような気がする」「年度末の忙しさと退職のどさくさでよく見てない」などの声に象徴されるように、網退教の存在は組合員意識において

さえ希薄化している傾向でした。その背景には、「教育現場の超多忙化」「組合組織率の急減」が影響しており、退職後は北教組から網退教へが「あたりまえ」の時代から今や「選択」に変化していることを物語っています。

そこで役員会では、年度末退職時期にむけてもう少し原則的で丁寧なとりくみをしてみることにしました。要点は以下のとおりです。

支部・支会・分会と現退一致で！

- ① 支部・支会・分会との連携を強化するため、網退教の加入拡大のとりくみを北教組のとりくみとして議案化し、支部戦術会議で支会・分会へ提起する。
- ② とりわけ退職組合員と身近な支会・分会宛てに網退教から要請文書を届ける。
- ③ 退職組合員宛の「加入案内チラシ」「入会申込書」は分会長から渡してもらい入会への声かけをしてもらう。
- ④ その後改めて網退教から「入会勧誘文書」を本人宛に送り必要に応じて面識のある役員や会員から直接電話などで加入をすすめる。
- ⑤ 入会を「検討中」「すぐの入会はちょっと？」などの場合は一定期間、網退教広報「オホーツク便り」を届けて継続的に入会案内を行う。

具体的な内容は別紙資料のとおりですが、これらのとりくみにより2021年4月段階で10名が加入し一定の成果を見ました。加入した会員からも「先に分会長から直接声かけがなかったら考えなかったかも」「現職組合員を応援する気持ちになれた」「退職した先輩組合員からの勧誘があったから」「加入案内や資料を配布されただけでは加入しなかったと思う」などの声が寄せられました。このことは、どんなに立派な資料や案内を作成しても、それらの配布以上に元同僚や同世代からの直接的な声かけや身近な分会・支会からの呼びかけが要であることを教訓化しました。

仲間が増えると元気も倍に！

(4) 今年度のとりくみ・・・網退教「青年部？」に期待！

資料10～11参照

2022年度も支部・支会・分会と連携したとりくみを行うとともに、可能な限り役員を中心に直接の声かけをしました。加入対象者が少ないことも影響していますが、現在のところ5名が新加入となっています。役員会は、この3年間のとりくみ成果を土台にして加入拡大をめざすことにしており、10月～12月を強化期間として位置づけ下記のとりくみを行っています。

①引き続き2022年3月定年退職者、再任用者、再任用終了者で未加入者へ働きかけます。

1. 役員と面識や交流のある対象者へ事前に勧誘ハガキを送り、その後直接電話等で加入をすすめます。
2. 役員以外で対象者と面識や交流のある網退教会員を介して入会をすすめます。
3. 加入の返答を得られなくても、当面「オホーツク便り」の配布について了解を得ます。

②加入対象者には同世代（網退教青年部？）からの接触が有効と考えられるため、直近5年以内で加入した会員へ同世代の未加入者へ働きかけをってもらうよう要請します。具体的には、協力依頼文書を加入会員へ送り、知人・元同僚など対象者への呼びかけを計画します。

1. 2018年4月以降の新会員（32名）に依頼文書（電話含む）を送付し、同世代や同僚など加入対象者に声かけや紹介を要請します。
2. 紹介され該当者に対し事務局からも連絡し資料等を送って入会をすすめます。

3. 組織強化並びに加入拡大をはかる日常活動の見直しについて

加入拡大を念頭においたこの3年間のとりくみで痛感するのは、(1) 現状組織が会員にとって身近な存在になっているのかどうか、企画や行事など日頃の活動が会員のニーズを反映したものであるのか検証し改善することが必要であること、(2) 組織拡大のとりくみについては、従来の手法を見直し新たな視点で工夫を重ねていくことです。網退教は、このような観点で組織や活動の見直しをすすめています。

(1) 再任用期間中の会費を免除することを決定

北教組組合員の多くは定年後も再任用で勤務し北教組にも引き続き加入しています。再任用で網退教へも加入してもらうことがベストであることはいうまでもありません。しかし、日常活動はどうしても分会や支会が中心となるため、再任用組合員の網退教活動参加は皆無に等しいのが実態です。その場合、組合費(本部費月額 2,000 円×12ヶ月=24,000 円、支部・支会・分会費は免除)の他に年間2,000円といえども現行規定では会費を徴収することになっています。

<今年度の書面総会で確認>
定年退職後、再任用となる組合員の
網退教会費を免除する(2022.4月~)

役員会はこれらの状況をふまえ今年度の総会(書面決議)に再任用期間中の網退教組合員の会費免除を提案し了承されました。

(2) 組織強化拡大を補強する日常活動の見直しについて・・・全員アンケートの実施

網退教の活動をすすめるにあたっては、前述したとおり組織運営と活動実態が会員のニーズに corres 資料12~13参照 pondするものになっているか節目ごとに検証と見直しが必要です。役員会ではとりわけ各種行事(パークゴルフ大会会、麻雀大会、女性部企画)は定着しているものの、北見市内での開催など管内的な地域事情が反映されていないことが懸念されるため、会員の声を直接聞くための全員アンケートを実施することにしました。

①アンケートの趣旨

- ・網退教の行事がこのままで良いかどうか。他の行事や企画を検討する必要があるか。
- ・各種行事が北見市開催となっている点について会員はどう考えているか。
- ・「オホーツク便り」をより身近な広報にするための意見要望集約。

②アンケートの設問内容について

別紙「網退教アンケート用紙」参照

③アンケート実施にむけた手順

10月上旬まで	アンケート内容の検討と確定、会員への依頼文書作成、アンケート印刷作成
10.14(金)	アンケート配布 広報「オホーツク便り」と同送
10.28(金)	アンケート投函〆切
11.7以降	アンケート回答集約、整理
11月中旬以降	役員会へ報告、分析、検討
12月~1月	アンケート結果を「オホーツク便り」に掲載し会員へ報告、次年度の活動に反映させるための役員協議
2月~3月	新年度活動計画検討、総会議案作成

4. 今後にむけた網退教の課題

網退教は1974年に設立され47年の歴史を刻んできました。当時は総評が労働運動を牽引し日教組も主任制反対闘争でストライキを配置するなど労働組合が元気な時代だったこともあり、組合加入がごく自然で組織率も100%に近いものがありました。退職後は網退教（北退協）に加入するのがあたりまえで、多くの管理職退職者も加入しており、退職者組織の草創期・隆盛期とも言える時代でもありました。

しかし、1990年代後半から2000年代に入るとしだいに状況が変化してきます。現場では初任者研修、査定昇給制度、教員免許更新制度など教職員への管理統制と分断をねらう政策が矢継ぎ早に強行されました。北教組に加入しない教職員や脱退する組合員が出てきて組織率も降下曲線を描き始めました。とりわけ2010年以降、道教委の協定書破棄や熾烈な北教組攻撃、学校現場の超多忙化で教職員が疲弊、組織離れが顕著になってきています。これらのことは当然退職者組織にも影響し組合員であっても退職後は網退教に加入しない例が増加し、今は混迷期・苦境期と言っても過言ではありません。

それでも一つ明白なことがあります。現在加入している会員のほとんどは人生をまっとうするまで会員であり続けていることです。さまざまな苦難や攻撃に立ち向かい生活と権利を守り、平和と民主教育の確立をめざし団結してきた大先輩の生き様さまが今の網退教の土台であることに異論はありません。一方でこの組織を現代風に存続させていくために知恵を出し合う必要があります。

それは、加入するあるいは加入している理由が様々だからです。「親睦行事で昔の仲間と交流したい」「平和学習が大切」「教育現場への介入や攻撃に反対」「同窓会のようなもの」「現職仲間を応援できる活動」などひとくりにできないというより、ひとくりにしない組織になるべきと言えます。このように考えながら網退教の組織拡大に関する課題を整理すると下記の点についてさらなる検討と改善が必要です。

- ① 会員の世代を考慮した各種事業・行事の見直しを継続
(現在は新年会、総会、パークゴルフ大会、麻雀大会、女性のつどいが主なもの。参加者も固定化している。全員アンケートでの声や要望を大事にして事業や行事を考案)
- ② 北見市中心の活動を改善
(企画・行事を地域輪番制で実施するなど地方居住の会員も参加できるものにして、網退教が地方でも身近に感じる組織に)
- ③ 組織拡大のキーポイントは「現退一致」と「網退教育年部？」
(加入拡大は、今後とも支部・支会・分会との連携ですすめることを継続する。また、加入対象者への声かけは、同世代からが効果的のため若い会員〈網退教育年部？〉で構成するチームをつくり、新しい発想やアイデアでとりくむことを検討)
- ④ 再任用期間中の加入促進
(定年退職後、再任用を理由に加入を見合わせる例が多い。今後定年延長により再任用も過渡期になるが、再任用期間中の会費免除も活用して加入を強くすすめる)

「福利厚生と経済的、社会的、政治的地位の向上をはかる」ことを目的とし、第一義的な活動を会員相互の親睦と学習においた組織であっても加入者が減り苦慮しています。「入るのがあたりまえ」は遠い彼方の話で「入る、入らないは選択」の時代になってしまいました。この現状を克服していく秘策は見当たりませんが、少なくとも現在の活動内容が会員の多種多様なニーズに corres pond しているかの検証が重要です。換言すれば「ゆるくて、しなやかで、筋もある」組織が求められているのかもしれませんが、それでも一つ全会員が一致できることがあります。1951年日教組が採択した「教え子をふたたび戦場に送るな」この反戦・平和への強い決意を示したスローガンは、退職してもなお私たちの胸に深く刻まれています。憲法違反の集団的自衛権行使容認を閣議決定し、数の力で安保法制を強行した自公政権の「戦争できる国づくり」を押しとどめる声を広める受け皿にもなるよう加入拡大をより一層とりくむことが大切です。

<定年退職者の加入にむけたとりくみに関するスケジュール>

網退教加入拡大のとりくみに関する日程と内容

2021.1.26 第7回網退教役員会

	網退教	支部・支会	分会
1月下旬	網退教から具体的とりくみに関する提案文書、支会・分会依頼書、加入案内チラシ、入会申込書等を作成して北教組網走支部へ提出		
2月上旬	網退教役員が3月末日の退職者へ直接加入呼びかけ(知人、元同僚)	網退教からの加入拡大への協力依頼を受け、支部戦術会議(リモート)でとりくみを支会へおろす。 支会は分会へおろす。(可能な支会は分会長会議)	
2月中旬		支会は各分会の退職組合員を把握(定年・定年前)	分会長が3月末日までに退職する組合員(定年・定年前問わず)並びに再任用終了で網退教未加入組合員(再任用前は組合員の場合含む)に加入案内チラシ、入会申込書などを渡し入会への声かけを行う(2月26日までをメド)
2月下旬			
3月上旬		支会は網退教加入者名を支部へ報告	加入する退職組合員は入会申込書に記入し返信用封筒で直接網退教事務所へ郵送する。
3月中旬	網退教から改めて退職組合員へ勧誘の文書を分会送付する(加入者除く)		分会は網退教加入者名を支会へ報告
3月下旬	「入会検討中」「すぐ入会は？」等の場合は一定期間「林-ツ便り」送付の希望有無を確認、住所・連絡先を把握する。		
4月	加入者歓迎紹介、本人一言(林-ツ便り掲載)		

<北教組網走支部が戦術会議で提起したとりくみ原稿>

網退教・北退教への加入・拡大に協力するとりくみ

1. 経過

北退教（北海道退職教職員連絡協議会）は、退職教職員の福利厚生と経済的・社会的地位の向上を目的として1974年に結成され、同時期にオホーツク管内を活動基盤とする網退教（網走退職教職員協議会）も組織されました。網退教は、北退教に加盟するとともに現在まで以下のような日常活動を行っています。

北退教（北海道退職教職員連絡協議会）	約 5,000 名
網退教（網走退職教職員協議会）	約 420 名
会費 年間 2,000 円（網退教・北退教合計）	

- (1) 会員相互の親睦と交流（パークゴルフ大会、麻雀大会、女性のつどい、懇親会、ブロック交流会等の企画実施）
- (2) 年金・医療制度の改善と社会保障の充実を求める活動（各種署名への協力）
- (3) 民主教育の発展確立と護憲・平和運動（学習会・集会への参加や行動）
- (4) 広報「オホーツク便り」の発行と会員への配布

とりわけ民主教育や平和運動に関しては、従来から北教組がとりくむ集会や行動に積極的に参加してくれています。また政治課題においても、支部・支会のとりにくみをカバーすべく「現退一致」を合言葉に活動しており、支部・支会・分会にとっても心強い存在です。

網退教は、退職しても孤立することなく仲間同士の交流や情報交換を大切にしながら、「1人で言えばグチになる。みんなで言えば声になり力になる」をモットーに元気よく活動しています。しかし、昨今は加入者数の減少傾向がすすみ組織拡大が順調にすすんでいないことは否めません。

そのため加入拡大が最重要課題になっており、過年度の退職者に直接コンタクトをとるなど工夫をしながらとりにくんでいます。とりわけ3～4月期を組織拡大強化月間として位置づけ新たな退職者への加入促進に注力しています。その一環として支部にもとりにくみへの協力要請がありました。

支部としては、北教組の平和と民主教育の確立や政治課題のとりにくみなど、今後とも現退一致の観点で相互の協力と支援が不可欠であるため、今回の要請に積極的に応え下記のとりにくみをすすめることとします。

■ 網退教・北退教加入対象者

- (1) 2021年3月末日までに退職する北教組組合員（定年、定年前を問わない）尚、定年退職するが4月以降も再任用となる組合員も含まれます。

<規約上は組合員以外の退職教職員も加入することができますが、昨今の実績がないため今回は対象外>

- (2) 再任用勤務が3月末日で終了し網退教に加入していない組合員。
（再任用以前に北教組組合員であった場合も含まれます）

- 会費 2,000円（年額）・・・網退教(700円)、北退教(1,300円)合計で年額 2,000円
加入後、網退教より払込用紙が送付されるので1年間分として納金する。（現金納入も可）

■ 網退教からの要請事項<要約>

3月末日までに退職する北教組組合員に対し、網退教・北退教への加入を呼びかけるチラシ等を配布し、とりわけ分会では加入への声かけをお願いします。

2. 具体的とりくみ

(1) 支部のとりくみ

網退教・北退教の組織拡大強化期間のとりくみに協力するため下記の書類を支会に送付します。

・支会、分会長宛の要請文書（網退教会長名）	分会数分十予備
・網退教加入案内チラシ	対象者予想部数
・網退教入会申込書<網退教に入会すると同時に北退教加入>	//
・入会申込書返信用封筒	//

(2) 支会のとりくみ

①支会は、網退教からの要請に協力するよう各分会へ連絡し、網退教・北退教加入対象者を把握します。同時に下記の書類を配布します。

・支会、分会長宛の要請文書（網退教会長名）	必要分会数
・網退教加入案内チラシ	必要部数
・網退教入会申込書<網退教に入会すると同時に北退教加入>	必要部数
・入会申込書返信用封筒	必要部数

②分会から網退教への加入連絡があった場合は、加入者名を支部に連絡します。（電話 or メール）

(3) 分会のとりくみ

①2020年度末（3月31日）までに退職する組合員（再任用終了者含む）がいる分会は、下記の書類を対象者に渡しながらか、網退教から加入の案内がきていることを伝えます。この働きかけを2月26日（金）までに行います。

・網退教加入案内チラシ
・網退教入会申込書<網退教に入会すると同時に北退教加入>
・入会申込書返信用封筒

②加入を確認した場合は、本人が「網退教入会申込書」に必要事項を記入し、返信用封筒に入れて直接網退教事務局（〒090-0834 北見市とん田西町314 学生協会館2F）へ持参するか郵送します。その際の切手代は、おそれいりますが本人又は分会で負担をお願いします。（尚、網退教は北退教に加盟しているため網退教加入は即北退教会員ともなります。）

対象者は、前述したとおりですが、最近では定年退職後4月から再任用になるため網退教加入を見送る例が見受けられます。再任用で北教組と網退教の両組織に加入している人も多く何ら問題はありませぬ。網退教は「再任用になった時から是非加入を」と呼びかけています。

③分会は、網退教に加入する退職組合員の氏名を支会に報告します。

支会長・分会長 様

網走退職教職員協議会
会長 橋本 瑩 示

網退教（北退教）の加入拡大に対すとりくみへの協力要請（お願い）

日頃から網退教へのご支援とご協力をいただき大変ありがとうございます。多忙化と管理強化が強いられて久しい学校現場は、コロナ禍が追い打ちをかけて教職員の皆さんや子どもたちに更なる負担をかけていることと察します。本当にお疲れ様です。

網退教（網走退職教職員協議会）は、退職した教職員で構成され、オホーツク管内を活動基盤とする組織で現在約450名の仲間が加入しています。

通常の活動は、会員相互の親睦と交流（パークゴルフ大会、麻雀大会、女性のつどい、懇親会、ブロック交流会）を中心にしながらも民主教育の発展確立と護憲・平和運動（学習会・集会への参加や行動）も行っており、まさしく「現退一致」を大切にしながらとりくんでいます。

しかし、どの組織にも共通しますが、網退教もまた年々加入者が減少傾向をたどり加入拡大が重要になっています。これまで「教職員共済退職者説明会」での呼びかけや該当者への「加入勧誘文書」を配布するなどしてきましたが、できれば支会・分会の皆さんのご協力をお願いできないかどうか支部に相談したところ了解を得たところです。

網退教は、地公法や地教行法にまったく制約されない団体です。会員にとって天災、病気以外に怖いものはありません。これからも現職ではなかなか言いづらいことを代弁し、行動しづらいことを代行し、皆さんの応援団になれるよう努力をしていきたいと思えます。

年度末をひかえてお忙しいところ申し訳ありませんが、このたびの要請につきましてどうぞご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

記

1. 要請内容

3月31日までに退職する北教組組合員に網退教からの「ぜひ加入を待っています」との呼びかけを伝え下記の書類を本人に渡していただくこと

2. 該当者

(1) 定年退職者・定年前退職者（勸奨、自己都合）

<定年で4月以降も再任用になる場合もぜひ加入をお勧め願います>

(2) 再任用勤務が3月末日で終了し網退教に加入していない組合員

<再任用以前に北教組組合員であった場合も含みます>

3. 該当者への配布物

- ・ 網退教加入案内チラシ
- ・ 網退教入会申込書 <網退教に入会すると同時に北退教加入>
- ・ 入会申込書返信用封筒

退職したら網退教・北退教へ！

3月で退職される皆さん長い間本当にお疲れ様でした。おそらく皆さんは、子どもの学びと成長を願いながら実践を積み上げ職場の中心的な役割を担ってこられたと思います。また、北教組組合員として仲間の信頼を得ながら民主的な職場づくりに力を発揮されたことに対しても心から敬意を表します。

4月から引き続き再任用で勤務する方も多いと思いますが、まずは一区切りといったところでしょうか。退職後は、悠々自適に暮らしたいものですし、実際にそうした時間も大切です。しかし、年金、医療、福祉の切り下げや、自己負担の増大など心配なことも多々生じてきます。

網退教（網走退職教職員協議会）は、仲間同士の親睦と交流をはかり、退職後の生きがいを見つけつつ、時には教育や平和についてもとりくむ居場所です。楽しくもあり有意義な退職後の生活を一緒につくりましょう！皆さんの入会をお待ちしています。

網走退職教職員協議会 会長 橋本 瑩 示

網退教って？

正式には、網走退職教職員協議会と言います。1974年頃、オホーツク管内の退職教職員で組織され約420名が加入。北見・網走・遠軽・紋別ブロックで構成されています。



北退教は？

北海道退職教職員連絡協議会です。各地区の退職教職員協議会（道内24地区+道外在住で加入者）が加盟し会員数は約5,000名、もちろん網退教も入っています。北教組流に言えば、北退教が北教組本部で網退教が支部です。

どんなことしてるの？

1. 何と言っても第一は親睦と交流（パークゴルフ、麻雀大会、女性のつどい、ブロック交流会）年1回総会も行っています。
2. 定期的に通信「オホーツク便り」を発行し、「北教」＜北退教版＞と併せて皆さんへ配布しています。
3. 医療・年金・福祉の充実を要求して署名などに協力。
4. 平和を守り民主教育を確立していくための集会などにも参加。ときどき現職組の応援団になります。

網退教



対象者や会費は？

定年退職、定年前退職（勸奨、自己都合）問わず小中学校、高校、学生協の退職者が対象です。3月末日再任用終了で未加入の方、また、4月から引き続き再任用の方も対象なのでぜひ入会ください。（規約上は、北教組組合員以外の方も入れますが近年の加入者は、ほぼ組合員です）

会費は、1年間で2,000円で網退教分700円、北退教分1,300円。納入は毎年1回で春に事務局（会計係）より連絡がきます。

一人で言えばグチになる。みんなで言えば声になり、力になる！

コロナ収束後は交流会も
〈一昨年の紋別ブロック〉



「最大の悲劇は、悪人の压制や残酷さではなく、善人の沈黙である。黙するようになったとき人々の命は終わりに向かい始める」アメリカの黒人解放運動家、故マーティン・ルーサー・キング牧師の言葉です。

今まで頑張ってきたんだから、退職したら「もういいっしょ」と思ってしまうがち。でも人生八十年どころか九十年も驚かない時代です。仲間との交流や近況交換の場、「付度」「改ざん」「嘘」がはびこる政治に黙することなく一言もの申す「おじさん、おばさん」集団の「網退教」が待っています。

網退教事務所

〒090-0834
北見市とん田西町314
学生協会館2F
☎ 0157-24-4848

＜対象者へ送付する加入よびかけ文書＞

2021年3月16日

様

網走退職教職員協議会
会長 橋本 瑩 示

網走退職教職員協議会（網退教）加入のお誘い

学校現場も年度末をひかえ多忙な毎日をお過ごしのことと思います。3月で定年又は再任用が終了する皆さんにとっては、長年の学校勤務に格別の思い出があると察します。特にこの1年間は、新型コロナウイルスの感染や拡大防止のため、一斉休校、分散登校、学校行事の中止・見直し、授業計画の変更、校内3密回避の困難など数限りないほどの対策に翻弄され続けた1年だったのではないのでしょうか。ともあれ職場仲間と幾多の苦楽をともにしながら一つの区切りを迎えたことに心から敬意を表します。

さて過日、支部・支会・分会を通じて網走退職教職員協議会（網退教）の資料をお届けし加入のお誘いをしたところですが、案内チラシでも触れましたが、網退教は、退職した教職員で構成され、オホーツク管内約450名の仲間が加入しています。会員相互の親睦と交流（パークゴルフ大会、麻雀大会、女性のつどい、懇親会、ブロック交流会）を中心にしながら活動しています。また、民主教育の発展を願うとともに護憲・平和運動（学習会・集会への参加や行動）も行っており、まさしく「現退一致」を大切にしながらとりくんでいます。残念ながら昨年来コロナ禍の影響を受け一部の屋外行事を除き総会・交流会等は自粛していますが、会報の発行を通じてとりくみ報告や情報発信を行っています。

今回、改めまして網退教へのお誘い文書を送ります。皆さんの加入をお待ちしていますのでよろしくお願い致します。

尚、「加入しないと決めたわけではないが、4月からの加入は決めていない」「もう少し考えてから」などの理由で保留という方もいらっしゃると思います。その場合は、一定の期間、網退教の広報「オホーツク便り」を送付することも可能ですのでご検討ください。

記

1. 網退教に加入する場合は、別紙の「入会申込書」に記入して返送をお願いします。＜返送用切手代は負担をお願いします。＞
会費は1年間で2,000円で後日払込用紙をお届けします。
2. 網退教加入を保留中の方は、とりあえず広報「オホーツク便り」をご覧いただきたいと思えます。一定の期間送付しますので、希望する場合は、別紙の広報「オホーツク便り」送付申込書に記入して返送をお願いします。（1と同様切手代は負担願います）

尚、上記1. 2の返送については、FAXでもかまいませんので下記宛にお願いします。

＜ FAX 0157-57-1990 網退教事務局長 渡部 薫 ＞

※ すでに入会申込書を網退教事務局に発送後、この文書が到着した場合は行き違いですので申し訳ありません。ご容赦ください。

退職したら網退教・北退教へ！

<加入した会員への歓迎文書と網退教だよりへの原稿依頼>

2021年3月 日

様

網走退職教職員協議会
会長 橋本 瑩 示

網退教への入会歓迎と広報への原稿依頼について

ようやく春のきざしを感じる季節を迎えました。3月31日付で定年や再任用終了で学校現場を離れる方は残務整理などに多忙なことと思います。また、引き続き再任用で勤務する方は新年度の準備に慌ただしい毎日を過ごしていることと推測します。

さて、このたびは網退教へ入会いただきありがとうございます。心から大歓迎します。残念ながらコロナ禍により網退教もこの1年、親睦行事や総会の中止などで思うようなとりくみができず歯がゆい時を過ごしています。今後も感染状況を見極めながらのとりくみが想定されるため、入会の皆さんへの歓迎の場をもうけることもメドがたちません。

このようなこともあり網退教としては、広報「オホーツク便り」の紙面づくりに工夫を加えながら会員間の交流や情報提供につとめていきたいと思ひます。

つきましては、今回入会した皆さんからも一言メッセージをいただき、新会員紹介として順次「オホーツク便り」に掲載したいと思ひます。お忙しいところご面倒をおかけしますがご協力をお願い致します。

記

- 別紙に「網退教入会にあたっての一言」を記入して返送をお願いします。文字数は300字以内であれば何字でもかまいません。内容も何でもOKです。

4月15日（木）までに網退教事務局へお願いします。原稿は4月以降の網退教広報「オホーツク便り」に順次掲載します。

- 原稿の返送は下記のいずれかの方法でお願いします。

1. 同封した封筒に入れて投函してください。

2. FAXで送信してください。

< FAX 0157-57-1990 網退教事務局長 渡部 薫 >



網退教広報「オホーツク便り」掲載原稿

氏名 _____

※ 網退教入会にあたって一言、下欄に記入をお願いします。字数は300字以内であれば何字でもかまいません。

<「加入を検討中」「すぐ入会は？」など考慮中の対象者向けに「網退教だより」送付>

網退教広報「オホーツク便り」送付申込書

<網退教に入会する場合は、この申込書の提出は必要ありません>

申込年月日 年 月 日

下記のとおりオホーツク便りの送付を希望します。

ふりがな	
氏 名	
住 所	〒
電話番号	
退職年月日	
退職時学校名	
備 考	

<役員や会員が面識や交流のある加入対象者へ事前に送る勧誘ハガキ>

網退教からのお願い

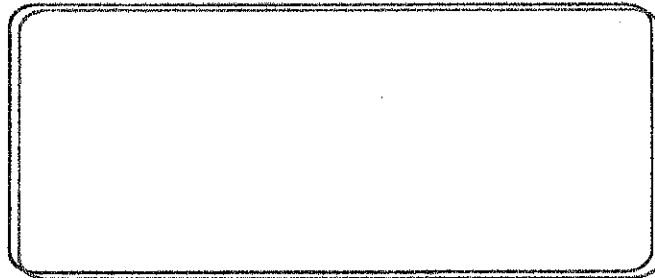
定年退職されてからいかがお過ごしでしょうか？ ハードな現職時代の生活から解放され身も心もリフレッシュしている方、あるいは、引き続き再任用で活躍されている方も多いと思います。

網走退職教職員協議会（網退教）は退職者の親睦と交流をはかることを第一としながら、現退一致のもと平和と民主教育を守るとりくみも大切にしています。

人生80年どころか90年の時代、まだまだこれからの生活充実させたいものです。その一つとして現職時代の仲間同士で旧交を温め合ったり、近況を語り合ったりする機会を増やしませんか。

この機会にぜひ網退教への加入をお待ちしています。どうぞ仲間からの声かけに耳を傾けていただきますようお願い致します。

網走退職教職員協議会 会長 橋本 瑩 示



住 所

名 前

連絡電話番号

2022年10月14日

網退教会員 様

網走退職教職員協議会
会長 橋本 瑩示

網退教の新会員加入推進に関する協力要請について（お願い）

止まらない物価高と収まらないコロナウィルスで毎日の暮らしが制限され、年金生活の退職者にとっても厳しい毎日が続いています。

網退教（網走退職教職員協議会）の活動に関してもこの2年、総会や各種行事の開催を中止せざるを得ない状態が続いています。言うまでもなく網退教は退職者の生活を守るために活動するとともに会員同士の交流をはかることを主目的にした組織であり、かつては退職者のほとんどが加入した組織でした。

しかし、昨今は「現職組合員数の減少」や「会員の高齢化に伴う退会」などの影響もあり新規加入者数が減少しており、今後のとりくみを維持するためにも新会員の加入拡大が大切です。

役員会は、この間加入拡大活動を強化するため、網走支部への協力を要請しながら支会・分会とともに退職予定者への加入よびかけをすすめ、加入者増など現退一致による一定の成果を得てきました。日常活動に関しても北見・網走ブロックのみならず、遠軽・紋別ブロックでの交流も開始しています。組織の運営維持と加入拡大には、日常活動の見直しとセットにしたとりくみが不可欠なことを痛感しています。

網退教は10月を組織加入拡大期間としてとりくむために、特にこの5年内での退職者や再任用者への呼びかけを行う計画ですが、学校現場を離れて年数が経過した役員も増え、昨今の退職者とのかわりが希薄になっている現状があります。

つきましては、最近網退教に加入された皆さんへのお願いです。知り合いの方で未加入の退職者（再任用者）がいましたら下記のとりくみについてご理解をいただき可能な場合はご協力をお願い致します。

記

1. 最近（5年程度）の定年退職者（再任用者を含む）で網退教に加入していない元同僚や友人をお知りの場合は、ぜひ網退教への加入について声かけをお願いします。
2. 加入への働きかけはどのような方法でもかまいません。（電話、メール、直接会う機会 etc）
3. 網退教の「勧誘ハガキ」も同封しますので必要に応じてご利用ください。下欄に自分の名前とメッセージを記載して対象者へ送付をお願いします。（申し訳ありませんが切手代はご協力をお願いします。利用しない場合はハガキを処分してください）
4. 対象者が網退教に関する資料を希望する場合は、事務局から対象者に加入案内の資料や便りを送付します。その場合は下記のいずれかへ連絡をお願いします。

網退教連絡先	事務局長	渡部 薫	☎	0157-57-1990	090-7642-6420
	副会長	原田 敏博	☎	0157-61-7000	090-7055-9157

2022年10月14日

網退教会員 様

網走退職教職員協議会
会長 橋本 瑩 示

網退教の日常活動に関するアンケートの実施について（お願い）

新型コロナウイルス感染症の収束については、いまだにその兆しが見えないため会員の皆さんも感染防止策を継続する毎日が続いていることと思います。

網退教の活動に関してもこの2年、総会や各種行事の開催を中止せざるを得ない状態が続いています。言うまでもなく網退教は退職者の生活を守るために活動するとともに会員同士の交流をはかることを主目的にした組織であり、かつては退職者のほとんどが加入した組織でした。

しかし、昨今は「現職組合員数の減少」や「会員の高齢化に伴う退会」などの影響もあり新規加入者数が減少しており、加入拡大が急務となっています。

また、年間行事は、総会・交流会、パークゴルフ大会、麻雀大会、女性のつどいなどが長年の積み重ねで定着していますが、いずれも北見市で実施されており遠方の会員にとっては参加できない実態があります。従って日常活動の改善に関しても検討しなければなりません。

これらの状況について役員会で協議した結果、各種行事をはじめとした現在の活動に関して、会員の皆さんの声を聞きながら改善していくために全員アンケートを実施することにしました。アンケート用紙を配布しますので下記の要領で記入し期日までに郵便ポストに投函いただきますようご協力をお願いします。

記

1. 網退教全会員に「アンケート用紙」と「返信用封筒」を「オホーツク便り」と一緒に配布します。

- ①「オホーツク便り」を手配りで受けとっている会員の皆さんへは、班長さんが「アンケート用紙」と「返信用封筒」を配布します。
- ②「オホーツク便り」を郵送で受けとっている会員の皆さんへは「アンケート用紙」と「返信用封筒」を同封して送ります。

2. 記入したアンケート用紙は返信用封筒に入れて郵便ポストに投函してください。
<10月28日（金）までに投函をお願いします>

3. 役員会はアンケートの集約結果を「オホーツク便り」に掲載して報告するとともに次年度以降の活動内容に反映させます。

<参考> 網退教の市町村別会員数

市町村名	会員数	市町村名	会員数	市町村名	会員数
斜里町	3	置戸町	1	興部町	2
清里町	0	訓子府町	2	西興部町	0
小清水町	1	佐呂間町	4	雄武町	0
大空町	1	遠軽町	23	網走市	51
美幌町	13	湧別町	2	紋別市	16
津別町	1	滝上町	0	北見市	244
合 計					364

第28回「日退教組織活動交流集会」(2022年10月14日)

レポート

第2分科・分散会 「教育・人権・文化・組織」

② 「組織拡大・強化のとりくみ」

瓶子高裕 (福島県退)

第28回退教組織活動交流集会レポート

単会名 福島県退職教職員協議会 組織拡大・強化の取り組み

1 組織の現状について

○ 会員数 440名 県内 8支部

2010年度の予算案では会員数は790名であったが、2022年度の会員数は上記のとおりである。また3支部は、役員の体調不調や会員の極端な減少により消滅している。

その原因と背景は次のように指摘できる。

- ① 現職の組織率の低下と比例して、執行役員や組合員の退職の人数が減少し、自然に会員の加入が減っている。
- ② 年金支給開始年齢が繰り下げになり、再任用の制度が導入された。現在はほとんどの教職員が定年退職後も学校で勤務しており、年齢的にも体力的にもきつい状況にある。したがって、組合員や役員であっても、その他に組織的活動をすることに強い抵抗感がある。その結果として、組合員または役員であっても県退教協に参加しない。
- ③ 上記の①と②に関係しているが、退教協の支部役員や県役員が固定化し、結果として高齢化してきており、署名活動や集会に対しての取り組みが年々困難となっている。
- ④ 福島的には2011年の東日本大震災と東京電力原発事故の影響、またコロナ感染拡大により、会議、集会等が困難になり、取り組みや活動が見えにくくなっている。

2 県本部や支部活動における課題

① 本部財政の課題

県では年会費1,000円であるが、現職の組合の財政状況から補助金として支出されていたものがなくなってきているなかで、予算の編成が困難になっている。

② 各支部では役員や会員等が高齢化し、会費集金が困難となっている。郵送や振込用紙などでの集金を実施している支部でも未納等の処理が事務的に負担となっている。

県としての取り組み

1 県からの直接の加入の働きかけの実施→資料1

3年前から県内の定年退職の組合員全員に文書による加入の働きかけをしている。

- ① 定年退職する組合員のデータは福島県教組から提供してもらう。
- ② 文書は在籍する学校宛に新聞発表後に到着するように発送している。(個人情報)

結果

2020年度 17名 2021年度 15名 2022年度 6名(現在)

2 組織強化のための事務局員体制の整備→資料2

・県事務局の強化と各支部事務局体制の強化のために事務局員体制を整備した。

3 県会報の発行→資料3

・県の活動等の周知のため、県事務局員会を中心にして県独自の会報の発行を開始。現在までにN.2を発行。定期的に発行することを目標にしている。

第28回退教組織活動交流集会レポート

単会名 福島県退職教職員協議会 組織拡大・強化の取り組み

1 組織の現状について

○ 会員数 440名 県内 8支部

2010年度の予算案では会員数は790名であったが、2022年度の会員数は上記のとおりである。また3支部は、役員の体調不調や会員の極端な減少により消滅している。

その原因と背景は次のように指摘できる。

- ① 現職の組織率の低下と比例して、執行役員や組合員の退職の人数が減少し、自然に会員の加入が減っている。
- ② 年金支給開始年齢が繰り下げになり、再任用の制度が導入された。現在はほとんどの教職員が定年退職後も学校で勤務しており、年齢的にも体力的にもきつい状況にある。したがって、組合員や役員であっても、その他に組織的活動をすることに強い抵抗感がある。その結果として、組合員または役員であっても県退教協に参加しない。
- ③ 上記の①と②に関係しているが、退教協の支部役員や県役員が固定化し、結果として高齢化してきており、署名活動や集会に対しての取り組みが年々困難となっている。
- ④ 福島的には2011年の東日本大震災と東京電力原発事故の影響、またコロナ感染拡大により、会議、集会等が困難になり、取り組みや活動が見えにくくなっている。

2 県本部や支部活動における課題

① 本部財政の課題

県では年会費1,000円であるが、現職の組合の財政状況から補助金として支出されていたものがなくなってきているなかで、予算の編成が困難になっている。

② 各支部では役員や会員等が高齢化し、会費集金が困難となっている。郵送や振込用紙などでの集金を実施している支部でも未納等の処理が事務的に負担となっている。

県としての取り組み

1 県からの直接の加入の働きかけの実施 →資料1

3年前から県内の定年退職の組合員全員に文書による加入の働きかけをしている。

- ① 定年退職する組合員のデータは福島県教組から提供してもらう。
- ② 文書は在籍する学校宛に新聞発表後に到着するように発送している。(個人情報)

結果

2020年度 17名 2021年度 15名 2022年度 6名(現在)

2 組織強化のための事務局員体制の整備 →資料2

・県事務局の強化と各支部事務局体制の強化のために事務局員体制を整備した。

3 県会報の発行 →資料3

・県の活動等の周知のため、県事務局員会を中心にして県独自の会報の発行を開始。現在までにNo.2を発行。定期的に発行することを目標にしている。

2022年3月24日

資料1

退職教職員の皆さん！ 退職後は県退職教職員協議会へ参加を！

福島県退職教職員協議会 会長 浦井 信義

今年度3月末に退職される教職員の皆さん、長い間学校現場での教育活動、大変ご苦勞さまでした。特にこの一年は新型コロナウイルス対応でたいへんなご苦勞をされたことと思います。3・11の地震・津波・原発事故という3重の被災と今回の新型コロナ、安定した教育環境からはほど遠い状況下での皆様の活動に対して、心から敬意を表したいと思えます。皆様の多くは、退職後も再任用制度などで学校現場に残り、再度教育活動に関わる方が多いと思えます。また学校現場を離れて、別の仕事等に就かれる方もおられるかと思えます。皆様方のご健康とご活躍をお祈りいたします。

さて皆さんは、現職時には教育実践とともに組合員としてさまざまな活動もされてきました。退職後も平和と民主主義を守るため、県教組等と連携し活動している福島県退職教職員協議会(県退教協)に参加していただきたいと思ひ、手短かに活動等を紹介させていただきます。(※活動内容に関わる若干の資料は同封しました。)

県退教協は、退職後の心身ともに豊かな生活をめざす活動と現職の県教組や平和フォーラム等と連携しながら活動を行っています。県内には各地区に支部があり、それぞれの活動を実施しています。例えば、会員の交流を深めるための支部総会や交流会、懇親会、健康づくりの歩こう会、趣味や学習を深める研修旅行、作品展などの活動も各支部独自で実施しています。

県としては、隔年開催での大会や全県支部代表者会、学習会などを実施しています。東北6県の退教協との協議会や交流会も行っています。

しかしながら、2021年度はデルタ株の感染拡大やオミクロン株の感染拡大のため、支部や県単位での活動が思うように実施できませんでした。今後、ワクチン等の接種状況も注視しながら徐々に活動を活発にしていきたいと考えております。

県教組や平和フォーラム等と連携して行う活動としては、民主主義、平和、人権を原則とした日本国憲法を守り、生かしていく運動が中心となります。また福島県の原因事故に象徴される核にたよった国のエネルギー政策を転換させていくことも重要な課題として、署名の取り組み、集会等の参加等に取り組んでいます。

このような活動に賛同していただき、別紙郵便局振込用紙にご記入の上、県退教協に参加していただきますよう心よりお願いいたします。

連絡先 福島市上浜町10-38福島県教育会館内

弘済会内 県退教協事務局長 竹中 柳一

TEL 024-522-6522 (FAX 024-522-7751)

2021年度9月定期大会提案事項概要

資料2

第二号議案 福島県退職教職員協議会規定と運営規定改正

協議会規定に関わる部分

・ 県の運営のスリム可

○大会を各年とし、大会のない場合には代表者会を開催。

○在福役員規定の削除

・ 運営規定に関わる部分

① 各支部の財政の自立の観点から支部交付金(各支部3万円)に関わる部分は削除する。

② 活動の強化のために運営規定に事務局員を位置づける。

ア 組織強化さらに活動に際しての事務的負担の分散

イ 事務局員の組織強化等の活動として想定しているもの。

○今後の県・支部活動の精選と強化

○会報編集と発行等(中期的課題)(組織強化)

○県内会員への直接の周知等を実施するための県教組ホームページの活用(退職教職員協議会としてのページの作成)

○県内会員名簿の集約と整理 等

③ 活動を支援するために、財政的な措置を実施する。(具体的には、日当は2000円と旅費、3時間以上の事務的作業をとまなう場合には日当3000円と旅費とする。※昼食は原則的に提供しない。)

④ 県北、会津、県中南、相双の4つのブロックから最低1名の事務局員を選出する。

現在 県北4名 県中南 1名 会津 1名 相双 1名 計 6名

第三号議案 旅費基準表の改定

○ 事務的負担の軽減、会議と動員の格差の是正、

福島県退職教職員協議会 会報 No1

2021年12月 発行責任者 浦井 信義

資料3

浦井会長 あいさつ

各支部の皆さんは昨年度に引き続き今年も、コロナウィルスの対応で大変苦勞されたかと思えます。県退教協も昨年度は大会の代わりに全県代表者会議を実施し、今年度は大会を5月から9月に延期し、代議員数も各支部半数にして開催しました。

コロナの感染拡大状況は、国内では10月中旬から急減し、現在は一日全国計で100人台になっていますが、世界では欧米を中心に感染が拡大し、一日1万人以上の感染者が多く出ている。さらに、新たな変異株（オミクロン）が流行して、感染拡大が勢いを増しています。日本政府としてもいままでのような感染拡大とならないように対策を強化していく必要があります。

衆議院議員の任期満了に伴う衆院選挙が10月末に行われた結果、自民党は議席を若干減らしたが、単独過半数を確保し、憲法「改正」をめぐることは、自・公両党に改憲に賛成の日本維新の会で改憲発議に必要な「3分の2」の勢力を確保しました。

自民党は総裁選でコロナ対策の失敗で国民から信頼を失った菅総裁から岸田総裁に代えたことで支持率を回復させたことが、選挙結果に表れました。立憲民主党を中心とした野党共闘

は選挙区では善戦しましたが、比例区では公示前の座席を大きく下回りました。

岸田首相は所信表明で厳しい安全保障環境に対応するとして「敵基地攻撃能力を含めてあらゆる選択肢を排除せずに現実的に検討する」と表明しています。憲法理念の中心である平和主義の「専守防衛」から大きく反している「敵基地攻撃能力」は断じて認められません。

県退教協の運動の中心は平和・民主・人権を原則として日本国憲法を守り、生かしていく運動です。今後は来年7月の参院選挙で改憲勢力の「3分の2」を許さない取り組みが大きな課題となります。

最後に県退教協は、2021年9月の定期大会で活動強化のため「事務局員体制の整備」を提案し、承認されました。全県4ブロックから7名が事務局員に選出され、支部・本部の組織運動を強化し、事務局の事務処理を円滑にするため事務局体制を新設しました。

県退教協の1号退教協会報も事務局員の多大な力を得て作成されました。会員の皆さんにぜひ読んでいただきたいと思えます。

- P1 会長あいさつ
- P2 定期大会概要
- P3 日退教「被災地視察」に参加して
- P4 「東日本大震災・原子力災害伝承館」
現地調査報告：

2021年度 県退教協定期大会開催

～県役員決定、事務局員体制の導入、2021年度会費納入等が承認・決定されました～

9月16日、教育会館第1会議室で2021年度の県定期大会が開催されました。主要な報告決定事項などをお知らせします。

2021年度組織人員は450名で新規加入者はこの2年間で32名でした。2023年5月の定期大会までの県役員が承認されました。新しく副会長に菅野忠親さん、(福島)監査に星好房さん(北会)が加わりました。

事務局員体制の設立が決定され、その後に7名の事務局員が選任されました。

旅費規程が改正され最低1000円となりました。

2021年度の一人あたり、1000円の会費納入と250円の活動助成金が決定されました。

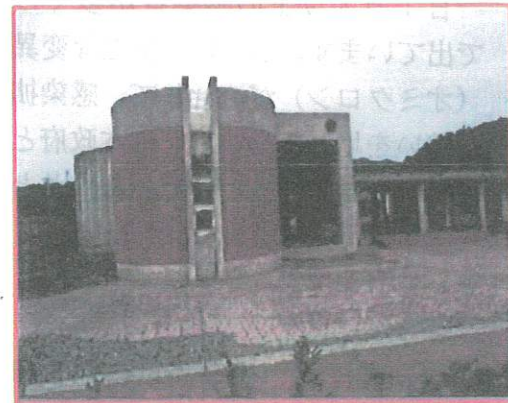
宮城・岩手被災地視察報告

事務局員 二階堂 幹夫

10月31日、午後1時、大型バスで仙台駅を出発。一路、被災地へ向かう。参加者は、北は岩手から南は沖縄までの退職者21名・事務局4名、計25名であった。参加者の中には、福島の被災地を何度も訪れた人も多く、福島の状況について話をするなど交流を深めた。

1時間ほどして最初の目的地、石巻市「大川小」に着く。大川小学校では児童74人、教職員10人が犠牲になった。

被害をこれほどまでに大きくしたのは、「裏山に逃げると傾斜が急で怪我をしてしまうので避難場所としていなかった。」と、今までは理解していた。実際、現地を見ると、そうではなかったことが分かった。裏山は体験学習でもシイタケ栽培をしており、傾斜もそれほど急ではなく、横手に簡単に避難できたと思われた。



石巻市 大川小学校の現在

学校は北上川の河口から4.5km地点にあり、津波警戒区域ではなかったこと。(いわゆるリアス式海岸でないことが原因か)校舎の敷地は標高わずか1.1m、しかも河床より低いところにある。木曾川の輪中地区のような場所である。

学校は2階建てなので4階建てならば助かっていたかもしれない。何より「裏山」に避難すれば、と悔やまれるが、なぜできなかったかは後ほど考察したい。

次の見学地、気仙沼市東日本震災遺構・伝承館は中止となり、お魚市場で買い物となった。被災地にお金を落とすことも復興の役に立つと思う。

今日の宿泊地、大船渡プラザホテルに到着。当ホテルは津波で全壊したが、最近建てかえられ、真新し



い。6:30より夕食・交流、コロナ、衆議院選挙の開票もあり、8:00で終了。翌朝、野党の伸び悩みの選挙結果に心なしか皆、暗い表情であった。

8:15 ホテルを出発して陸前高田へ向かう。奇跡の一本松を視察。この場所は7万本の松林が美しい海岸で、津波によりこの1本の松だけ残った所である。今は10mの大防潮堤になっている。

最後の視察地釜石に向かう。途中の美しかった海岸線はあまり見られない。自然ではない防潮堤、道路は山沿いを走り、鉄道はBTRというバスに変わっていた。山の中腹には復興住宅が建てられていたが、元の賑わいにはほど遠い感

じであった。釜石市鶉住居(うのすまい)地区を訪ねた。この地区は一人の児童生徒も死なずにすんだ。



それは、3年前から津波の避難訓練がなされていたことがあげられる。地震発生・・・1次避難、校庭・・・2次避難、高台(15m地点)3次避難、もっと上の高台(30m地点)と、状況によって避難場所を変える訓練であった。津波は27m地点まで到達した。まさに危機一髪であった。

ここで、「大川小」と「鶉住居小」の違いについて考察してみた。大川小では地震が起こった時、校長が不在であった。教頭は校長と連絡を取りながらも、教職員間での臨機応変の判断が出来なかった。(裏山に逃げる事)。待機していたバスは出発することなく、運転手も津波の犠牲者になってしまった。鶉住居小・中では避難ができていた。大川小では校長管理職の上位下達化を推し進め、職員が自主的に判断したり討議したりする場をなくし、指示待ち症候群にしていたのではないのか。避難先のマニュアルづくりの討議を全体で行い、避難訓練を行っていたならば、大きな悲劇は避けられたはずではないのか、と思われる。

東日本大震災の復興は、兆しが見え始めたとはいえ、まだまだ大きな問題を抱えており学習を深め、行動を起こさなければ・・・と考えながら福島への帰途へついた。


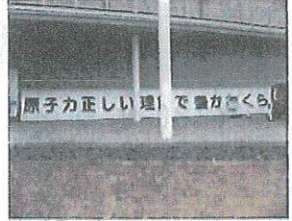

現地調査報告 「東日本大震災・原子力災害伝承館」その1

事務局員 大槻 研司

草原の中にポツと

2020年9月20日、双葉町に開館した「伝承館」を9月30日と11月9日に現地調査してきました。そして2021年3月、展示内容についての様々な指摘や批判に対して行われた内容の一部変更を受け、4月28日に三度目の調査をしてきました。展示内容の変更点を含め、調査結果をまとめましたので報告します。なお、後半部分は次号で報告します。



展示案内	更新前の調査所見・問題点	2021. 3一部更新後の調査所見・問題点
■プロローグ（導入シアター）	<p>【映像】1967年～現在 5分間 スクリーン7m×15m</p> <p>○ 西田敏行のナレーションの始めに、原発建設が雇用創出と高度経済成長の推進役を果たした旨の説明がある。震災や事故の様子、復興を目指す高校生の姿で映像が終わる。</p> <p>【展示室へ上るスロープの展示資料】</p> <p>○ 時系列写真資料…… 3 / 11、14 : 46 震災発生～ 3 / 12、15 : 36 1号機水素爆発</p>	<p>【映像】更新なし</p> <p>【スロープの展示資料】更新なし</p> <p>◆展示エリア内での写真撮影が可能になった。</p>
1 災害の始まり	<p>○ 標語看板は写真のみ。</p> <p>「原子力 明るい未来の エネルギー」</p> 	<p>○ 看板……この建物の北側（玄関の反対側）に、4枚の標語から1枚ずつ交換して貼る。</p> <p>○ 福島県における SPEEDI の予測計算結果の取り扱い……「3月12日以降、県災害対策本部にも電子メールで、SPEEDI による予測計算の結果が送信されていたが、同本部において結果を組織的に活用するという意識が薄く、受信した 86 通の電子メールのうち 65 通を、組織内で情報共有しないまま削除した。」という展示説明あり。</p>  
2 原子力発電所事故後の対応	<p>○ アンケート調査…… 3月11日から4月30日までの間に、避難に当たって困ったことは何か。〈回答〉どこへ避難すべきかの情報や行政からの様々な情報がなかった回答が多い。</p> <p>なぜ情報がなかったのか、検証資料がない。</p>	<p>○ 双葉病院患者の過酷な避難……「3月末までに40人の患者がバスの中や避難先で死亡。座ったまま死んでいる人や座席の下に転げ落ちている人もいた。」と説明。</p> <p>○ 安定ヨウ素剤……「原子力災害対策本部及び県知事から服用の指示が出されなかったため、自治体で対応（服用・配付）が分かれた。」という説明文あり。</p>

福島県退職教職員協議会 会報 No2

2022年8月 発行責任者 浦井 信義

参議院でも改憲発議（浦井会長）

7月10日、投開票の第36回参議院選挙で、自民党は改選議席125議席の過半数（63議席）を単独で確保しました。その結果、自民党と公明党の連立政権与党は非改選の70議席を含めて定数の過半数（125議席）を超えました。さらに、与党を加え、国会での改憲論議に積極的な日本維新の会、国民民主党の4党で発議に必要な3分の2（166議席）を超えました。衆議院では改憲勢力が改憲発議に必要な「3分の2」議席を確保しているので、国会での改憲発議が可能となりました。

立憲民主党は野党第一党を維持したものの、勝敗を左右する全国32の1人区で野党は4勝28敗と惨敗しました。

前回と前々回の参議院選挙では1人区のすべてで野党候補を一本化して一定の効果を挙げていただけに、今回は一本化できたのは11選挙区に留まったこと、また全国比例区の得票数が維新の会を下回ったこと

が原因です。

資料3

2022年度の防衛予算は10年連続で増大し、過去最大の5兆4005億円を計上しました。米国は同盟国にGDP（国民総生産）2%の防衛費を要求しており、自民党は昨年の衆議院選挙の政策で、GDP2%を目指すことを明記しています。

2020年の日本の防衛費は世界9位でしたが、仮に防衛費をNATO（北太平洋条約機構）なみのGDP2%（約11兆円）に増額となれば、日本は米国、中国に次ぐ世界第3位の防衛費（軍事大国）となります。

これは歴代内閣が確認してきた「日本は平和憲法に基づき専守防衛、そして必要最小限度の防衛力を維持する」という憲法9条の下で執ってきた政策と明らかに異なります。自公政権は国会で改憲発議ができる体制をつくり、憲法「改正」をして防衛費の大幅増額を実現しようとしているのです。「憲法を守り活かす」運動にとって重大な正念場を迎えています。

2022年度 県退教協代表者会開催・会員名簿の作成スタート

～2022年度参議院選挙方針、当面の活動、2022年度予算等が承認・決定されました～

参議院選挙方針について

6月14日、教育会館第1会議室で2022年度の県退教協代表者会が開催されました。各支部の代表者1名と傍聴者と役員で22名が参加し、特に参議院選挙をめぐる方針については、政党要件に確保のための「社民党」への支援と県教組・日教組・日退教推薦の「古賀ちかげ」候補に対する対応をめぐり、活発な議論がありました。

結果として、比例区については各支部の決定を尊重することと、「古賀ちかげ」候補が関連する組織の推薦を受けていることを会員に伝えるという結論となり、選挙への取り組みが決定されました。

2022年度会員数確定

組織人員の確認があり2022年度の組織人員は440名となり、今年度の新規加入者は6名と報告されました。

一人250円の助成金決定

予算では2022年度の一人あたり、1000円の会費納入と支部への会員一人あたり250円の活動助成金が決定されました。財源は2011年の東日本大震災・原発災害に対する全国からのカンパに

なります。

県退教協会員名簿の作成に着手

今年度の新しい事務局の取り組みとして会員名簿の作成に当たっています。今後の県退教協の活動を維持し、充実させるために名簿を活用していきます。

2022年度第二回事務局員会開催

2022年7月27日、第2回事務局員会が開催され、当面の活動が確認されました。

- 会報No.2の編集と発行
- 各支部名簿のデータ化
- 会報の定期化と編集体制整備

会報 No.2
 P1 会長から
 P2 代表者会概要と事務局員会開催
 P3 再任用雑感
 P4 「東日本大震災・原子力災害伝承館」現地調査報告

退職後の生活基礎知識シリーズ No.1

- 再任用と社会保険加入のメリット等
- 相続財産の計算の基礎
- 弘済会の事業一覧（広告）※掲載料対象

雑感

—再任用としての勤務から—

酒井 克幸（伊達中学校）

再任用2年目，副担任と
英語教科担任として週20
時間を担当している。朝7



時過ぎに出勤，7時半頃から学年フロアーをう
ろうろして生徒らと挨拶を交わす。昼食時には，
配膳室担当で準備と片付けを手伝う。ほぼ毎日
の清掃活動に放課後の部活動と比較的穏やかに
学校の生活リズムが保たれている。

副担には不慣れで今も戸惑うことが多く、多
分、気の利かない副担だと思われるに違
ない。部活動では、生徒たちと一緒に汗を流し
健康的だと思いながら続けてきたが、ついにツ
ケがまわってきた。四十肩や五十肩は一通り巡
ったのだが、膝にくる経験は初めて。つい健康
サプリメントの広告を真剣に眺めている。

それにしても、学級担任はなぜこうも忙しい
のか。日々の提出物点検、特に生活ノートへの
コメント、ある先生は毎日2，3行の朱書きを
入れている。道徳の授業を毎週まめに実施する。
道徳や学活の時間に学級レクをやる先生は一
人もいない。学年末に道徳の所見を個人に応じ

て細かに記載し「評価」しなければならないの
だ。通信票には行動の所見や総合の所見もある。
三者面談をやれば相談記録を書き、生徒指導上
の問題が起これば、事細かくその経過と指導の
記録を生徒指導委員会に提出しなければならない。
不登校生徒や何時に登校するか分からな
い生徒たちへの気配りもある。副担には、これ
らがない。定年までよく学級担任を続けられた
ものだと思う。再任用になってからは、その時
間を教材研究と親の介護に当てている。

昨年の改訂で急激に情報量が増え難易度も
高まった教科書に、生徒だけでなく英語教師も
苦しめられている。おまけに、デジタル教科書
ときた。PCやタブレットは必須の道具となり、
周囲に教授を乞わねば立ちゆかぬ有様。自然と
教材研究に費やす時間が増え、PC画面に張り
付いてばかり、最近では、肩に腰にフェイス
5.0が欠かせない。文科省の無責任な改訂に、
小中学校の英語教育は翻弄されている。しかし、
ぶれない視点をもって指導していくのも窓際、
いや熟練者の役割ではないか、と勝手に思い込
み、教壇に立ち続けようとしている。もう少し
だけ。

現地調査報告 「東日本大震災・原子力災害伝承館」その2

前号の続きです。

事務局員 大槻 研司

展示案内	更新前の調査所見・問題点	2021. 3一部更新後の調査所見・問題点
3 県民の 想い	<p>○「県民の想い」4部構成</p> <p>①災害時に感じた不安</p> <p>②楽しかった学校生活、突然の別れ</p> <p>③家族や地域生活との別れ・変化</p> <p>△ N 小教員の証言……「事故をきっかけにして、人生がよい方になって、やさしくなった。」……え？</p> <p>○被災者の語りと映像が多数。しかし、国や東京電力の責任を問うものはみつからない。</p>	<p>○やはり、国や東電の責任を問う証言はみつからなかった。</p> <p>④生活基盤の変化、将来への想い</p>
4 長期化 する原子 力災害の 影響	<p>○子どものこころの健康調査内容、結果の資料がない</p> <p>○子どもの外遊びからみた放射線に対する保護者の意識変化の円グラフ……全国平均との比較が分かりにくい表示（福島県は大きく、全国はとても小さいグラフ）</p> <p>○風評被害の原因や責任問題の資料がない。</p>	<p>○子どものこころの健康度に関する調査結果</p> <p>①将来、放射線の影響で深刻な病気にかかるのではないかと心配している。→「とてもそう思う」</p> <p>事故後3年目（444名回答）23.6%</p> <p>〃 9年目（841名回答）8.8%</p> <p>②放射線の影響が子どもや孫など次の世代に遺伝するのではないかと心配している。→「とてもそう思う」</p> <p>事故後3年目34.5%</p> <p>同 9年目12.3%</p> <p>○子どもの外遊びからみた放射線に対する保護者の意識変化の円グラフ……更新なし</p>
5 復興へ の挑戦	<p>○大画面の映像……早送りで復興が進んでいる様子をながしている。復興が順調に進んでいる印象を受けやすい。</p> <p>○廃炉の模式映像資料……簡単に廃炉作業ができる印象</p> <p>○汚染水処理……タンクに保管までの映像のみ</p>	<p>○早送りの画像が、当時と2019年の二つをゆっくり映す画像に変わった。</p>
<p>■ 語り部 原発被災者の証言については、いつ、だれがなどを伝承館のホームページで紹介できない状況にあるとの説明。語り部は29人、うち双葉・大熊出身は3、4人。</p> <p>■ 感想等 3回目の現地調査となった。展示内容更新の報道があり、報道された更新点を確認しながら調査をした。様々な批判を受けての更新であり、それに答える展示説明がいくつもあった。しかし、その展示説明の多くはよく見ないと見つけられないような目立たなく小さいものであった。ところで、大きな変更点は、展示エリア内での写真撮影ができるようになったことである。</p>		



退職後の生活基礎知識シリーズ No 1

退職後の生活は大きく変わっています。**年金支給が65歳から**になり、それに伴う再任用や定年延長などの実施をめぐり、60歳以上の退職金や給与など複雑になっています。また再任用や定年延長などの対象を免れた世代（70歳以上）にとっては**年金額の引き下げや相続**などが現実的な問題となっています。また親の介護を抱えての介護保険等の利用など、60歳以降は一人一人の働き方や家族の現実等によってさまざまな課題があります。このシリーズで一緒に知識を深めていけたらと思っています。内容に対する質問や意見・要望等がありましたら、メールで下記のアドレスをお願いします。

文責 竹中 柳一 (FP) takenakayanag@gmail.com

再任用(フルタイム)の教職員は社会保険に加入

- **健康保険（介護保険を含む）・厚生年金・雇用保険**に加入となります。
- 健康保険・厚生年金の保険料は原則として**雇用主（県教育委員会）との折半**になります。
- **雇用保険の自己負担は3分の1程度**ですが、福島県では再任用教職員が自ら金融機関に出向き支払っています。福島県教組は強く「給与天引き」を要求しています。

社会保険加入の主なメリット

健康保険では

- **扶養家族が何人いても保険料の負担なしで保険証が交付**されます。
※国民健康保険加入だと、扶養家族の制度がないため、多くの場合保険料がよけいにかかります。
- 再任用を続けない場合にも**2年間は共済組合の健康保険に継続して加入**することができます。ただし保険料負担は2倍になります。（事業者分がなく
なるため）2倍にはなりますが、最初の1年間は国民健康保険の負担（※）よりも低くなる場合が多いはずです。
※ 国民健康保険の料金は1年前の収入で決定されます。

厚生年金では

- 65歳から受け取れる**厚生年金額**が標準月額報酬と加入期間により**増額**されます。
- 60歳未満の配偶者がいる場合、配偶者の国民年金保険料(年で約20万円)を負担する必要がありません。

雇用保険では

- 次のような場合には**失業給付金を申請し、受け取る**ことができます。

定年後、再任用として働いていたが、**現職と同様の勤務内容**で体調を崩したため、1年で教育現場から離れることを決断した。年金も出ないのである程度の収入がある働き口を探したい。

雇用保険加入期間が12カ月以上あるので、失業給付の対象となります。

失業給付は、働く意志と能力があるにもかかわらず、仕事につけない状態にある人の生活の安定を図るための給付で、**窓口はハローワーク**となります。給付金額は賃金日額×(45%~80%※)です。支給期間は自己都合退職の場合には**90日**までとなります。この給付に所得税がかかりません。(※賃金が高いほど支給率は高くなります。)

相続の準備の第一歩は相続の対象となる財産の計算

相続税の基礎控除額は**3000万+600万×法定相続人の数**になります。法定相続人は一般的には配偶者と子どもになります。相続財産がこの金額以下でしたら申告する必要もありません。したがって第一歩は財産の計算です。

所有する土地と自宅等の建物の評価は

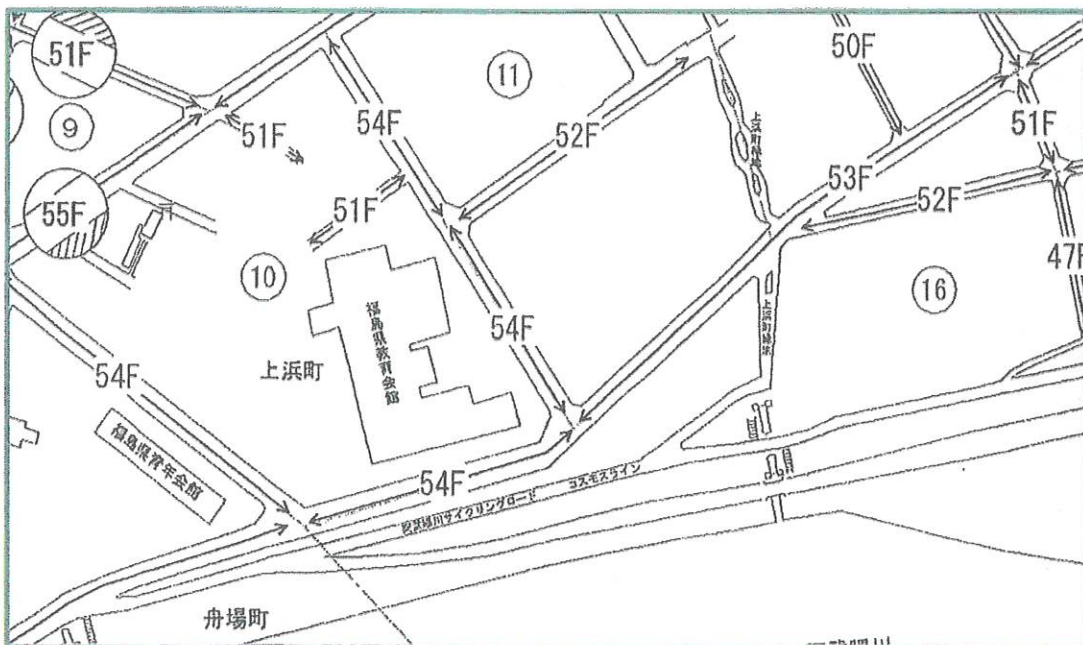
主な相続財産は預貯金、土地、建物などですが、ここでは土地、建物の評価を取り上げます。

自宅等の建物の評価—市区町村から年1回送付される**固定資産税通知書に建物の評価額**が記載してあります。

下図の例では建物の評価額は**875万5千円**です。

平成31年度課税明細書				
所有者氏名				
①資産	② 所在・地番		③ 負担水	
⑤ 現況地目等 又は種類・構造	⑥ 課税地積 床面積(m ²)	⑧ 前年度固定資産税 (比準)課税標準額(円)	⑩ 固定資産税 本則課税標準額(円)	⑫
⑦ 価格 (評価額)	⑨ 前年度都市計画税 (比準)課税標準額(円)	⑪ 都市計画税 本則課税標準額(円)	⑬	
家屋	港町1-1			1-1
店宅 木造	103.00			
8755000				

土地—国税庁が毎年、公表する**路線価**で評価します。ネット等で閲覧できます。ダウンロードできます。



上図は福島市の教育会館付近の2022年度の路線価図です。
 54Fは、この道路に面する土地の価格が1㎡あたり5万4千円であることを表しています。
 自宅の住所で路線価図を検索し、土地の面積をかけ、相続財産を計算できます。
 ※数字の後のアルファベットは借地権割合を表します、説明は省略します。

弘済会の事業一覧

広告

弘済会は、教育の振興と教職員の皆さまの福祉向上を目指しています

教育振興事業

◇奨学事業 ・貸与奨学金事業 ・高校生給付奨学金事業 ・大学給付奨学金事業

◇教育研究助成事業

- ・教育実践助成
- ・教育研究団体助成
- ・教職員研修助成
- ・統合校支援事業
- ・県立高校、特別支援学校教育物品寄贈

◇教育文化事業

- ・児童生徒対象の教育文化助成
- ・小規模県立高校対象教育文化助成
- ・地域や県全体対象の教育文化助成
- ・へき地校支援事業
- ・健太康太スクールコンサート



教弘保険加入者福祉事業（退職者向け）

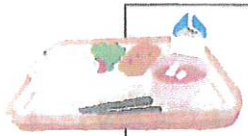
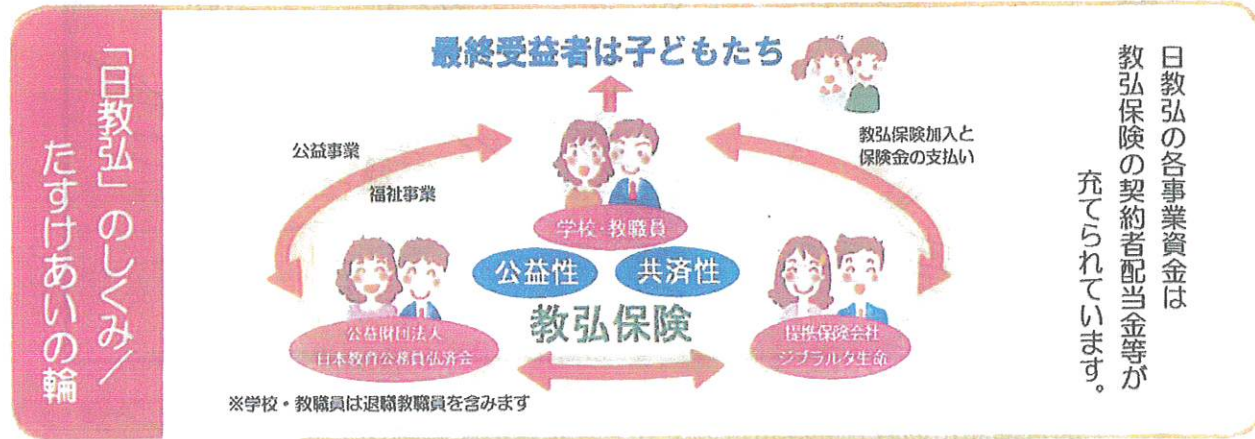
◇申請型

- ・宿泊助成「県内13か所・全国指定宿泊施設」など

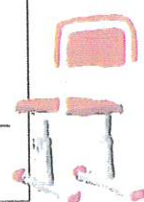
◇応募型

- ・スパリゾートハワイアンズ無料ペア入場券 など

共済事業（提携保険事業）



公益財団法人 日本教育公務員弘済会福島支部
株式会社 福島教弘



福島市上浜町 10-38 (教育会館内) TEL024(522)6522 FAX024(522)7751

第28回「日退教組織活動交流集会」(2022年10月14日)

レポート

第2分科・分散会 「教育・人権・文化・組織」

③ 「私の平和教育・運動のとりくみ」

角三外弘（石川県退）

私の平和教育・運動のとりくみ 地域の戦争の掘り起こしなど

1 はじめに

2 能登 日本海を通じた人や文化の交流 (かつては日本海側が先進地)

- (1) 古代の東アジア(朝鮮半島や中国)や北九州、出雲との交流
船本部(造船集団)、高句麗系の古墳(能登島の蝦夷穴古墳)、渡来系の神々(おくまかぶとの祭りなど)、出雲の神(大国主)、渤海国との交流(福浦客院、「能登号」)、気多・気比の文化圏、宗像三神と舳倉三神 ※ 能登立国1300年
- (2) 近世の北前船による交易
- (3) 近現代の戦争と七尾

3 北陸の戦争被害

- (1) 富山県 富山空襲 伏木港への機雷投下
- (2) 新潟県 長岡空襲 直江津港・新潟港などへの機雷投下
- (3) 福井県 福井空襲、敦賀空襲 敦賀港への機雷投下
- (4) 石川県 七尾港への機雷投下

4 戦争加害と北陸

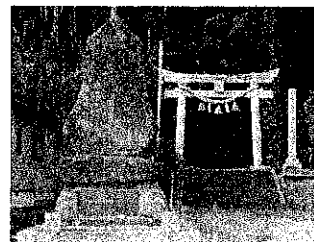
- (1) 朝鮮人の徴用・強制連行 不二越(富山)、尾小屋(石川)など
- (2) 中国人強制連行 (死亡数/連行数)
敦賀港(1/100)、七尾港(15/399)、伏木港(49/1252)、
新潟港(159/905)、西松信濃川(12/183)
- (3) 連合国捕虜(敦賀、武生、伏木、富山、新潟、長岡、直江津、青海)

5 太平洋戦争時に七尾湾、七尾周辺におかれた軍事施設など

- (1) 潜水艦関係の部隊や学校が七尾湾へ
特設対潜訓練隊(海軍第51戦隊)が大分県の佐伯から七尾へ
第一潜水隊(潜水空母「イ(伊)-400号」など4艦)が七尾湾へ
海軍潜水学校が広島県大竹(おおたけ)から中居(七尾湾・穴水)へ
※ 『同日同刻』山田風太郎著 「イ-400号」と「イ-401号」による1945.8.14幻のウルシー攻撃
- (2) 米潜水艦監視のための水上機基地が七尾に
水上偵察機(フロートを持つ水上飛行機)が配置される
- (3) 二式大艇(飛行艇)3機が香川県詫間(現在は三豊市詫間町)から七尾湾へ
- (4) 小松飛行場から相馬飛行場(田鶴牧場)へ
- (5) 陸軍船舶部隊(暁部隊)が七尾港へ

6 第二能登丸のそうなん

敗戦直後の1945年8月28日、七尾湾で機雷が爆発して、第二能登丸に乗っていた人たちのうち28人が死亡した。太平洋側の港が米軍の空爆で破壊され、日本海側の港へ中国などから石炭や鉄、大豆などの資源や食料が運ばれた。七尾港では労働者が不足し、旧制七尾中学(今の七尾高校)生徒や勤労働員で集められた七尾近郊の人たちのほか、強制連行された中国人も働かされていた。第二能登丸のそうなんは、勤労働員の人たちが仕事を終えて帰る時の事故であった(便乗者も乗っていた)。



鵜浦町の御門主比古神社入口にある忠魂碑に、第二能登丸事件の犠牲者13人の名前が非軍属として刻まれている。

7 中国人強制連行とは 135の事業場へおよそ4万人

- (1) 中国人強制連行のねらい
- (2) 「満州」への強制連行→日本への強制連行
- (3) 強制連行・強制労働の実態(「外務省報告書」と「事業場報告書」)
- (4) 中国人強制連行調査～裁判闘争～

8 七尾への強制連行

- (1) 399人の中国人が七尾へ
- (2) 七尾での過酷な労働と食糧不足、不衛生な環境 15人死亡、64人失明
- (3) 日本の敗戦・「七尾華工事件」
- (4) 中国人強制連行の調査 1995年の馬得志さんの七尾訪問から調査再開
- (5) 七尾強制連行訴訟(2005年～2010年)とその後の活動
- (6) 今も続く追悼活動 日中友好協会が一衣帯水碑建立(1977.8.15)以後続く

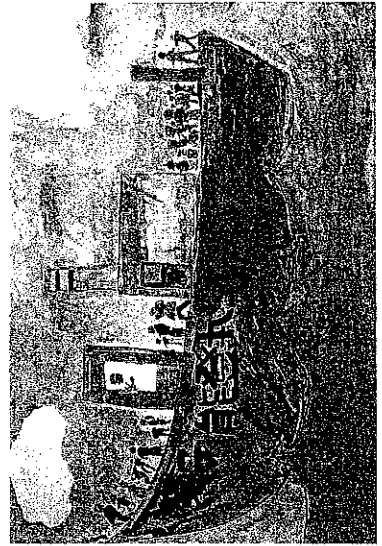
9 歴史から学ぼう

- (1) 誇るべきは戦後レジウム(日本国憲法体制)
- (2) 自民党の改憲草案、教育勅語などはどんな人間をめざすのか
戦争放棄(平和)、国民主権(民主主義)、基本的人権の尊重(人権)の日本国憲法を次の世代に。
- (3) 慰安婦問題、徴用工問題、挺身隊の問題を考える。
- (4) アジアの人たちとどのように友好・交流を結ぶのか。日本国憲法9条は「再び侵略しません」という国際公約である(徐京植 ソキョン)。

おうちのひと読んでみましょう

絵 一九八四年度小丸山小学校六年五組
文 角三 外弘 (六年五組担任)

七尾湾・第二能登丸そつなん事件



みなさんは、今から六十年くらい前に、日本が戦争をしていたことを聞いたことがあると思います。その戦争で日本は、中国をはじめとしたアジアの国々や太平洋の島々などで、中国やアメリカ合衆国などの国々と戦いました。そして、そこで、とても多くの人たちを殺し、とても多くの人たちが殺されました。殺されたのは、兵隊ばかりではありません。そこに住んでいた人たちの命もたくさんばわれました。

日本国内では、戦争の終わりころになると、都市への『空襲』(飛行機が空から爆弾を落とす攻撃)が、毎日のおこなわれました。そして、子どもたちをふくむたくさんの方の命がうばわれました。一九四五年八月六日・広島、八月九日・長崎の『原爆』では、い

つしゆんにして多くの命がうばわれました。それだけではなく、今もガンなどの後遺症で多くの人たちが苦しめられています。

となりの富山県や福井県も空襲を受けています。わたしたちの住んでいる石川県は、大きな空襲を受けませんでした。しかし、石川県内でも多くの人たちが戦争のぎせいになっています。

ここに紹介する事件は、そのなかの一つです。

戦争のころの七尾港

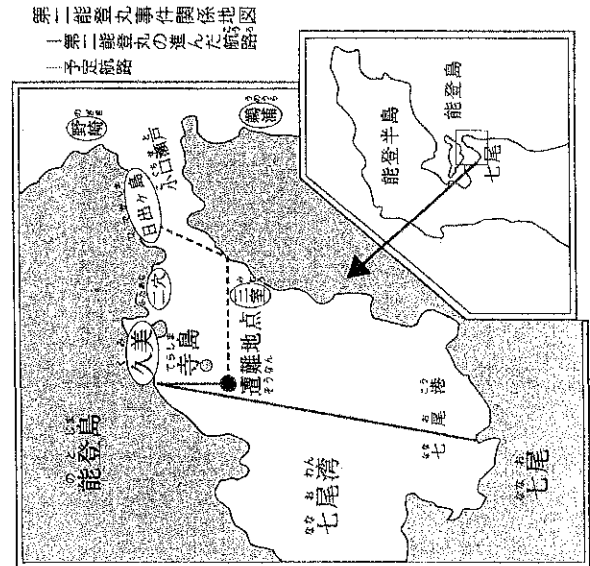
そのころ、七尾港には、中国などから兵器などを作る原料や食料が運びこまれていました。そして、七尾港から貨物列車で太平洋側へ運ばれていました。港では、船から荷物をおろしたり、貨物列車に荷物を積んだりする仕事の多くを、人の力でしていました。ところが、戦争が進むにつれて、若い男の人はみんな兵隊として戦場に行かされ、七尾でも仕事をする人が足りなくなっていました。そこで、日本に連れてこられた中国人、学徒動員(※1)として集められた旧制の中学生(今の高校生)、地域から集められた勤労動員者(※2)も仕事をするようになりました。中でも中国人はとてもきびしい条件で働かされました。そのために、病気になるたり、なくなったりした人もいました。

(このことは、七尾港に面したところにある「一衣帯水の碑」という石碑にも書かれています)

アメリカ軍は、七尾港に原料や食料が運びこまれるのを防ぐために、七尾港の入口にあたる小口瀬戸に

(※1) 学徒動員
日本が中国と戦争をはじめたまもなく一九三八年ころから、若い男の人がみんな戦争に行き、工場や畑などで働くおとなが少なくなったので、食料や軍需品が使うものをつくるために、学生や生徒をはたらかせたこと。

(※2) 勤労動員
戦争中に、戦争に行かなかったおとな(女性、おとしよりなど)を畑や工場、炭坑などではたらかせたこと。



『機雷』をしずめました。機雷というのは、水中や水上に浮かび、船がふれるとばく発するばくだんです。機雷は、水の中にしずめられたりしているので、戦争が終わつても、そのまま残つてしまうものがありました。

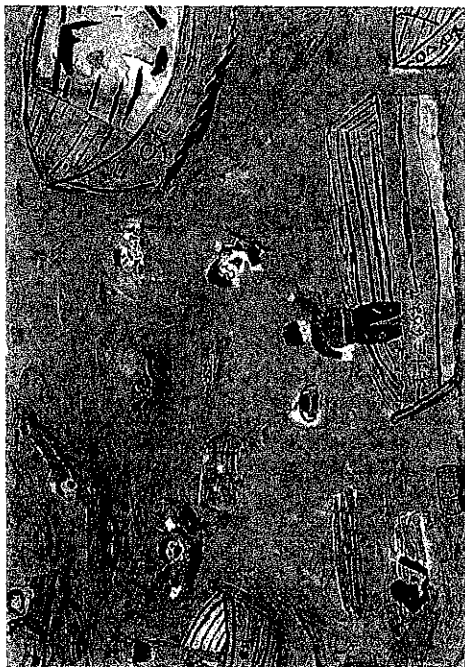


第二能登丸のそうなん

戦争が終わつて（一九四五年八月十五日）まもない八月二十八日午後六時ころ、第二能登丸は、七尾港を出て能登島へ向かいました。船には、七尾港に勤勞動員で働きにきていた人や、七尾に出かけていた人など、四十〜五十人の人たちが、家に帰るために乗っていました。一日の仕事が終わり、ほっとしている人たちは、船の中でどんなことを考えていたのでしょうか。家族のこと、これからの生活のこと。まさかこの後、自分

らず、忘れられていました。

そうなんから三十五年たった一九八〇年、七尾の先生たちが調査を始めました。そして、長い時間をかけて聞き取り調査などを行った結果、ここに書いたことなどが明らかになりました。



1984年七尾市内の小学生がつくった紙しばいより
(前ページまでの絵も同じ)

たちが戦争のぎせいになるとは夢にも思つていなかったことでしょう。午後六時四十分ころ、とつ然大きなばく発音とともに水柱があがりました。第二能登丸は、機雷にふれてしまったのです。ばく発とともに空中高くほうり上げられる人、助けをよぶ人、船のはべんにしがみつく人、船はこわれしずんできました。船に乗っていた人のうち、半分くらいの人たちは、自分の力で泳ぎ、近くにいた能登島の人たちに助けられました。しかし、船長さんなど二十八人も人がなくなりました。

このような大きなひがいを出したのに、そのころの新聞には、このそうなんは、まったく取り上げられませんでした。

そのこともあり、この第二能登丸のそうなんは、七尾や能登島の人たち以外にはあまり知られてお



(3)

第二能登丸そうなん事件のぎせい者、山本正夫さんの妻キミさんのお話をまとめたものです。キミさんは、事件当時二十八才でした。残された家族の思いは、どんなものだったのでしょうか。

○父ちゃんは一九四〇年に兵隊として召集されましたが、病氣のため七尾にもどつてきていました。背が高く、じょうぶな人だったのに、そのころは、兵隊に行くのがめいよなことだったので、兵隊から病氣で帰ってきた父ちゃんは、はずかしかったのか、かたをすばめていました。

○八月二十八日。この日父ちゃんは勤勞動員に出るため、朝六時ころ弁当を持って出かけました。わたしは、これが父ちゃんとの永遠の別れになるとは思ひもよらなかつたので、いつも通り「氣つけて、行って来いね」と送り出しました。鹿渡島へは、勤勞動員の人を乗せて運ぶ船が来ており、父ちゃんもその船に乗りました。

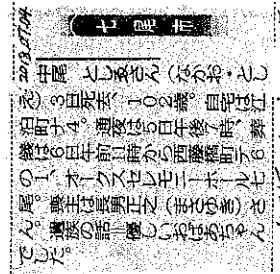
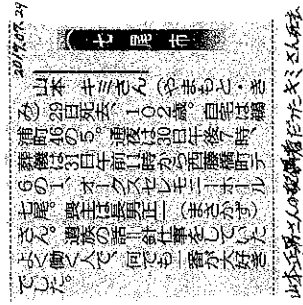
(4)

○その日の夕方、わたしは在所の山のお寺でたきぎを拾っていました。その時、ばくだんのようなでつかい音がしました。「船がやられた！」という知らせが入り「だれが乗つとる？」と心配顔で話し合いました。やがて、父ちゃんも「死んだ」という知らせが入りました。三十四才でした。わが家には、七つのむすめをかしらに三人の子がおり、わたしのおなかには、この十一月に生まれる未っ子もいました。

○「父ちゃんのローソク代（ほんのわずかなおみまい金）が家にとどきました。父ちゃんが死んで悲しんでいるのに、他人に「金もろてよかるが…。（お金をもらつてよかつた）」と言われてとても腹が立ちました。人のいやがる勤労働員に出て、事故にあつて死んでしまった父ちゃんなのに…。

○父ちゃんが死んだあと、小さい子ども四人をかかえてたいへんでした。親せきの人たちが助けてくれて、やつと田んぼも作ることができました。戦争が終わつてから、「しやばのじごく」を見た思ひでした。

◆第二能登丸ぞうなん事件を読んで、あなたはどう思いましたか。



山本キミさんの妹のとしこさん

100歳誕生日
おめでとうございます
中尾としこさん
■壬寿苑
和親が得意なとしこさん、手縫いだけでなくミシンも使いこなす孫のはんてんを縫っていた。体を動かすことが好きで、朝晩の散歩が日課だった野球をしていた孫の記録を交け、アレスプロ野球を観戦するのが大好き。今年8月施設に入所してから風船ハレーで体を動かしている。長男の正之さんには長生きの記録を聞くとも毎日三食しっかり食べ、好き嫌いがなく孫と同じものを食べることもあつたと語り返つた。これからも元氣にお過ごしください。



中尾としこさんは第二能登丸のぞうなんで死した山本キミさんの妹です。

永遠の別れになるとは思わなかった

山本 キミさん

第二能登丸事件で父ちゃん（天）をしくしました。事件の日の朝、戦争が終わつても少しでもお国の役に立ちとう船浦から勤労働員になる父ちゃんを「気を付けて行ってこいな」と送り出したのを今でも覚えています。夕方に煙草が聞こえて「船がやられた」と知らせが入つても、まさか父ちゃんが亡くなると思ひもしませんでした。地域の人が出で船に乗っていた人を探しましたが、父ちゃんの遺体が見つかったのは五日ほど経つてから。3人の子どもと私とお腹にいた赤ちゃんを残して父ちゃんはいなくなりました。

船浦は亡くなった人が多かったので、葬式があらちちで執り行われて船浦が手に入らず、兄弟に作ってもらいました。長く水に浸かっていた父ちゃんの体は大きく膨らんでいて入りきらないほどでした。そんな父ちゃんの最期に涙が止まりませんでした。

戦争に両親を奪われた

岩崎 貞孝さん

私が3歳に満たない頃、父が戦死し母と2人で船浦の母の実家で生活していた時、寒家に割り当てられていた勤労働員を母が引き受け、私を預けて出掛けました。事件当日、縁側でうたた寝をしていると出掛けたはずの母が私を呼ぶ声が聞こえ、目を開けると窓に母の顔が映つて見えました。事故が起きた瞬間に、置いて行つた私のことが心配で最期に会いに来たのかもしれない。

その後、母の実家で育てられることになりましたが、貧しくて小学校生活にかかる費用が出せなかつたり、「親なし、親なし」と標を持つて追い掛けられ、いじめられたりもしました。結婚して長男が生まれた後も、栄養が足りず母乳が出なくなつて苦勞し、両親を失くしてからのごときは、思い返すと今でも涙が出てくるほど辛かつたです。戦争がなかつたらこんな思いをしなくて済んだのにと何度も思いました。

未来へ伝えたいこと

元教諭 角三 外弘さん

教え子に戦時中の七尾を知ってもらおうとしたことがきっかけで、これまで第二能登丸事件を調査してきました。地壳で起こった戦争を知ることは、戦争を身近に感じるといふ点でも大切なことですが、七尾で戦雷が落とされただけでもこんなにも大変なわけだから、原爆が落とされたと理解することにもつながり悲憤だつたのだらうと理解することを考えます。そしてそこから平和の尊さを考えることができると期待しています。

大切なのは知ること。戦争をしようにとする人は相手を手をだまそうとする人です。今はインターネットで昔情報を手に入れたことのできるけれど、本に正しい情報を探し、本を読みだり実際に足を運んでじっくり考え、事実をしっかりと見極めてほしいですね。



平和展

8月10日(金)まで

9:00~18:30 (最終日は15:00まで)
パトリア4階フォーラム七尾 (入場無料)
「ワダコと折り鶴」ポスター展示、
小中学生の作品展示、DVDの上映、
「平和の折り鶴」制作コーナー、
平和へのメッセージコーナー など

「被爆体験記朗読会」も開催

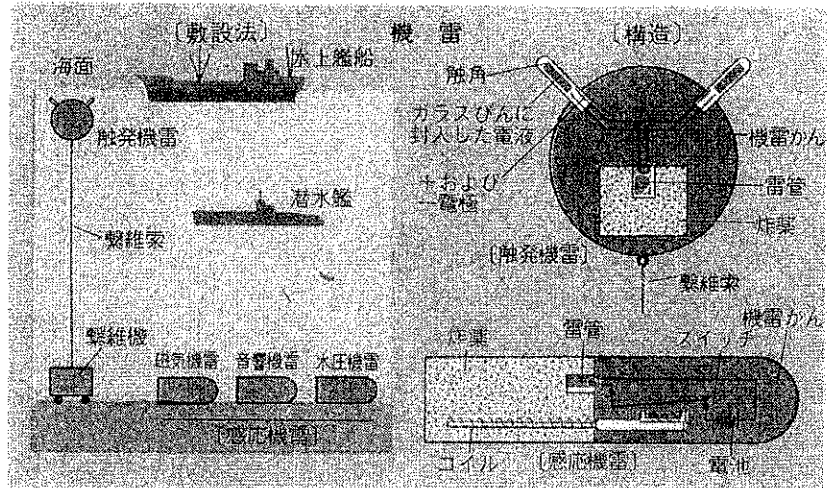
8月5日(日)14:00~15:00 (申込不要)

総務課 53-1111



1 日本軍の機雷は繫留・触発機雷

1941年11月から日本軍は海域や港湾の防備のために機雷を敷設した。日本軍が敷設したのは海底の繫維機(アンカー)から繫維索(ワイヤー)で繋がる繫留(繫維)機雷である。触発機雷と呼ばれ、船で敷設したものである。



『ジャポニカ』(小学館)の機雷の説明図

2 アメリカ軍が投下したのは沈底・感応機雷

いっぽう、アメリカ軍が日本周辺に機雷を敷設したのは1945年3月以降であり、瀬戸内海と関門海峡が多い。アメリカ軍は、機雷投下(敷設)を「飢餓作戦」と呼んだ。中国や南方から日本国内へ物資が入ってくるのを阻止するねらいである。そのために、関門海峡や瀬戸内海に艦船を入れないように機雷を投下したのである。アメリカ軍は飛行機からパラシュートをつけて機雷を投下し海底に沈めた(沈底機雷)。アメリカ軍は爆弾と同じように機雷を投下したのである。機雷は磁力や音響を感知して浮上し、艦船を爆破するのである。感応機雷と呼ばれるゆえんである。こうした方法でアメリカ軍は関門海峡や瀬戸内海に集中的に機雷を投下(敷設)した。

3 瀬戸内海から日本海側の港湾へ

瀬戸内海が封鎖され艦船が日本海側へ向かうようになると、アメリカ軍は敦賀や七尾、富山県の伏木、新潟、山形県の酒田、秋田県の船川などに機雷を投下する。

いっぽう日本軍がアメリカ軍の潜水艦などの侵入を防ぐために機雷を敷設したのは

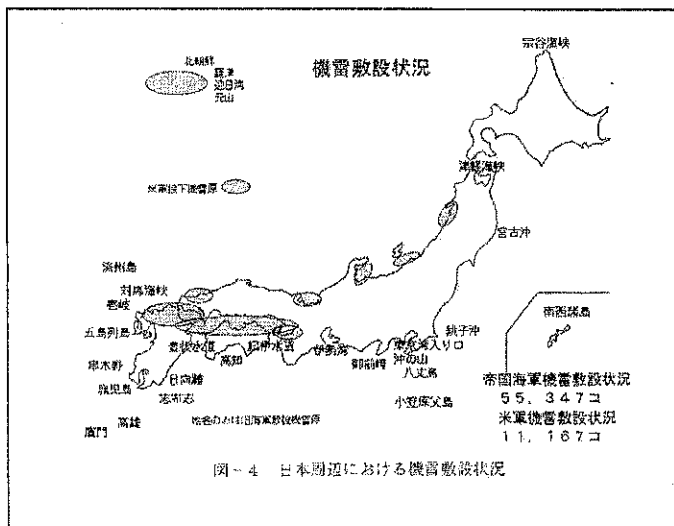


図-4 日本周辺における機雷敷設状況

太平洋側である。アメリカ軍が潜水艦などで攻撃してくるのは太平洋側からであると考えていたからであろう(左のアメリカ軍と日本軍の機雷敷設地図を参照)。1945年になると日本海にもアメリカの潜水艦が侵入するようになり、日本軍は対馬海峡に機雷堰を敷設する。しかし、アメリカの潜水艦はその機雷堰を突破して対馬海峡から日本海へ侵入し、富来沖で輸送船が雷撃された。

◇触発機雷と感応機雷

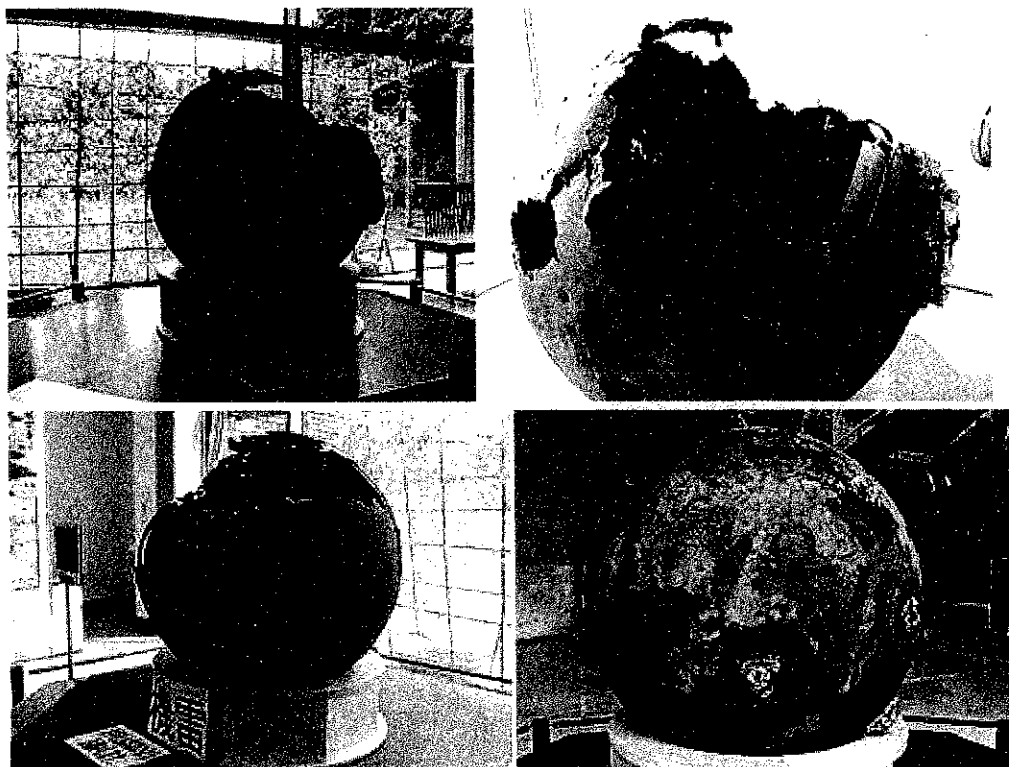
機雷には大きく分けると、球形の繫維機雷と円筒形の感応機雷の2種類がある。日本軍が海峡や港湾に米潜水艦などを入れさせないために敷設したものが繫維機雷である。艦船が接触しないと爆発しないので触発(接触)機雷ともいわれる。大分県佐伯市の平和祈念資料館には日本軍が敷設した繫維機雷の実物が展示されている。

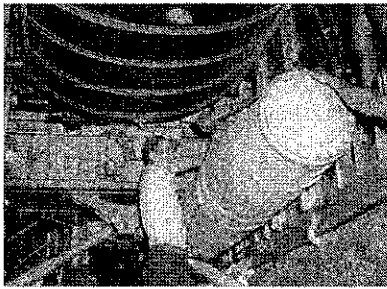
いっぽう第二能登丸事件の触雷は感応機雷である。感応機雷には音響機雷や磁気機雷などが含まれる。米軍は飛行機からパラシュートをつけて音響や磁気などの機雷を投下した。日本側は着底位置まで観測し、掃海隊が出て行って掃海していた。米軍は日本の掃海を困難にするため機雷に回数起爆装置(何回目に反応するかを設定する装置)をつけた。日本の船舶の通行は混乱した。さらに投下される機雷があまりにも多く掃海しきれなかった。まさに物資輸送を途絶させる飢餓作戦であった。

◇「九三式機雷」(触発機雷) 佐伯の平和祈念資料館展示

機雷とは機械水雷の略で、水中に設置されて艦船が接近または接触したとき、自動また遠隔操作により爆発する水中兵器をいう。水上艦艇から敷設する。この機雷は、「九三式機雷」といい、昭和8(1933)年に実験を行い、昭和9(1934)年に兵器として採用された。直径86cm、重量約220kg、材質は鉄で、触角が4～5本ある。

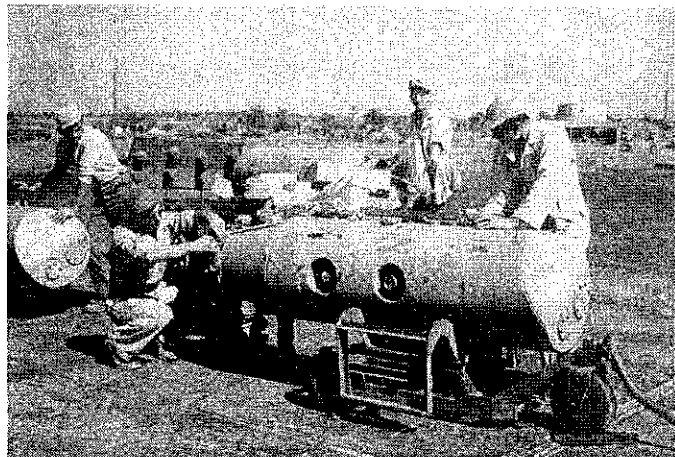
平成7(1995)年8月5日頃、鶴見崎沖の豊後水道で米水津の漁船「千恵丸」の底引き網にかかり、佐伯市米水津振興局に保管されていたものを、平成23(2011)年8月3日、佐伯市平和祈念館やわらぎへ移動した。[展示の解説文より]





▲B29の爆弾倉に納められる
投下用機雷

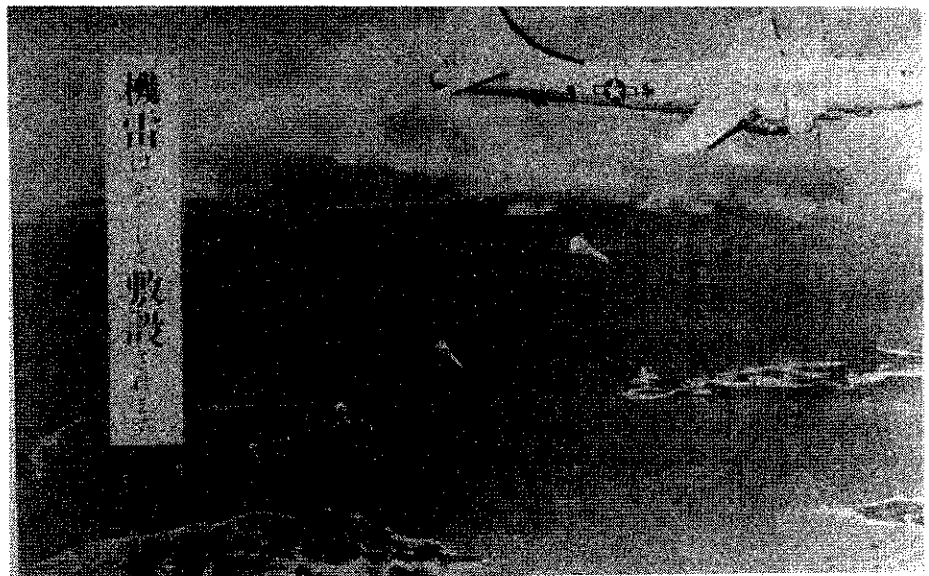
機雷投下の専門部隊、第313航空団
基地テニアン島で、1945年7月10
日に撮影された写真。
(マクスウェル空軍基地歴史資料室)



▲磁気機雷 MK-25
航空機からの投下を目的に設計された磁気機雷 MK-25

▼投下された機雷には、着水する時の衝撃を緩和するために直径1.8mの
パラシュートが付けられていた。

掃海(機雷を取り除くこと)の無意味さを宣伝するリーフレット
米軍が飛行機からこのような宣伝文書を撒いていた。飛行機から機雷が投下されている写真(右上)
には「機雷はかうして敷設されます」と大きくかかっている。その下には『死の機雷原』と題した文
章が書かれている。「機雷を除けようとするのは、コップで大海を汲み干すやうなものだ」と掃海(機
雷を取り除くこと)が無意味であることを述べている。
(マクスウェル空軍基地歴史資料室)



死の機雷原
港も水路も機雷で一杯だ。
此の機雷原ととり除けようとするものは、コップで
大海を汲み干すやうなものだ。
諸君が一つの機雷をとり除く、遠くその後を新
しい機雷をB29が置いてゆく。
機雷原を一掃することは全く不可能なことだ。
其の洋は軍部が一番よく知って居る。
然し彼等は軍部工場へ鐵や石炭を補給せられ
ばならぬ。
そこで軍部は、かくした機雷原を敷設命令する。
此の蒸気な作戦のため、将来の日本にとって大切な
船舶が觸れては毎日移りゆく沈んでゆく。
このまゝでは、間もなく日本の船舶はなくなる。
軍部は日本の将来も機雷で一杯であるのだ。
諸君は蒸気な作戦のやり方を何時まで
展げておくのだけ。

1 はじめに

米陸軍は1945年3月27日から8月14日まで、北海道を除く全国の港湾を主目的に、航空機による機雷投下作戦を行った。目的は海上交通を遮断する（国民の生活を支える物資の輸送を止める）ことであった。米軍はこの作戦を「飢餓作戦」（Operation Starvation）と名づけたことにも、そのねらいが表れている。

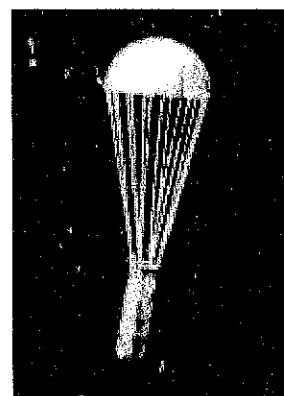
2 七尾湾に400個の機雷が

米軍が七尾湾に敷設した機雷は『戦史叢書 海上護衛戦』には、磁気機雷169個、音響機雷160個、磁気水圧機雷64個の合計393個と記載されている。いっぽう、地元の新聞（1945.11.4）には「どうなったか七尾湾の機雷」と題する記事の中で「44機のB29が6回に亘って約440個を投下した」と書かれている。正確な数はわからないがおよそ400個の機雷が七尾湾へ投下されたと考えられる。

3 パラシュートを付けて投下

機雷の投下目標はレーダーによって定め、高度1500呎から2000呎から投下した。機雷の調定深度は4.8呎から45呎の範囲とされる。

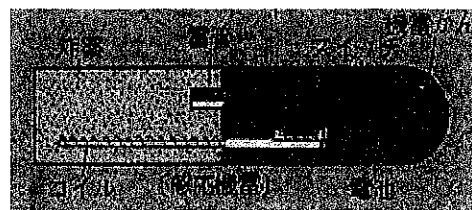
投下する機雷には、着水する時の衝撃を緩和するために直径1.8呎のパラシュートが付けられていた（右の写真を参照）。パラシュートは着水と同時にはずれるしくみになっていた。1945年当時、能登島野崎の警防団長をしていた石橋さんは「衣類や日用品が不足していたので、パラシュートの布や紐などを争って手に入れようとした。パラシュートを見て、日本とアメリカの国力の差を感じた」と語っている。



機雷にパラシュートが装着され、ゆっくりと降下し、海面へ着水する。

4 機雷には時限装置が

海に沈めておいて、その上を艦船が通行するのを感じて浮上し、爆発するのが機雷である。しかし、海底に機雷が敷設されているところを通ると必ず触雷したのではなかったようである。瀬戸内海で3隻の船が縦に並んで航行していて、前の2隻は無事に通過したが、3隻目が触雷した例がある。米軍関係者によると、機雷には時限装置が付いており、何回通過したときに爆発するかを設定するようになっていたという。機雷の内部は図のようになっており、電池、スイッチがついていた。スイッチに時限装置をつければ、そうした設定は可能である。設定が3であれば、1回目、2回目の通過で爆発しないのである。これは日本側に「安全」と思わせておいて何度目かに爆発させる心理作戦である。第二能登丸が爆発した地点は、それまで通っても爆発がなかったところであろう。危険なところを避けて遠回りをしたのに触雷したのは、時限装置による攪乱の結果であると考えれば納得がいく。



機雷の内部（小学館『ジャボニカ』より）

『能登島のれきし』という子ども向けの本に、第二能登丸の触雷事件の前の1943(昭和18)年10月に、七尾湾で機雷による事故が起きたことが書かれている。能登島の鰻目(えのめ)という地区の民家の庭先へ持ち込まれていた機雷の部品が爆発して、子ども6人が死亡したという。当時の学校の沿革史(記録)には「10月4日午後4時20分、鰻目大山六松氏宅二於テ左記児童爆死ス」と書かれている(児童名は略)。また、地域の「能登島史学会」という研究誌には、「大山六松さんが、機雷とは知らず海から拾ってきて、蔵の入口に置いてあったのを子どもたちがいたずらか?しているうちに破裂したのでしょうか」と書かれている。この記録を読んで、1943年段階でなぜ七尾・能登島周辺海域に機雷があったのかという疑問を持っていた。さらにこの機雷はどこが敷設したのかということも疑問であった。

1943(昭和18)年段階で米軍は太平洋戦線で攻勢を強めていたが、日本海側への米軍の機雷敷設はない。米軍の機雷敷設は、1944(昭和19)年6月のマリアナ諸島占領以降、日本本土空襲作戦の一環として1945(昭和20)年3月から実行された。そうすると、1943年当時の日本海側の機雷はアメリカが敷設したものではない。

それでは、鰻目で爆発した機雷はどこが敷設したのであろうか。「旧ソ連(以

た 歴 戦 戦 四 の に 留 四 戦 1943.10.5 (5/5)

注意！冬は機雷が漂着する

掃海豫防具爆破事件に當局談

四日夕刻石川縣鹿島郡東島村字鰻目における機雷爆発事件は一瞬六名の可憐な幼児の生命を奪つた近來の珍事として日本海沿岸民を驚かせたが毎年十一月から翌年三月までの間には石川縣沿岸にしばしば機雷が漂着し、ときどきこの種爆発が繰り返されるおそれがあるので石川縣警部では五日午後四時左

下「ソ連」)がナホトカ、ウラジオストックなど日本海に面する港湾に多くの繫維(係維)機雷を敷設したが、その機雷を繋いでいたワイヤー(繫維索)が何らかの理由ではずれて浮遊して海流に流され、日本海沿岸の各地に漂着したものが多くある」と聞いたことがある。繫維(係維)機雷とは、海底の繫維機(アンカー)からワイヤー(繫維索)で海面付近まで浮かべる機雷である。

日本海の触雷事故を調べてみた。太平洋戦争開戦直前の1941(昭和16)年11月5日、敦賀と北朝鮮を結ぶ航路を航行中の日本海汽船『気比丸』(452ト)が日本海で触雷して沈没し死者・行方不明156人が出ている。独ソ戦開戦後にソ連がドイツの潜水艦対策として沿海州の主要港一帯に敷設した繫維機雷が流出したと書かれている。

鰻目の機雷事故は、気比丸の触雷と同様に、旧ソ連の機雷が漂着した物が爆発した可能性が高いと考えられる。当時の北國毎日新聞記事を見れば、冬場に機雷が漂着することは共通認識されていたようである。沿海州から冬場に卓越するリマン海流で朝鮮半島に流されたソ連の機雷が、冬の北西の季節風で日本海側の海岸に運ばれてきたと私は考えている。

ガメラン体操

原住民族一の歌をなすガメラン歌を伴奏として本舞である「ガメラン」

1944年 門前吉浦の機雷事故 13人が死亡

1944(昭和19)年12月に当時の鳳至郡七浦村吉浦(現在は輪島市門前町吉浦)の海岸で機雷爆破によって13人が死亡する事故が起きている。県立図書館で当時の新聞記事をさがす。1944(昭和19)12月15日付の北國毎日新聞(北國新聞の前身)には、前年2月に漂着した機雷を金属供出のために運び出そうとした際に爆発したと記されていた。5月13日に、門前町中谷内出身の谷内敬さん(高教組OB)といっしょに吉浦の碑を見に行った。その時に、この機雷事故について調べていた吉浦の覚成寺住職の岡本満葉さんと吉浦区長の天井さんに会って話を聞いた。NHK金沢も同行取材し、その日の夕方の「かがのとイブニング」に取り上げられた。

当時の区長が記録した吉浦村「諸事控」には、「昭和19年12月13日 金属回収ナレハ 前年江脇へ漂着セシ機雷ヲブイト誤認シ、皆月郵便局ノ向、山岸浜倉庫へ運バンセシニ爆破セリ。左の13名即死セリ」と書かれている。

この機雷事故で祖父を喪った岡本満葉さんは、関係者に聞き取り調査をして、七浦中学校同窓会誌「しつら」(1986年発行)に記録を寄せている。その記録には、「機雷は1メートルくらいの円形をしており、1年ほど前に寄ったのを、竹を敷いて浜の上の方まで上げたものであった。また、機雷には40尋(約70m)もあるワイヤが付いていたが、それをHさんとNさんが村から買った」「子どもたちが、この機雷の上に乗って遊んでいたが、どこからはずしてきたのか、外国語で書かれた説明書のようなものに入った筒を取ってきた。巡査が怒るから返して来いと言われて、渋々返しに行った」などの証言が載せられている。

これらのことから、この機雷は繫維(繫留)機雷であることがわかる。ワイヤに繋がれていること、球体であることから、この機雷は海底に置いた繫維機から繫維索(ワイヤ)で繋がれて海面近くに敷設したものである。また、40尋(約70m)もあるワイヤが機雷に付けられていたことから、かなり深い所から海面に近い所まで機雷がワイヤで繋がれていたと考えられる。このワイヤが何らかの原因で切れて海を漂い、門前の海岸に漂着したのである。

1944.12.15
(23)

機雷爆破で十三名即死 七浦

石川縣鳳至郡七浦村吉浦海岸に昨年二月上旬漂着した丸小機雷を今度吉雷として回収しようとする十三日午後八時ごろ吉浦區長岡本満葉さんと山本幸三、中田次郎、中野多太郎、水口定男、山口タキハ、松本ヨセ、前井孝、清水ケン、高橋松(菅本イサ)、高木玄漢、核持ト、の十三名が出動、午前八時三十分ごろこれを爆破するとしをどきと機雷が爆破し、即ち十三名は即死した。機雷から海田太郎

お正月 砂糖食酢など 加配を考究

石川縣ではさきに味増の低給をうけてあるものに對しお正月用として一人五斗の増給を決定したが近くさらに砂糖、食酢(農村へは機雷)の加配および多斗減給の増給の加配を行ふこととなりその方法を研究中である

等報功勞者 労働局長

緩目や門前吉浦へ漂着した機雷はリマン海流によって南下し、冬の季節風によって日本海沿岸に流れ着いたと考えられる。今でも朝鮮半島からの漂流物が能登へ漂着することは多いが、2021.03.16付北國新聞記事のようにロシアからも漂着することがある。



戦後70年の記憶

□ 5 □

機雷の爆発で水柱を上げて沈没する船や海を漂う人々。十七枚にわたる子どもたちの絵はつたなく素朴だが、細部まで手を抜かず一生懸命に描いたことがうかがえる。一九八四年に七尾市小丸山小学校六年五組の児童が作った巨大紙芝居は、終戦直後の七尾湾で起きた「第二能登丸の遭難」を今に伝える。

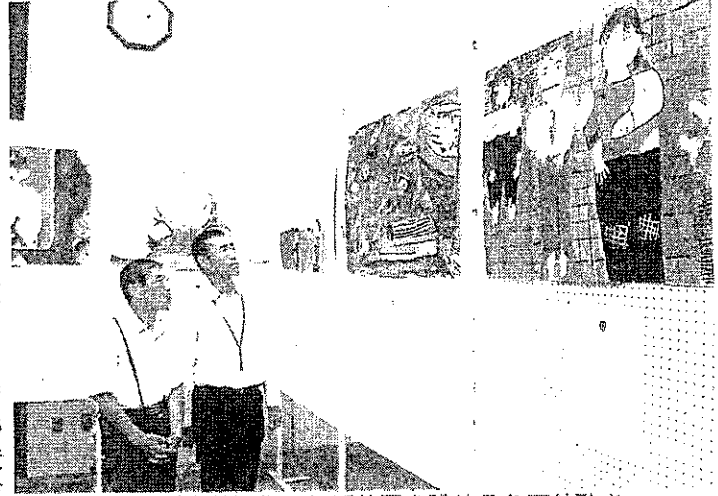
戦時中、七尾市街地に大規模な空襲の被害はなかったが、七尾湾を封鎖するため、七尾湾には約四百四十個の機雷が落とされた。四五年八月二十八日、七尾湾で働く能登島や鶴浦地区の労働者が通勤に利用していた第二能登丸が、南湾で機雷に接触し大破。戦争は終わっていたのに、すさまじい爆発で二十八人が犠牲になった。

「三十年ぶりに見たけ

1984年制作 小丸山小の紙芝居

れど、紙芝居のことをはつきり覚えていた。教科書の中の話だと思っていた戦争が急に身近になり、怖かった。紙芝居を作った児童の一人で現在は市職員の高川淳さん(三三)は、自分の手掛けた部分を指さしながら、当時の記憶をよみがえらせた。

紙の大きさは縦八十センチ横百センチ。絵の具を使って四十二人で十七枚を描く作業も大変だったが、完成に至るまでの学習期間も二カ月以上と長く、戦争が地域にのこした爪痕を知って関心を抱く機会になった。「子どもな



30年以上前に作った紙芝居を眺める角三外弘さん(左)と立川淳さん(右)=七尾市のフォーラム七尾で

地元の戦禍記録に

心配する。体験者や語れる人がいなくなっていく中で、第二能登丸を知らない市民がいる現状も否定できない。

幸いにして比較的被害の小さかった七尾で、次世代に戦争の恐ろしさを伝え、平和を尊ぶ思いを継承するにはどうすればいいのか。角三さんは「戦後生まれの私ももうじき七十歳になる。体験者は少なくなっているが、本や映像は残っているし、現場に足を運んだら、詳しく調べている人の話を聞いたたり、学べる方法はある。どんなに忙しくても、大人の責任で子どもたちに伝えていかなければならぬ」と話す。

「どこか遠くの出来事ではなく、地元と戦争のつながりを教える必要が全容をまとめ、記録に残すべきだとの思いを強くした。」

指導した角三外弘さん(六三)は七尾市本府中町に居ができてからも三十年以上が過ぎ、戦争の記憶「平和写真パネル展」で展示されている。市は、第二能登丸を含む戦時の

後記 紙芝居は三十年以上前に描かれたとは思えないほど状態がよく、当時の子どもたちが真面目に絵筆を握る光景が目につく。意味をどれだけ理解できるかは別にして、自分の住む地域で多くの人が亡くなった歴史を知ることが、子どもたちに大きなインパクトを与えるだろう。第二能登丸の悲劇を、平和教育に取り入れるべきだ。

北陸中日新聞七尾支局は、能登在住の皆さんから「戦後70年に思う」を募ります。戦後、歩んできた平和への思いをお寄せください。1人、400字以内です。能登版で8月中旬に掲載します。手紙またはファクス=0767(53)6887、メール=nanao@chunichi.co.jpで受け付けます。締め切りは、14日です。

1 はじめに

関門海峡や瀬戸内海、日本海側の港湾や海域でアメリカ軍が投下(敷設)した機雷による爆発が多発した。七尾湾における第二能登丸のそうなんは敗戦直後の1945年(S20)年8月28日に起きている。2022年5月7日の北陸中日新聞能登版に1947(S22)年5月9日に、石川県志賀町長沢の日本海の海岸に漂着した機雷に触れて13歳の少年が爆死したことが書かれていた。この機会に少し調べてみた。

2 舞鶴港(京都府)で浮島丸が爆発 1945(昭和20)年8月24日

日本へ連行されて働かされていた人たちを含めて約4千人の朝鮮人が、日本の敗戦によって祖国へ帰ることになった。「浮島丸」(4,730ト、乗組員255人)に乗って舞鶴港を出港したが、舞鶴湾で爆発した。朝鮮人524人、日本人乗組員25人、合計549人が死亡した。戦争中にアメリカ軍が投下(敷設)した機雷が爆発したと考えられている。

3 対馬海峡で珠丸(たままる)が触雷 1945(昭和20)年10月14日

中国や朝鮮からの引揚者などおよそ1千人を乗せた「珠丸」(500ト)が、対馬海峡で触雷して沈没した。太平洋戦争中に日本海軍が対馬海峡に敷設した機雷による事故であった。およそ800人の犠牲者が出たとされているが、敗戦直後の混乱の中で事実確認が困難であったためか、死亡者数などの正確な記録は残されていない。

4 岡山県牛窓沖で女王丸(じょおうまる)が触雷 1948(昭和23)年1月27日

大阪港と瀬戸内海の香川県多度津港とを結ぶ関西汽船の連絡船「女王丸」(400ト)が神戸などを經由して瀬戸内海を航行中、岡山県牛窓沖で触雷して沈没。死者・行方不明183人。同海域では、1947年7月に「第二日航丸」が、1947年9月に「鳩山丸」が触雷している。アメリカ軍が投下(敷設)した機雷による被害である。

5 新潟県名立(なだち)町の海岸に漂着した機雷が爆発 1949(昭和24)年3月30日

新潟県名立町(現在は上越市に合併)の海岸に機雷が漂着しているのを地元住民が見つけた。ドラム缶大(長さ1.5m、直径1m)の大きさのものであったという。どこの国が敷設した機雷であるのかは不明であるが、繫維(繫留)機雷であることから、日本軍が対馬海峡に敷設したものが漂着した可能性が高い。

住民から知らせを受けた警察派出所の巡査が現場へかけつけて海中に飛び込んで沖へ押し出そうと機雷に近づいた瞬間、爆発した。巡査をはじめ、見物に来ていた子どもたちなど63人が死亡した。うち小学生は42人であった。同年8月15日に供養塔が建てられ、入仏式が催され、記念碑も建立された。供養塔は遺族によって建立されたものである。記念碑は名立町と新潟県教職員組合によって建立された。町は地ならしと完成後の維持を受け持ち、建設費用41万円は新潟県教組が負担した。

記念碑には「平和をまもる」の碑銘が刻まれている。名立中学校文化部が寄せた作品の要旨をとって碑文としている。

七尾港の中国人強制労働 — 七尾市

七尾の能登食祭市場から七尾港(矢田新埠頭)へ向かう海岸道路の右側に「日中友好碑」(「一衣帯水」碑)が建てられている。碑の表には、中国仏教協会会長で書家でもあった趙樸初さんが詠んだ七言絶句の漢詩が刻まれている。漢詩は「日本と中国は狭い海をはさむ一衣帯水の隣国である。両国には過去に喜びと悲しみがあつたが、これから永遠に仲よくしよう」と訴えている。毎年八月十五日には、この碑の前で慰霊法要が行われている。

なぜこの石碑が建てられ、慰霊法要が行われているのか、漢詩のいう喜びや悲しみとは何か、石碑の文や中国人の証言から考えてみよう。

一九九五年(平成七)八月に馬得志さんという中国人が七尾へ来た。馬さんは、アジア・太平洋戦争の終わりが七尾港で働かされていた人である。七尾港では、船からの荷揚げや陸送などの業務をする七尾港海陸運送株式会社があり、戦争のために働く人が足りないということで、日本政府が中国人を連れてきて働かせることを決めた(一九四二年の閣議決定)。日本へ連れてこられた中国人は、およそ四万人にもなる。厳しい労働と栄養不足、虐待のために、そのうちのおよそ七千人が日本で死亡

した。

七尾へは中国人三百九十九人が強制連行され(うち十五人が七尾で死亡)、七尾港で働かされた。馬さんはそのうちの一人だった。馬さんは、二十一歳だった一九四四年(昭和十九)十一月に七尾へ連行され、一年近く七尾で働かされ、日本の敗戦後の一九四五年(昭和二十)十一月に七尾を発つて中国へ帰った。

五十年ぶりに七尾へ来た馬さんは、七尾へ連行される前の中国での生活、七尾での生活、中国へ帰る時の様子、帰国後の生活などを七尾の市民に話してくれた。

「私は一九四四年(昭和十九)当時、山東省で小学校の先生をしていた。そのころ、日本軍が中国を侵略していた。中国人は日本軍の侵略に反対した。日本軍は反対する中国人を捕まえて、牢屋に入れた。私の学校も日本軍の兵隊に囲まれて、先生はみんな捕まえられた。私は日本軍の兵隊になくられたり、水をかけられたり、ひどい拷問を受けた。その後、山東省濟南にあった「新華院」という収容所へ押し込められた。しばらくして、青島の港から貨物船で日本の下関へ、下関から貨物列車で七尾へ連れてこられ、港の近くにあった倉庫を改造した建物に入れられた。一九四四年(昭和十九)十一月のことだ。それからおよそ二年間、七尾



毎年8月15日に営まれている追悼法要

隣邦水共一衣帯
文化花開連理枝
休戚相関日禦侮
子孫萬代永提携

一九七七年八月奉獻
七尾市日中友好之碑
趙樸初

隣国とは一衣帯水の関係にある。
[中国と日本は一衣帯水の関係にある]
文化の花が開き枝が連なっている。
[中国と日本の文化が花開き連理の枝のように連なっている]
過去に喜びと悲しみがあつた、ある時は纏懐(絆)にまでなつた。
[過去に友好や戦争の日々があつた]
子孫万代に至るまで永久に提携しよう。
[今後、平和・友好の関係を続けていこう]
[語句の意味]
一衣帯水：一筋の帯を引いたような狭い水の流れや海峡。
また、そのような水を間にして相対していること。
休戚……喜びと悲しみ(休)は繁(盛)、(戚)は憂の意。幸と不幸(よ)いこと悪いこと。
禦侮……敵国の侮りを防ぐこと。外敵を防ぐこと。

で苦しい生活をさせられた。

- ・仕事……七尾港へ運ばれてきた荷物をかついで船から陸へあげたり、倉庫へ運んだり、貨車に積んだりする仕事をした。七十キロを越える荷物をかつぐのはたいへんだつた。朝早くから夜おそくまで、一日に十二時間(十四時間も働かされた。仕事かきぎしいのに食べ物あまり与えられないため、体が弱って歩く力もないくらいだつた。
- ・食べ物……一日に黒いむしパン六個(朝昼夜に二個ずつ)だけだつた。たまに野菜やワカメのみそ汁が出た。栄養不足で、失明者や皮膚病などの病人がいつぱい出た。病気になつても医者にみてもらえず、十五人が死に、失明者も六十四人出た。
- ・住んでいた所……たて十一メートル、横二十六メートルほどの二つの倉庫をつないだ建物に三百九十九人が詰めこまれた。ふとんがないので、藁でござのようなものを作つて敷いた。夏は湿気が多くて蚊やシラミに食われた。冬は暖房がなく寒さで凍られなくらいだつた。風呂には、日本の敗戦まで一回も入れなかつた。

〈中国人強制連行・強制労働事件〉戦後補償裁判の経過と判決一覧

1	花岡事件 (秋田県花岡鉱山の河川改修工事、連行被害者は986人) 被告: 鹿島組 (現・鹿島建設。国は被告でない) 原告: 11人 (生存者) 1995年6月28日 提訴 (東京地裁) 1997年12月10日 東京地裁敗訴 2000年11月 東京高裁で和解成立 ※和解内容: 連行被害者986人が対象。鹿島建設は中国紅十字社に5億円拠出、信託。被害者への支払い、遺族の慰霊、追悼等に当てるとする。
2	劉連仁事件 (東京第一次訴訟、北海道明治鉱業・昭和鉱業所に連行され、脱走して13年間、北海道で逃亡を続けた事件、連行被害者は200人) 被告: 国 原告: 1人 (劉連仁本人) 1996年3月25日 提訴 (東京地裁) 2001年7月12日 東京地裁勝訴 ※賠償額2000万円を認める。ただし戦時中の強制連行については国家無答責を理由に認めず、戦後の国の対応について認める。 2005年6月23日 東京高裁敗訴 2007年4月27日 最高裁敗訴
3	東京第二次訴訟 (全国各地で使えられた事件) 被告: 国、間組 (現・ハザマ)、古河鉱業 (現・古河機械金属)、鉄道建設興業 (現・鉄建建設)、西松組 (現・西松建設)、宇部興産、藤田組 (現・岡和ホールディングス)、日鉄鉱業、飛島組 (現・飛島建設)、日本鉱業 (現・新日鉱ホールディングス)、三菱鉱業 (現・三菱マテリアル) 原告: 42人 1997年9月18日 提訴 (東京地裁) 2003年3月11日 東京地裁敗訴 (国家無答責は否定) 2006年6月16日 東京高裁敗訴 2010年6月16日 最高裁敗訴 2017年4月26日 和解成立 ※和解内容: 広島安野訴訟に関連し、西松建設との間に信濃川作業場に関する連行被害者全員183人について和解が成立。和解金1億2800万円。

4	長野訴訟 (長野県木曾谷などの水力発電所工事) 被告: 国、鹿島建設、熊谷組、大倉組 (現・大成建設)、飛島組 (現・飛島建設) 原告: 7人 1997年12月22日 提訴 (長野地裁) 2006年3月10日 長野地裁敗訴 2009年9月17日 東京高裁敗訴 2010年2月24日 最高裁敗訴
5	広島安野訴訟 (広島県安野水力発電所工事、連行被害者は360人) 被告: 西松組 (現・西松建設。国は被告でない) 原告: 5人 (被害者・遺族) 1998年1月16日 提訴 (広島地裁) 2002年7月9日 広島地裁敗訴 2004年9月29日 広島高裁勝訴 (1人) 550万円 2007年4月27日 最高裁敗訴 (付言がつく) 2009年10月23日 和解成立 ※和解内容: 最高裁付言に基づき、被害者全員360人を対象とする和解が成立。和解金2億5000万円。
6	京都大江山訴訟 (大江山ニッケル鉱山での強制労働、連行被害者は200人) 被告: 国、日本冶金 (現・日本冶金工業) 原告: 6人 1998年8月14日 提訴 (京都地裁) 2003年1月15日 京都地裁敗訴 2004年9月29日 大阪高裁で原告6人につき企業とのみ和解成立 (1人350万円) 2006年9月27日 大阪高裁、国に敗訴 2007年6月12日 最高裁、国に敗訴
7	北海道訴訟 (各地炭鉱労働) 被告: 国、三井鉱山 (現・日本コークス工業)、住友石炭鉱業 (現・住石マテリアルズ)、熊谷組、野村鉱業 (現・野村興産)、新日本製鐵 (現・新日鉄住金)、地崎組 (現・岩田地崎建設)、三菱鉱業 (現・三菱マテリアル) 原告: 44人 1999年9月1日 提訴 (札幌地裁) 2004年3月23日 札幌地裁敗訴 2007年6月28日 札幌高裁敗訴 2008年7月8日 最高裁敗訴

8	新潟訴訟 (新潟港での港湾荷役、連行被害者は901人) 被告: 国、新潟臨港開発 (現・リンコンコーポレーション) 原告: 12人 1999年8月31日 提訴 (新潟地裁、3回に分けて提訴) 2004年3月26日 新潟地裁勝訴 (1人) 800万円 2007年3月14日 東京高裁敗訴 2008年7月4日 最高裁敗訴
9	福岡第一陣訴訟 (炭鉱労働、事業場は三井三池炭鉱、田川炭鉱など多くに分かれていた) 被告: 国、三井鉱山 (現・日本コークス工業) 原告: 15人 2000年5月10日 提訴 (福岡地裁) 2002年4月26日 福岡地裁、三井鉱山に勝訴 (1人1100万円) 2004年5月24日 福岡高裁敗訴 2007年4月27日 最高裁敗訴
10	群馬訴訟 (利根川の水力発電所工事など) 被告: 国、間組 (現・ハザマ)、鹿島組 (現・鹿島建設) 原告: 48人 (被害者・遺族) 2002年5月27日 提訴 (前橋地裁) 2007年8月29日 前橋地裁敗訴 2010年2月9日 東京高裁敗訴 2011年3月1日 最高裁敗訴
11	福岡第二陣訴訟 (炭鉱労働) 被告: 国、三井鉱山 (現・日本コークス工業)、三菱鉱業 (現・三菱マテリアル) 原告: 45人 2003年2月28日 提訴 (福岡地裁) 2006年3月29日 福岡地裁敗訴 2009年3月9日 福岡高裁敗訴 2009年12月24日 最高裁敗訴

12	長崎訴訟 (三つの炭鉱での強制労働) 被告: 国、長崎県、三菱鉱業 (現・三菱マテリアル)、三菱重工 原告: 10人 2003年11月28日 提訴 (長崎地裁) 2007年3月27日 長崎地裁敗訴 2008年10月20日 福岡高裁敗訴 2010年1月6日 最高裁敗訴
13	宮崎訴訟 (三菱横峰銅鉱山での強制労働、連行被害者は250人) 被告: 国、三菱鉱業 (現・三菱マテリアル) 原告: 13人 2004年8月10日 提訴 (宮崎地裁) 2007年3月26日 宮崎地裁敗訴 2009年3月27日 福岡高裁宮崎支部敗訴 2010年5月27日 最高裁敗訴
14	山形酒田訴訟 (山形県酒田港での港湾荷役、連行被害者は338人) 被告: 国、酒田港湾運送 (現・酒田海陸運送) 原告: 12人 2004年12月17日 提訴 (山形地裁) 2008年2月12日 山形地裁敗訴 2009年11月20日 仙台高裁敗訴 2011年2月18日 最高裁敗訴
15	石川県七尾訴訟 (七尾港での港湾荷役) 被告: 国、七尾海陸運送 原告: 4人 (4人と追加2人) 2005年9月・2006年4月 提訴 (金沢地裁) 2008年10月31日 金沢地裁敗訴 2010年3月22日 名古屋高裁金沢支部敗訴 2010年7月29日 最高裁敗訴

※太子独調部分は、勝訴した裁判

16 大阪・花岡園地訴訟
秘録: 国
原告: 15人 (被害者と遺族)
2015年6月26日 東京地裁敗訴
2019年1月24日 大阪地裁敗訴
2020年2月4日 大阪高裁敗訴
2021年5月24日 最高裁敗訴



土饅頭の墓にお参り 河南省上蔡県で



北京の馬得志さんの墓にお参り(手前は遺族の馬駿さん)

追悼訪中が新聞にとりあげられる

北陸中日新聞 二〇一七年十二月二十九日の記事

北 陸 中 日 新 聞 2017年(平成29年)12月29日(金曜日)

強制連行生き証人との絆

七尾の男性 中国で交流

石川県七尾市の男性が、戦時中に七尾港に強制連行され、重労働を強いられた中国人との交流を続けている。今月中旬に中国を訪れ、元作業員と再会した男性は「これからの交流を続け、後世に歴史を伝えたい」と話す。(松村真一郎)

七尾市本府中町の角三外弘さん(79)。二〇一五年、元企業を相手に損害賠償などを求める訴訟を金沢地裁に起こした原告の支援会代表を務めた。一〇年に最高裁で敗訴が決まった後も、元作業員三人を含む原告四人と、手紙をやりとりしてきた。

河南省や山東省など中国各地から日本に連れてこられた元作業員たちは、石炭や大豆などの荷揚げや運搬に従事させられた。角三さんは、今年十一月十六日に現地を訪れ、朱さんと最高裁判決以来、七年ぶりに再会した。朱さんは耳が不自由になっていたものの、自分ですべて話さず、角三さんが通訳をしながら話を聞いた。

七尾港での中国強制連行。一九四四年秋から四五年春にかけて、三九〇人の中国人が強制連行され、一五の最悪裁判決を踏襲し、請求人が死亡。元作業員らは二〇〇五年、元企業を相手に金沢地裁に提訴。〇八年の判決は、強制連行と労働の事実を認定したものの、「日中共同声明により裁判上の請求権は失われた」とする別の裁判での最悪裁判決を踏襲し、請求人を棄却。二審名古屋高裁金沢支部も支持した。強制連行は約四万人の中国人が強制労働させられ、約七〇〇〇人が死亡したとされる。

亡き人の思い、記録 後世に



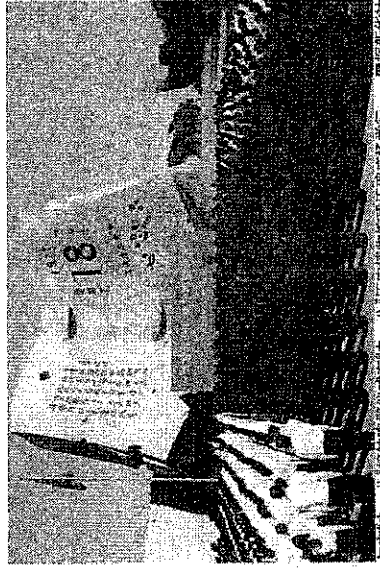
90歳と7年ぶり再会 朱安国さんと7年ぶりに再会した角三外弘さん(右)。同日、中国河南省で(角三さん提供)

角三さんは、小学校教師だった一九五五年に、七尾市を訪れた馬さんと出会い、支援活動を始めた。支援会は、裁判を終結を受けて二二年に解散したが、角三さんは「七尾強制連行への戦後補償を実現する会」を立ち上げ、代表を務めながら機関誌も発行している。

「七尾で中国人の強制連行があったことは、まだまだ知られていない。亡くなった方々の思いを受け継ぎ、記録に残して後世に伝えていきたい」。来年末までに、活動記録を冊子にまとめるつもりだ。

沈阳举行“勿忘九一八”撞钟鸣警仪式

14响钟声 14年抗日战争艰辛历程

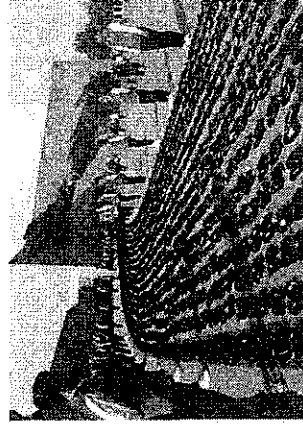


新华社电 今年九一八事变爆发70周年，9月18日上午，来自社会各界的千多名人士在沈阳敲响撞钟，举行撞钟鸣警仪式，以铭记历史，缅怀先烈。

上午10时，撞钟鸣警仪式在沈阳举行。撞钟鸣警仪式在沈阳举行，千多名各界人士参加。撞钟鸣警仪式在沈阳举行，千多名各界人士参加。撞钟鸣警仪式在沈阳举行，千多名各界人士参加。

撞钟鸣警仪式在沈阳举行，千多名各界人士参加。撞钟鸣警仪式在沈阳举行，千多名各界人士参加。撞钟鸣警仪式在沈阳举行，千多名各界人士参加。

中国劳工血泪史特别展在沈阳“九一八”历史博物馆开幕 首次摆放数千双黑色布鞋 象征中国劳工遇难者尊严

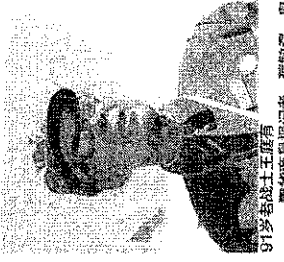


本报讯(华南商报) 高毅 昨日，在沈阳“九一八”历史博物馆，数千双黑色的布鞋，首次摆放在那里。

这些布鞋，是象征中国劳工遇难者的尊严。这些布鞋，是象征中国劳工遇难者的尊严。这些布鞋，是象征中国劳工遇难者的尊严。

这些布鞋，是象征中国劳工遇难者的尊严。这些布鞋，是象征中国劳工遇难者的尊严。这些布鞋，是象征中国劳工遇难者的尊严。

老兵讲述 残历碑前九旬老战士忆锦州战役

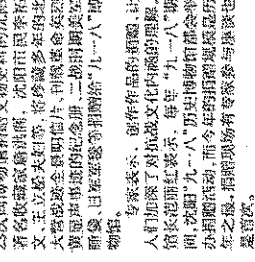


本报讯(华南商报) 高毅 记者 蔡敬强 摄 91岁老战士王康有，今天在锦州战役纪念馆前，向记者讲述了他当年的经历。

王康有老战士，今年91岁，是锦州战役的亲历者。王康有老战士，今年91岁，是锦州战役的亲历者。王康有老战士，今年91岁，是锦州战役的亲历者。

王康有老战士，今年91岁，是锦州战役的亲历者。王康有老战士，今年91岁，是锦州战役的亲历者。王康有老战士，今年91岁，是锦州战役的亲历者。

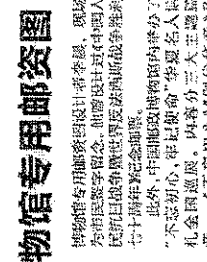
“九一八”博物馆获赠《北大营赋》 史料捐赠



本报讯(华南商报) 高毅 记者 蔡敬强 摄 近日，由沈阳“九一八”历史博物馆馆长王康有，向沈阳“九一八”历史博物馆捐赠了《北大营赋》。

《北大营赋》是作者王康有，为纪念“九一八”事变而作。《北大营赋》是作者王康有，为纪念“九一八”事变而作。《北大营赋》是作者王康有，为纪念“九一八”事变而作。

抗战文化 沈阳首发 “九一八”历史博物馆专用邮资图



本报讯(华南商报) 高毅 记者 蔡敬强 摄 为纪念“九一八”事变70周年，沈阳“九一八”历史博物馆，近日在沈阳首发“九一八”历史博物馆专用邮资图。

该邮资图由著名设计家李群设计。该邮资图由著名设计家李群设计。该邮资图由著名设计家李群设计。

主题音乐《烽火九一八》渐曲首发

本报讯(华南商报) 高毅 记者 蔡敬强 摄 为纪念“九一八”事变70周年，沈阳“九一八”历史博物馆，近日在沈阳首发主题音乐《烽火九一八》。

该音乐由著名作曲家创作。该音乐由著名作曲家创作。该音乐由著名作曲家创作。

2018年9月19日(水) 华南商报 沈阳观察

沈阳“九一八”历史博物馆，近日在沈阳首发“九一八”历史博物馆专用邮资图。该邮资图由著名设计家李群设计。

为纪念“九一八”事变70周年，沈阳“九一八”历史博物馆，近日在沈阳首发主题音乐《烽火九一八》。

首次摆放数千双黑色布鞋，象征中国劳工遇难者尊严。这些布鞋，是象征中国劳工遇难者的尊严。

“九一八”博物馆获赠《北大营赋》。《北大营赋》是作者王康有，为纪念“九一八”事变而作。

抗战文化 沈阳首发 “九一八”历史博物馆专用邮资图。该邮资图由著名设计家李群设计。

主题音乐《烽火九一八》渐曲首发。该音乐由著名作曲家创作。

七尾強制連行 歴史後世に

元労働者支援・角三さん 活動記録出版



「七尾強制連行」の調査や裁判活動などを記した本を執筆している角三外弘さん＝七尾市本府中町

七尾強制連行問題

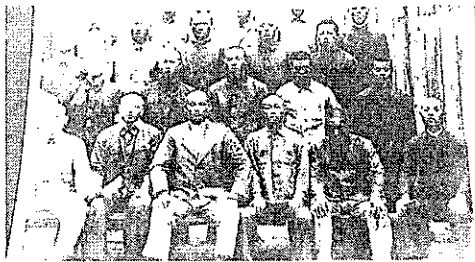
第2次世界大戦末期の1944年11月から4回に渡り、計399人の中国人が連行され、七尾港周辺で強制労働に従事させられた。過酷な労働、劣悪な環境、栄養失調などで15人が死亡し、64人が失明したとされる。2005年、元労働者や遺族らが国と

「七尾海陸運送」（七尾市）を相手取り、謝罪と損害賠償を求めて提訴。08年の金沢地裁判決は、強制連行の事実、国と会社の安全配慮義務違反などを認める一方、「1972年の日中共同声明で請求権は失われた」と、原告の請求を退けた。10年には最高裁で上告が棄却され、原告の敗訴が確定した。

戦時中に七尾市に強制連行された中国人が過酷な労働を強いられ、後に国や企業に損害賠償を求める裁判にもなった「七尾強制連行問題」をめぐり、元労働者らを支援している七尾市の角三外弘さん(73)が、現地での調査や裁判の活動などを本にまとめた。「次の世代に歴史の事実を伝えたい」と願っている。

事実の風化に危機感

角三さんがこの問題に取り組むようになったきっかけは、小学校の教員だった1995年、七尾市を訪問していた中国人の元労働者、馬得志さん(故人)と出会ったことだ。市内にある強制連行の犠牲者の名が刻まれた慰霊碑を、指でなぞり涙を流す馬さんの姿を見た。「埋もれさせてはいけないと思った」



88年に「七尾強制連行問題を調査する会」を立ち上げ、計16回にわたって訪

しかし、角三さんが確認できていた元労働者は現在ただ一人となり、年齢も90歳を超えた。元労働者の子どもたちも60歳を過ぎる人ばかりになった。角三さんら支援者側も高齢化している。「徐々に生存者がいなくなるなか、記録を残して情報発信しなければ」との思いを強くしたという。

角三さんが保管している、当時の中国人労働者たちの集合写真

中、生存者や遺族から状況を聞き取った。東京にある華僑の団体を訪ね、戦時中の中国人の就労状況を記録した外務省の資料なども読み込んだという。

執筆の動機はもう一つあった。2002年問題を子どもたちに伝えようと、県教職員組合の教員らが編集する補助教材「夏休み帳」で取り上げると、「自虐的だ」と一部の県議から批判の声があがった。勤務先の学校に「元労働者はウソを言っている。彼らは日本に来なくて来た」などと押しかけてくる人もおり、抗議の電話も殺到したという。

約3年がかりで執筆した本は「七尾港 中国人強制連行の記録」。400ページになった。調査や裁判の活動記録などに加え、これまでで収集した元労働者の名簿などもつけた。7月中旬に完成させ、自費出版する。角三さんは「インターネットの登場で、歴史の事実が歪曲される傾向がさらに強くなった。この本で平和な世を担う次世代に歴史を知って欲しい」と話した。

強制連行訴訟の弁護団長を務めた岩淵正明弁護士(金沢弁護士会)は「原告の多くが既に亡くなり、事実が風化する恐れがあるなかで、とても有意義な出版だ。強制連行の事実を知らない一般の人にも伝わることを」と期待している。

第二能登丸の悲劇を学ぶ
七尾湾で石川よろこひの会



第二能登丸の悲劇について学んだ参加者

七尾の戦争史後世に

元教員の角三さん、本出版

七尾市本府中町の元教員、角三外弘さん(左)が、太平洋戦争末期の七尾の歴史をまとめた「七尾と戦争」を自費出版した。長年にわたる生存者や遺族への聞き取り調査や収集した資料などを掲載している。



「七尾と戦争」を自費出版した角三外弘さんを七尾市役所で

人労働者を中心に取り上げた。後半は資料編で、教職員組合や市民団体が行った詳細な聞き取り調査や国の資料などを並べた。計約三百五十冊に及ぶ。

二〇一九年に「七尾港 中国人強制連行の記録」を出版して以降、コロナ禍の影響も受ける中で二年半かけ蓄積した資料を整理し、一月二十日に発行。小丸山小学校に勤務していた一九八四年、受け持った六年生四十二人が製作した第二能登丸を題材にした紙芝居も画像と共に掲載している。

二十四日は市役所を訪れ、茶谷義隆市長に一冊寄贈。「七尾で起きたことをダイジェスト的に取り上げている。子どもたちに受け継ぐのは大事なことだと思う」と伝えた。茶谷市長は「祖母、曾祖母に戦時中や戦後の大変な話を聞いた。ゆっくり読ませてください」と応じた。佐藤喜典市議長が同行した。

一冊二千五百円(税別)。七尾市と中能登町のきんぎわ書店で購入できる。(稲垣達成)

茶谷七尾市長に「七尾と戦争」を贈呈する。佐藤議長が同行してくれた。2022年2月24日

「七尾と戦争」を市内の小中学校と図書館に寄贈する。2022年3月7日の校長会で講話

17 【能登総合】 2022年(令和4年)3月12日(土曜日)



小中学校の校長の前で七尾の戦争の歴史について語る角三外弘さん＝七尾市役所で

「七尾と戦争」20冊寄贈 自費出版 元教員・角三さん市教委に

太平洋戦争末期の七尾市などの歴史をまとめた本「七尾と戦争」を自費出版した同市本府中町の元教員、角三外弘さん(左)が市教委に二十冊を寄贈した。市内の小中学校、図書館などに配布される。

本では、木造船「第二能登丸」が七尾湾に敷設された機雷に接触し爆沈、二十八人が犠牲になった事件について遺族から聞き取った当時の様子などを取り上げた。小丸山小に勤めていた一九八四(昭和五十九)年、受け持った六年生四十二人と事件を伝えるために作った紙芝居も掲載。七尾

市役所で開かれた小中学校の校長十四人が集まる校長会の場で贈呈。角三さんは阿部斉・校長会会長(小丸山小)に手渡し、本の内容などを紹介した。阿部会長は「七尾で起こった戦争を子どもたちに必ず伝えていきたい」と語り、角三さんは「過去の影の部分と光の部分も含めてこれからの世代が生きていくことにつながる」と話した。

(大野沙羅)

第28回「日退教組織活動交流集会」(2022年10月14日)

レポート

第2分科・分散会 「教育・人権・文化・組織」

- ④ 「この1年の活動を振り返って～平和とジェンダー平等を求めて」

松田秀子 (東京高退)

この一年の活動を振り返って
～平和とジェンダー平等を求めて～

2022. 10. 14 都高教退職者会

【はじめに】

都高教退職者会では例年、都高教との共催で「原発」と「憲法」の二つの学習会を開催しているのに加え、都高教退職者会独自の活動として辺野古ツアーを行っています。それとともにジェンダー平等の視点を活動に位置づけることも重要課題として取り組んでおり、今年度は幹事の女性割合が初めて3割を超えたこともご報告します。

なお「都高教退ニュース」は2022年4月1日で100号を迎え、座談会、活動経過、メッセージを掲載しました。

【1】「原発学習会」

昨年12月4日に、講師に国際環境NGO FoE JAPAN 理事、事務局長。原子力市民委員会座長代理の満田夏花（みつたかな）さんをお呼びして「福島原発事故から10年 見えない化される事故被害をどう伝える？」をテーマに講演していただきました。

満田さんはまず「原発ゼロにしなければならないこれだけの理由」として1) 解決不能な核のゴミ、2) 原発のコスト、3) 原発は不安定でリスクが大きい、4) 原発止めてもCO₂は減少(原発の存在そのものが電力の大量消費を促した側面がある)、5) 再生可能エネルギーは100%可能と述べ、核燃サイクルの危険性も指摘されました。

続いて「終わらない原発事故と被害の見えない化」では、国際勧告では公衆の被曝限度は年1ミリシーベルトなのに、文科省が学校施設の利用基準として20ミリシーベルトにしようとしたこと、土壤汚染の基準も設けないことを挙げ、2012年6月に議員立法で成立した「支援法」も棚上げされ、骨抜きにされた経緯についても説明されました。避難者の問題にも触れ、避難者が減る中、避難継続が無理で帰らざるを得なかった方々の存在や、2017年3月で自主避難対象者の住宅支援が打ち切られ死活問題となっても7割くらいの方が継続避難を選択されたとのことでした。

最後に「ばらまかれる放射性物質 ALPS 処理汚染性をめぐる状況」について、放射性物質の総量が不明なうえ、何が入っているかわからないのが怖い、政府はトリチウムは安全であるかのように広報しているが量に応じた影響はあるわけだと述べ、「風評被害」で加害者の責任をあいまいにするのは嫌なやり方だし、放射性物質をこれ以上海に流すべきではないし、原発も止めるべきだと締めくくられ、脱原発の思いを参加者と共有しました。

【2】ジェンダーの視点からの「憲法学習会」

6月4日(土)には講師にジャーナリスト/メディア共同組合アンフィルターで女性による女性のための相談会実行委員の松元ちえさんに「コロナ禍の女性の貧困と困窮の現場から」と題して講演していただきました。昨年12月9日、日退教ジェンダー平等委員会で松元ちえさんのお話をお聞きし、都高教退職者会でも是非お話を伺いたいと思い講演を依頼しました。

松元さんは女性をめぐる社会的背景から話しを始められました。●日本では女性の1/4が虐待、性暴力、ハラスメント、DVなどの暴力を受けている ●短期雇用、低賃金などで不安定な生活と労働を強いられている ●孤独、孤立状況になっている女性が多いが、なかなか相談につながる女性が少なく、女性だけで相談会を作る必要性を実感されたそうです。相談会の実行委員会には市民団体、労働組合、労働弁護団など専門性を持つメンバーが、あくまでも個人で参加し、仕事、すまい、家族／家庭、DV／性暴力、子育て、心と体の健康、妊娠などの相談に応じ、配付物も生花や食料品生理用品、被服など女性に配慮したものを用意されたそうです。年末年始の相談会では4日間でのべ400件近くの相談が寄せられたと言います。コロナ長期化でこれまでの生活が破綻した(女性不況)影響が見られ、なんらかの疾患を抱えている方の医療相談も多かったとのこと。女性は他者の世話を求められ、他者を優先する習慣から支援に繋がりにくく、従来の相談会ではニーズに応じてこなかったことも指摘され、問題が解決できなくても話を聞いてもらえてよかったとの声も紹介されました。

最後にまとめとして、女性にとって安心・安全な場所の支援、単発の相談会ではなく伴走型支援の必要を述べられましたが、次回を求める多くの女性の声を受け、2022年7月にも女性による女性のための相談会の開催が決定されたとの報告もありました。

格差・貧困の問題がクローズアップされている昨今ですが、ここにもジェンダーの視点が必要であることを痛感しました。

【3】辺野古座り込みツアー ※詳しくは資料参照

この1年の間に、コロナ禍の影響で延期された第7回辺野古座り込みツアーが12月1日(水)～3日(金)、第8回が6月29日(水)～7月1日(金)と実施されましたが、今回は発表者が参加した第8回のツアーについて報告します。

第8回のツアーの参加者は12名、レンタカーを3台手配しました。今回の特徴はなんといっても座り込みがなかったことに尽きます。初日の交流会前に、前泊していた参加者から岸田首相の参議院選挙の応援での訪沖の関係で、翌日の機動隊の警備対応ができず、座り込み・抗議行動はなくなるかもしれないとの情報がありました。やはり、30日に辺野古に到着すると機動隊の配備がない＝土砂搬入もないということで座り込みはないとのことでした。土砂の搬入がなく工事が遅れるのは望ましいことですが、「座り込みツアー」としては肩透かしを食らった気もしました。沖縄県退教、沖縄高退教など現地の方が集会を開催して下さいましたが、その辺の事情については目取真俊さんがブログで「東京から高退教の皆さんが来ていて、県内からの参加者を含めてゲート前に座り、ミニ集会が開かれた」と報告されています。

その後の行動は参加者と相談しながら現地で決めることになりました。30日午後は東村高江のヘリパッドの監視をしているテントを訪ねて状況の説明を受け、心ばかりのカンパもしてきました。翌7月1日は伊江島に渡り、阿波根昌鴻さんの集められた資料を展示する反戦平和資料館「ヌチドゥタカラの家」を見学し、館長の謝花悦子さんのお話を聞きました。

イレギュラーづくめのツアーでしたが、沖縄の人々の命と暮らし、平和を守るための日々の活動に触れ、例年とは違った沖縄体験をするなかで、改めて連帯の意思を強くしたことでした。

(文責 松田秀子)

座り込みはなかったが…「辺野古座り込みツアー」に参加して 岩木俊一（会員）

「座り込みツアー」の一日前の6月28日夕方、名護に着き、29日は安和、塩川での抗議行動に名護在住の知人と参加した。7時少しすぎに安和港に行くと、すでに数名の方が、トラックの入り口、出口で行動の準備中（この日、実際は9時から搬入開始…理由は岸田訪沖対応?）。10t積のダンプカーが土砂＝赤土を積んでガット船・台船（ともに土砂・石等の工所用資材運搬や工用の船）の待つ港の構内に続々と入る直前、入り口で警備員が安全確認のためダンプに一時停止を指示する際に「違法工事を止める」等のプラカードを掲げてダンプの前をできるだけゆっくりと、立ち止まることなく歩くのが抗議行動の基本形態。灼熱の太陽、蒸し暑さ、排気ガス、土埃、騒音の中、機動隊・警備員・防衛局職員の「警告」・脅しを受けながらの、過酷な行動であった。ダンプカーはま近にみると戦車が要塞の如く感じられた。

ダンプの出入り・土砂搬入を減らし、大浦湾への土砂投入＝埋立てを少しでも遅らせるための行動である。参加者の数にもよるが、この行動により最大一日延べ1300台分のダンプの出入りを半分から四分の三程度に抑えているという。着実に工事を遅らせているのだ。大浦湾が赤土で汚され、ジュゴンやウミガメ、サンゴの生存が脅かされている現実を思いつつ、ダンプの前を歩いた。

さて、6/29日（水）～7/1（金）の「辺野古座り込みツアー」（参加者12名）だが、「座り込み」等の行動がなくなるという予想外の展開となった。当初の日程では、30日、1日と「辺野古座り込みと安和の行動参加」の予定だったが、両日ともに、辺野古、安和、塩川での工事関連作業のすべてが中止されたため、座り込み・抗議行動も中止となった。工事中止の理由は判然としないが、参院選応援のための7/1岸田訪沖に対応する沖縄県警の警備体制のためではないかといわれた。5月15日（「復帰」50年式典）、6月23日（沖縄慰霊の日）（ともに岸田訪沖）にも、工事・作業はなかったとのことである。

いささか拍子抜けの気分ではあったが、沖縄の民意を踏みにじる基地建設に抗議しつつ、少しでも建設を遅らせるというツアーの目的からすれば、たとえ一日、二日であっても工事が中断されたことは歓迎すべきことだった。なによりも、連日の抗議や抵抗の前に、機動隊の配置無しでは一日も工事を進められないのが基地建設の実態なのである。

結局、30日朝は辺野古ゲート前で現地の方々が、「わざわざ東京から来てくれた」私たちを歓迎(?)して集会を開いてくれた。ゲート前座り込みはすでに2,916日、辺野古の浜のテントはなんと6,647日、「軍隊も基地もいらない」「海と山はウチナンチューのいのち」等の幟のはためく中での集会の参加者は30名位。歌、参院選も含めた現在の沖縄の闘いや、基地建設の「進行状況」の報告、ツアー参加者を代表しての河野さんの挨拶など短時間ながら充実した集会だった。作家でカヌー隊員でもある目取真俊さんは、自身も国語教員として沖高教の組合員であったこと、東京の「日の丸・君が代」強制反対の闘いに注目してきたこと、沖縄戦の教訓として「友軍」＝日本軍は住民を守らないこと等について発言した（下記ブログ参照）。また、元平和ガイドの方からは、PFOSなど有機フッ素化合物に

よる水質汚染の被害を実証するため、血液検査実施の取り組みを進めているとの報告があった。横田、厚木周辺をはじめ、全国各地に共通する米軍基地による環境汚染である。

午後は、東村高江を訪ねた、名護からひたすら北上、やんばる（山原）は深く遠い。オスプレイ離着陸訓練の監視活動を続けているテントの方に現状について聞いている際にヤンバルクイナの鳴き声が聞こえてきた。オスプレイが豊かな自然と、人々の命と暮らしを脅かし続けていることを実感した。

7月1日は台風接近の影響か、荒れ模様の日だったが伊江島の「ヌチドゥタカラの家」・反戦平和資料館を訪れ、館長の謝花悦子さんの話を聞いた。「銃剣とブルドーザー」に身を挺して闘った阿波根昌鴻さんが集めた米軍の模擬原子爆弾や「乞食行進」の時にきていた服等の展示に衝撃を受けた。謝花さんの「平和をつくるためには武器をなくさせる闘いが必要」「戦争は人間が起こすからには、人間が止めるしかない」といった言葉がウクライナ戦争の現実と照らして深く印象に残った。

座り込みや抗議行動はなかったが、基地反対運動や平和について学ぶ、意義深いツアーだった。退職者会幹事の、また3名のドライバーの皆様、お世話になり、ありがとうございました。参加の皆様、また会員の皆様、東京の地から辺野古基地建設反対の声を上げ、沖縄を再び戦場とさせないための闘いに立ち上がりましょう。

<参考>

1. 辺野古、安和、塩川、高江の現状については以下のブログをご覧ください。

- ①目取真俊さん「海鳴りの島から」…上記6/30ゲート前集会の報告・写真あり、
- ②北上田毅さん（沖縄平和市民連絡会・土木技術者）「チョイさんの沖縄日記」
- ③ヘリパッドいらぬ住民の会「やんばる東村 高江の現状」

2. 最新の米軍基地問題について

山本章子・宮城裕也「日米地位協定の現場に行く…『基地のある街』の現実」岩波新書

第28回「日退教組織活動交流集会」(2022年10月14日)

レポート

第2分科・分散会 「教育・人権・文化・組織」

⑤ 「組織拡大・強化と愛知退教連の目的」

佐藤佳紀（愛知県退）

「組織拡大・強化と愛知退教連の目的」

1. 組織改編

1984年の発足以来、三十年以上もの間、「愛知県退職教職員協議会（愛知退教協）」として、尾張・三河・名古屋の愛知県下の退職教職員が一致団結して取り組みを進めてきた。そんな中、17年度4月、名古屋市において「県費負担教職員の給与負担等の道府県から指定都市への移譲」が行われたことにより現役組織が組織改編したことにあわせて、愛知退教協も組織改編を行った。

現役の組織構成と同様に、尾張・三河の退職教職員で構成する「愛知県退職教職員協議会（愛退教）」と名古屋の退職教職員で構成する「名古屋市退職教職員協議会（名退教）」がそれぞれ組織され、愛退教、名退教の連合会である「愛知退職教職員連合会（愛知退教連）」を組織した。これは、たとえ、権限移譲が行われても、愛知は一つとなって現退一致で取り組みを進めていくという現役・退職者組織の考えから生まれたものである。現在も愛退教、名退教それぞれが協力し合い、これまでの取り組みを継承しながら愛知退教連での活動を精力的な取り組みを展開することができている。

2. 愛知退教連の課題

組織改編が行われたものの、愛知退教協からの課題は残されたままとなっている。結成から38年を経過した愛知の退職者組織であるが、残念ながら現役教員の中に「愛知退教連」を知らない組合員もいる。本年度も加入期間である3月から4月にかけて、「入るとどんないいことがありますか？」と、退職組合員のいる分会委員長から事務局に電話がかかってくることもあった。そこで、事務局から退教連の目的や意義などについてさまざま話をしても、具体的なメリットのみが追求され、残念ながら組織率も年々減少しているところであり、組織率の減少に伴う財源減少も運営上厳しい状況を生み出している。このような状況になった背景として、退職組合員の中には、「もう退公連に入ってしまったので、退教連は…」と答える方も多く、退教連と退職公務員連盟との組織の違いを理解してもらえていないことや、公務員

弘済会との競合などによって、愛知退教連結成の大きな目的の一つが変化してしまったことが考えられる。

そのような背景の中、組織率の減少に歯止めをかけるべく、2008年度より各地区の校長会の会合において、入会を呼びかける取り組みを始めた。大きな成果とまでは言えないものの、呼びかけを始める前と比較すると少しずつ入会数の増加傾向が見られるようになってきた。今後も、組織改編によって生まれた愛退教、名退教がそれぞれの地域にあわせた入会に向けた取り組みを粘り強く行うことにより、取り組みの成果が期待できると考えている。また、現役組合員への勧誘活動にも積極的に取り組みも始めており、本部主催の学習会や単組学習会などの機会を活用し、退職者組織の目的や意義などについて説明している。校長会への呼びかけと同様に、粘り強く退教連の目的や意義などの周知をはかることで、将来の入会数の増加につなげていきたいと考える。

愛知はこれまで諸先輩の信念と努力により、組合・校長会・教育委員会そしてPTAのそれぞれの団体が手を携えて愛知の教育をよりよいものにしてきている。入会に際し、何らかのメリットを求めたくなるのも理解できるが、現退一致で「愛知の教育をよりよくしていく」という最大の目的をしっかりと理解していただき、伝えることが何よりも大切であると考えている。

意義が伝わり、退教連の目的を理解していただくことで、組織の拡大・強化に直結すると考える。これまでの長きに渡る活動をふまえ、退教連の目的について考えを述べていきたい。

3. 現退一致による運動の推進

退教協の目的を考える上で欠かせないことは「現退一致」による運動の推進である。組合活動の延長線にある「現退一致」の運動の大きな利点として、現役の組合の活動をさらに強固にすることができるということがある。

現役組織の愛教組連合は、2022年の第26回参議院議員選挙において斉藤よしたか氏の再選を果たすことができた。

一方、2023年の統一地方選挙においては、現役執行部と密接な連携を図ってくださっている愛知県議会議員の谷口ともみ氏、名古屋市議会議員のうかい春美氏、森ともお氏の再選に向け、取り組みを強化していかなければならない。

愛知退教連としても、3月に行った総会において、本年度の活動方針が提案・承認され、具体的な活動のすすめ方として「組織推せん候補者の当選を期して取り組

むこと」が決定しており、7月に「退教連だより」を発行し三者の情宣に努めている。

退職者会員の要求を実現させるとともに、生活と権利を守るためには、各級議会において代弁者が不可欠である。深刻な教育課題を克服し、ゆきとどいた教育を実現できるよう、今後も会員を継続していただかなければならない。今後も現役執行部が組織推せんした候補者の必勝にむけ、機関紙などで組織推せん候補者の周知を図るなどして、全力で取り組んでいきたい。

また、愛知退教連では現退一致による運動推進の一環として、現職である愛教組連合役員も日退教のさまざまな行事や活動などに積極的に参加する工夫をしていることは、特筆すべきことである。その一つの取り組みが、「沖縄と連帯する沖縄交流団」である。沖縄交流団に参加することで、市街地に当たり前のよう存在する基地や、普通に頭上を飛行するヘリや戦闘機、さらには訓練場の外まで聞こえてくる銃声や爆発音など、報道や資料等では感じることでできない沖縄の現状を知ることができる。そして、テント村やゲート前で現地の仲間とともに連帯し、行動をとすることは貴重な経験となり、こうした沖縄の現状を目の当たりにすることで、学習と交流の重要性を改めて確認することができる機会となると考える。しかし2019年度以降は沖縄交流団は行われていないものの新型コロナウイルス感染症拡大の影響からさまざまな取り組みについて参加を見合わせている。今後も感染症の影響を鑑みながらも上記のような取り組みは継続すべきと考える。

4. メリットや生きがいを得られる活動の充実

ここまで述べてきたように「現退一致」の運動が、組織の拡大・強化を図る上で重要であることは言うまでもない。しかし、運動を構築する上でここ数年大きな課題となっていることがある。それは、入会していることによる実質的なメリットである。発足当初に教職員共済が継続できたことのように、退教連に入会するメリットを設けていく必要がある。もちろん、退職後も自らが教員であった誇りと使命感を持ち続け、社会に貢献することの重要性を認識し続けることは当然である。



【19年度の親睦旅行の様子】

愛知退教連が取り組んでいるものとしては、毎年恒例の海外への親睦旅行がある。

19年度は、ジャワ島への3泊4日の旅行を行った。親睦旅行には、リピーターの参加者も多く、毎年の旅行を楽しみにしている方もおり、疎遠になりがちな退職者にとって旧交を温める機会となっている。本年度も昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響で親睦旅行自体が中止となったが、来年度の企画では、10月頃、長崎に2泊3日の旅行を計画している。会員相互の親睦をさらに深められる3日間にしていきたい。

今後も会員のニーズを把握しながら、会員がメリットを感じることができるような企画を考え、活動が前進するように検討を続けていきたい。

5. おわりに

以上のように、ここまで述べてきた退教連のすべての活動に目的と意義があることは言うまでもない。これらの活動を現在の組織強化、そしてさらなる組織拡大へ向けた足がかりとし、今後も退教連運動を前進させていきたい。

第28回「日退教組織活動交流集会」(2022年10月14日)

レポート

第2分科・分散会 「教育・人権・文化・組織」

⑥ 「ジェンダー平等を目指す女性参画促進一歩目の現状

～民主主義は面倒なもの、しかしあきらめない～

林誠子(大阪府退)

ジェンダー平等をめざす女性参画促進一步目の現状
～民主主義は面倒なもの、しかしあきらめない～

1. 規約改正の経過

- ① 2021年7月 男女共同参画検討委員会発足 府内の加盟単会から17名の女性
(経験の交流から始まり、会議の中で成長し覚悟ができた)
- ② 同年10月末までに小委員会4回、検討委員会3回を経て規約改正を含む提言をまとめ
府退教会長宛提出
- ③ 同年11月 府退教は提言を受け止め、規約の検討を開始
- ④ 2022年1月 規約改正案・単会代表者会提案
- ⑤ 同年3月 臨時総会を開催し規約改正案提案、決定
- ⑥ 同年4月 各ブロックから役員推薦に入る(18人中7人女性推薦)
- ⑦ 同年4月下旬 推薦候補者による互選で役職決定。
- ⑧ 同年5月12日 定期総会で新メンバー役員体制確立
当日の総会出席者(女性35%)

2. 提言の主な内容

- ① 役員・会員が共有すべきこと
府退教会員である私たちは、平和・人権・平等を掲げ、差別のない民主主義社会を目指して運動を進めてきた。その意味でも国際条約や我が国の基本法が掲げるジェンダー平等実現に向けた大きな目標・理念等(別紙資料1)を共有する。
 - ・女性差別撤廃条約
 - ・男女共同参画社会基本法
- ② その上で、次の内容を満たす規約改正をすること
 - ・役員会・幹事会・単会代表者会・総会との構成、役割を明記すること。
 - ・全役員の30%以上を女性とする。かつ三役(会長・副会長4・事務局長)も30%以上を満たすことを規約に明記すること。
 - ・役員候補を推薦する段階(5ブロック、大阪市、高校)で複数推薦は女性を含むこと。
- ③ 規約改正検討委員会には女性が30%となるよう本検討委員会のメンバーをも加えること。

3. 30%達成はゴールではなく、組織運営民主化のスタートに

- ① 30%達成しても<何のために>が必ずしも共有されてはいなかったという目覚め
 - ・第一回役員会の連絡は・・・他意はないが対等な存在とは気付かない日常も
 - ② 今変化の最中・・・男女ともに確実に変わりつつある
 - ・会議開催連絡の在り方
 - ・会議準備・運営・事後処理等
 - ・横縦組織会議報告、学びの場の設定で各組織の役割や課題等、基本の理解共有深まる
 - ・役員のやりがい感ある任務分担、担当のグループ化、デジタル府退教情報の発信
- <先輩たちの築かれた府退教の誇れる実績をさらに実らせ継承し、発展させる>**
- ・憲法9条を誇りにする会
 - ・蘇州大学と交流する会
 - ・ゴルフ同好会等
 - ・平和人権センターへの結集

第28回「日退教組織活動交流集会」(2022年10月14日)

レポート

第2分科・分散会 「教育・人権・文化・組織」

⑦ 「ネット問題を通した子ども相談に取り組んでとりくんで」

～こうちねっと見守り会議の取り組みから～

山中千枝子(高知県退)

ネット問題を通した子ども相談に取り組んで

～こうちねっと見守り会議の取り組みから～

高知県教職員友の会 山中 千枝子

1. はじめに

携帯電話からインターネットができるようになったことでの子どもたちへの危険性について初めて知ったのは、退職2年前の校長会の場であった。高知県警からの提言であった。学校に帰って、すぐに当時のPTA会長と教育長さんとを交えて話し合ったことであった。この経過から、越知町教育委員会が講師として呼び出したのが、ねちずん村（NPO 青少年メディア研究協会、群馬大学の下田博次教授と真理子先生ご夫妻であった。1年目は町の教職員研修で真理子先生を、2年目は、郡PTA研修会で博次先生の講演をお聞きすることになった。その内容を聞くに及び、知らなかったでは済まされない強い衝撃を受けたのを覚えている。

「退職したら、一緒に全国にまわりましょう」とお誘いがあり、退職後3人で全国を回ることになった。私の役割は、ワークショップ。先生たちの講演をワークショップにしていくことと、「知った人から知らない人へ」どう伝えていくかの模造紙への書き込んでいく教材づくりと発表の仕方。夢中で学んだが、総枠が見えはじめるまでに3年ほどかかった。貴重な経験を積み重ねることができたことに感謝している。

2. 見守り会議の立ち上げへ

1年、2年、3年を経て……。そんな時、知り合いのお孫さんが自殺をした。高校2年生であった。主な原因が「ネット掲示板への誹謗中傷」であった。

携帯電話の小さな画面の中に、どんどん増えていく自分への悪質な誹謗中傷を、彼女はどんな思いで読み自ら命を絶ったのか。今、考えても胸が痛む。このことがきっかけで、子どもたちがネットの中に入り込み、友だちへの誹謗中傷を書かなくてもいい集団を作りたいと「こうちねっと見守り会議」を立ち上げた。この問題は現在も深刻である。この7月、高知県では知事を先頭とするいじめ問題対策連絡協議会で児童生徒間のネット・SNSによるいじめ（悪口・うわさ話・グループ外し）の認知件数が2016年度比で2～3倍（全国1.75倍）に急増している危機意識を共有し、相談窓口の周知の必要が確認されたという。

発足当初は、ネット掲示板やプロフ、ブログ等でのトラブルが多かった。トラブルの相談の中には、高知県警との連携が必要なことも少なからずあった。相談を受けることと平行して、中学校、高校への講演活動にも取り組んだ。

3. 相談事例から

9年ほど前、県外のある中学校で親子での学習会の最後に「トラブルも深刻な問題だが、今からはネット依存やゲーム依存が多くなることを心配している。」と結んだことがあった。半年後に、その時講演を聞いた母親から「うちの子は、中毒かもしれない」との電話があった。これがゲーム依存のはじめての相談だった。彼は、高校1年生。学校から帰るとゲームをはじめ。取りあげないと朝までゲームをしている。ゲーム機を取り上げると暴れる。それでも、大学へ行きたいという強い思いがあるので、フラフラしながら学校に行く。自力では無理なので母親が車で学校まで送る。ゲーム依存が理解されていなかった頃、高校の先生たちからは「甘やかす母」「ダメな母親」とのレッテルがついた。無理解な学校と父親、パニックになりながらも毎晩2～3時間電話で私と話をすることで母親は自分を安定させていた状況であった。4年かかって彼は高校を卒業し、相談があつてから6年後、彼は大学に進学し、学生生活を楽しんでいる。

(1) ネット依存、ゲーム依存

- ①ゲームに夢中になり、昼夜逆転。スマホやゲーム機を取り上げようとすると暴れる。
- ②授業に集中できない。人の話が聞けない。じっとしてられない。奇声をあげて走り回る就学前や小学生（特に低学年）が増えてきた。
- ③引きこもり、不登校・・・

(2) SNS、オンラインゲームでのトラブル

フィルタリングしていないことから、18歳未満のSNSを使用している。

排他的人間関係

- ①友だちを誹謗中傷の対象にしたり、仲間はずれにしたりする。
- ②スマートフォンを持っていないと情報が共有できないという不安。
- ③情動の感染～他人の意見を自分の意見として思い込んでしまう。

(3) コミュニケーションがとれない

長引く新型コロナウイルス感染症下で、学校教育にはいわゆる「個別最適な学び」が必要として全国にGIGAスクール構想が推進された。ICT教育の利活用が一気に進むこととなった。子どもたちは、支給された一人一台のタブレットを学校で持っている。学校でのタブレットは、教員の指導で使用されているが、授業での活用でもチャット機能の悪用でいじめにつながる事例があったり、授業中以外の休み時間や持ち帰り時も含めて保護管理・セキュリティ対応の課題が付きまとっている。家ではどうだろうか。スマートフォンをほとんどの子どもたちが持っている。中高生だけではない。小学生や就学前の子どもたちも自分のスマートフォンを持ち利用している。「もうすぐ小学生だから」とスマートフォンを買い与える年長さんたちの保護者も少なからずいる。ゲーム機もほとんどの子が持っている。情報ツールとしてのスマートフォンやゲーム機が悪

いわけではない。スマートフォンが必要なこともあるかもしれない。心配し危惧しなければいけないことは、親子の間に入り込んで対面でのコミュニケーションが希薄になっていることだ。ある小学校の4年生を対象にした講演に行った時のことである。「今日のおばちゃんの話をお家でお父さんやお母さんに話して」というと、即、「うん、ラインしておく」との答えが返ってきた。何とも皮肉なことか、これほどまでにSNSが親子や友だちとの間に入り込み、それで人間どうしのコミュニケーションできていると信じていることが多くなっていることを心配している。

① ネットでしか繋がれない関係

学校で、家庭で、最後の砦の地域での人間関係

(4) 日常生活の中にすっぽり入り込んだインターネット

3か月ほど前に知り合いの若い女性から電話があった。友だちの2歳半になる子どもが話ができない。専門医に診察してもらったら。「悪いところはないので、話せない原因はお母さんのマスクかもしれない、口の動きがわからないのだろう。マスクを外してお話をしてみて。」と言われたという。「私は、専門家ではないので」と伝えた上で「抱っこして目を見ながら、歌（童謡）を歌ったり、昔話をしてやって。」と助言をした。すると、彼女の友人からすぐ電話が入った。童謡も昔話も知らないとのこと。子どものころ、自分の親から歌ってもらったり、お話をしてもらった記憶がないと言うのである。私たちが子育てをした頃は、『子どもを抱いてはいけない。添い寝をしてはいけない』と教えられた時代があった。便利なツールの氾濫が、一方で対面での豊かな人間関係と健全な成長・育成を阻んでいる状況も含めて、その子どもたちが今や親になって、我が子の子育てにまさに格闘している。

時代はデジタル化に向けて進んでいる。情報社会にある現在（4.0の社会）が「ソサエティ5.0」の言い回しでデジタル革新をこれから目指すべきとされるが、人間の基本的な生活行動は変わらないはず。

① 会話ができない

② 喜怒哀楽は

4. コミュニケーション能力をどう作っていくか

そんな今だからこそ、対面でのコミュニケーション・人間関係づくりが大切だと考えている。

① こうちねっと見守り会議は、「親子野遊び塾（デジタル・ダイエットキャンプ）」を実践している。

親子で、自然の中でさまざまな体験を共有しながら過ごすことにより、他者理解を育んだり、自分の好きなこと、興味や関心を広く発見していこうとする取り組みである。

② スマートフォンやゲームと上手に付き合うには、それよりも好きなことがあること。親子で関わり合いながら、自分の一番を見つけることが大切で

あり楽しいこと。そのことを伝える取り組み

5. おわりに

「知った人から知らない人へ」

退職して、外堀から学校を見ると、現職の時にわからなかったさまざまなことに気づくことが多くあった。

調査や相談を受けて、発信しようとする、学校現場から「あなたは、専門家ではないでしょう」との言葉が返ってくることも少なからずある。

私が挫折しなかったのは、困っている現実がそこにたくさんあるからである。

保護者は、どうしていいのかわからないこと、どこにどう相談していいかわからなくて困っているのである。特に、デジタル機器の使い方でのトラブル、依存への不安は、「親でしょう」「親が悪い」といわれることが多い。このことで、初期の手だてができず社会復帰が難しくなるケースもある。

①スマートフォン中心の生活が子どもたちにも

②その使い方、それでいいの

③メリットと、デメリット

④正しい利用の仕方

スマートフォンが悪いわけではない。今の社会では、ないと困ることも多くある。子どもたちの利用の仕方が気になる。家庭で、学校で、地域でおとなたちがどんどん学習すべきである。

何がおこっているのか、まずは知ること。そして、知った人から知らない人に伝えていくこと。

※取り組んでいること

「調査活動」「広報活動」「啓発、講演活動」「相談活動」「学習会」
「デジタル・ダイエットキャンプ」

第28回日退教組織活動交流集会

高知県教職員友の会
山中 千枝子

<報告添付資料>

11回 「それでも学校へ行きたい」

25回 「家庭に居場所を④」

～ばあちゃんの語り聞かせ～

30回 「語り合うこと④」

～現実を見て見ぬふりをしていませんか～

エッセイ 山中 千枝子
ドン・ボスコ社「カトリック生活」より

第11回

「それでも、 学校へ行きたい」

山中千枝子



その後、彼はまた自宅から出ることがなかった。「母親の過保護による不登校」、A君の状態を担任教師は、そう判断した。学校からの支援はなく、不登校の通感学校からのサポートを週一回のペースで受ける日が続いた。

みんなが毎日来とうなる学校をつくってよ

中学一年生になった四月末の初めての参観日のことである。

「教室にA君の机がない」

同級生のお母さんが気づいた。子どもたちが帰ったあと、担任に伝えると、「学校に来ていないので、気がつかなかった」と言われたそうだ。それでも、新しいクラスにA君は興味をもち、「学校へ行きたい」と母親に伝えた。

入学のときに買った制服はすでにきつくなっていて、新しい制服を買いに行くと、母親と放課後の学校に寄ってみた。車の中でA君を待たせて、学校に行った母親は、ちやうど外に出てしようとした担任教師と出合った。母親が声をかける、「今日は忙しいから、今夜、米たぎりにいましてよ」と伝えて、「母親を責めたまま立ち去った」。

汽車と母親の会話は、車の中で待っていたA君にも聞えていた。母親が車に乗り

学校は、本当に楽しいところだろうか

「不登校が増えている ようして？」

よく質問を受ける

「どうしてだろうか」と自分の心にもよく質問をかけた。

いじめられて学校にいけなくなった子ども、友だちがいじめられているのを見て学校にいけなくなった子ども、集団の中に入れない子ども。家庭に事情があつて……と、不登校の原因はさまざまである。近年、その不登校の原因の一つに「ゲーム依存」「ネット依存」が加わった。引きこもつてからゲームに入つたり、ゲーム依存で引きこもつたりと、課題は大きくなった。

学校は「家」、学級は「家庭」、班は「家族」。そこで、日の大半を過ごしている子どもたちは、「人ひとりが大切な存在である。自尊心を失ってしまった子どもたちに、そのことをしっかりと伝えていくことが必要である。そのためには、親は何をすべきか、学校は何をすべきかを構築することから始めなければいけない」。

必むと、A君はうつむいたまま目を流わしていたという。

ところが、その担任に働き立て母親の「こんな学校、行くのやめよう」という一言に、A君は息を吹き返した。自分の気持ちに寄り添ってくれた母親の存在が、彼に力をくれたのだ。彼は同じ不登校の仲間と一緒に、不登校の通感学校に毎日通うようになった。

私は、A君が中学校を卒業し、定時制高校を卒業して結婚するまで、彼をサポートした。おとなになった彼と偶然再会したのは、私が小学校の校長になった年だった。「おぼろげなが、校長先生になった学校は素晴らしいところになるね。みんなが毎日来とうなる学校をつくってよ」と、そう言つて受けた。

大きく手を振つてよつていくA君の後ろ姿を見送るながら、私は「本当に楽しい学校には、どうしようところだろうか」と考えていた。

ゲーム中毒と不登校

2017年11月9日、私が主宰している「つらねつと見守り会議」が高知市で「第七回子どものネット利用問題に関する合同研修会」以後、全国7ヶ所を巡回した。その後、当日を含めて数日の間にゲーム中

A君の告白

張りつめていた心が
音を立てて崩れた

A君が、小学校五年生のときに学級崩壊があつた。多数の男の子たちが、ほかの何人かの男の子に暴言や暴力を繰り返すようになった。担任の先生は、「みんな仲良くして」と繰り返すのみで、なんら手立てがなされなかったという。A君は、人の友だちと、一緒に暴行にその間に入つた。「やめろや」「授業が始まつたよ、勉強しようや」「登るのやめや」

止めているうちに、見えないところでA君たちへのいやがらせが始まつた。体操服がトイレの便器に放り込まれていたり、教科書が破られたり、給食の器に泥が入つていたり……。六年生になつてもクラス替えがなかったが、A君は一年間、気丈にも耐えた。

小学校での主な活動が終わり、卒業式の練習が始まつたころ、A君の張りつめていた心が音を立てて崩れた。彼は自分の部屋から出ることができなくなった。学校が大好きで、休むことなく早朝から学校に行つていたA君だったので、両親は彼の行動が理解できなかったという。

中学校には、入学式から十日ほど通つた

あとと思われる子どもの保護者から何件もの相談があつた。

ほとんどの相談は、「子どもがゲームを止めなくなった」から始まる。ゲーム機やネットゲームは、いつからやっているのか、日に何時間くらいやっているのか、昼夜差転してはいないのか、暴れていない、質問の最後に、「学校には行っているのか」と切り出す。その問いかけに、「実は……」との答えが最近では多くなった。

不登校は、年々増加しており、特に高知県の不登校の数は、全国でもトップクラスである。不登校に対する私への相談も、最近では、ゲーム中毒が原因だろうと思われるケースが多くなった。

ゲームやSNSにはまりこんでの不登校は、意外と多いのだが、あまり認識されていない。学校に相談しても、「ゲームを止めさせなさい。取り上げなさい」と言われるだけだという。保護者も、「日のほとんどの時間をゲーム機やスマホと向き合つている我が子と協調しながらも、どこに相談したらいいのか悩んでいるというのが実態である。「病的ネット依存」といわれているが、解決方法がわかっていない」。

保護者が、スマホやゲーム機を利用させている理由は、「子どもが喜ぶから」「みんながやっているのだから子どもだけやらないのは可哀そう」「学校の連絡簿に使つてい

るから」「選んでいるとじつとしてるから」と、まきままである。ほとんどの保護者が、これらのことをきっかけに中華状態になり、悪劣遊戯し、学校に行かなくなる危険性については甘く考えている。

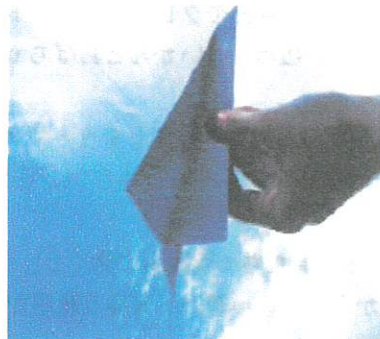
B君の舞台

ゲーム以外でも夢中になれること

B君は、小学校二年生。「保育園のときから、ずーっとゲームをしていて学校に行かなくなった子どもがいるので相談に乗ってほしい」と連絡が入ったのは夏休みのことだった。

B君は、保育園の年長さんのときに、すぐ下の弟とゲームをするようになったという。三十分、一時間、二時間……とゲーム機と向き合っている時間が増えて、気がつくと朝起きなくなっていた。

小学校に入学しても、六月ごろから休むようになった。時々母親が車に乗せて学校の中にある不登校の子どもが通っている教室に行き、そこで一時間ほど通って家に帰るといふ。夕方、仕事から帰った母親が、夕飯の準備や洗濯ものの片付けなどの家事をしている時間、彼と弟はゲームをやっている。母親は「だめやと思っただけ、私にはほかにすることがいっぱいあるさ、子どもたちにはゲームをしてもらっている」



機で飛ばすために、簡単な紙飛行機を言葉で作ってもらった。その當日、B君と弟と母親は、紙袋を両手に持って、命傷にやってきました。

私は防災訓練で設置した避難所に、訓練に参加した小学生に紙飛行機を折ってもらい仮設幼稚園をつくった。彼を園長に任命し、参加者に紙飛行機の折り方を教える係りとした。中には上級生もいた。せつせと指導していたB君は自信にあふれていた。イベントの最後に二階の廊下から参加者全員で一斉に紙飛行機を飛ばした。

私はB君の母親に言った。

と尋ねる。

市役所別頭で私を待っていると、母親の背中に隠れるようにしてB君が入ってきた。それでも興味深そうに私を見ているB君に「おぼちゃん、ちえはあ、ついでうんで。きみのお名前を教えてください」と言うので、「あとで」と言う。

「担任の先生のお名前、教えてください」

「知らない」

「でも、学校に行ったら会ってるんでしょ」

「おぼない」

「友だちは？」

彼は、少しだけ寂しそうを醸して「会わない」と言った。

母親と話をする間、B君に折り紙遊びを勧めた。折り紙が気に入ったようで、紙を折ったり、切ったり、のりで貼ったり、夢中で遊んでいた。

B君に、折り紙で何を作っているのか聞くと、「楽しみにしていて」と言い、楽しそうに折り紙を折り続けている。しばらくして、母親と私の話が終わろうとしているのに気がついたB君は、「もう少し、話しよつて」と言う。結局二時間ほどして、彼の折り紙は終了した。

そんなB君に声をかけた。

「おぼちゃん、遊びの達人なんで。きみは何何をしているの？」

「お母さん、彼は大丈夫。だって、二時間も必死になって折り紙が作れる。私の目を見て話しかける。だから一緒にいるときに抱きしめてやっ。弟さんと一緒に歌をうたったり、お風呂に入ったりしてやっ」

B君は、次の日から一人学校に行くようになった。

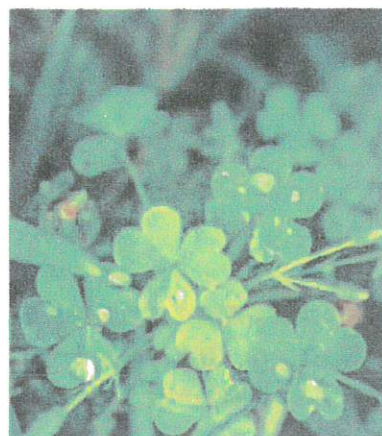
ところが、一月、二月たつて、そのうち、彼は再び学校に行かなくなった。教師も忙しいのかもしれないが、不登校児用の教室に何日行っても担任の教師は会いに来なかったという。友だちも誘いに来なかった。

以前よりもっと傷ついたB君がいる。そのことがつらい。

学校は楽しいところ、人として生きていくための幸せを伝えるところ

一緒に基地をつくらうと約束したが、本当は彼がやりたいことは、教室で友だちと過ごすこと。「あのね、先生」と担任に話しかけること。そして、そんなとき、「どうしたの」と答えてくれる担任の先生の笑顔。

不登校は、いろいろな要因で起こる。私は、学校が子どものすべてを左右するとは、決して思っていない。しかし、ほんの少



「ゲーム」

「ゲームは何が好きなの？」

「いっぱい。わからん」

「おぼちゃん、山で基地つくったり、紙飛行機を作るとはぼしたりしゅがよ」

母親が、この「基地」にとびついた。

「いつも基地作って遊びたいっていうけど、町の中じゃどこで作らないのかかわらないから」

「じゃ、今度おぼちゃんが基地つくるとき、来る？」と聞くと、「うん」とB君は素直な笑顔で笑った。

誰も会いに来なかった――

私はB君と母親に、その二週間後に私の所属している連合防災会が開催する防災訓

しの気づき子どもたちは自分の存在を周囲に見ることができると、居場所を見つけることができるはずである。

「学校に行かなくてもいいよ。休みたいときは休んでいい」と言うので、私のかかわった子どもたちはみんな「学校に行きたい」と言う。「簡単にいっていいよ」と言うので、本当は行きたいがで」と言う。

不登校の現実を、しっかり見て、今、何が必要なのか、何をしなければならぬのかを考えていきたい。いじめや不登校の縫隙を心の拠り所として、たまに成長する子どもたちもいる。私でも私でも、消えない心の傷はある。ずっと、心に残っている傷もある。

私の周りの人の中には「いじめられたのは、子どものときのことやろ。二十歳すぎまおとなになつたんやから、もうえいやか。いつまでも子どものころのことにはぼられるのはおかしい」と言う人もいる。

本当にきいたらうか。子どものころに替わっていき「人としての心」そのときでしか経験できない「人として生きていくための幸せ」は、ある。子どもは、人の中で幸せを探して成長していく。そういう喜びや幸せを子どもたちに伝えたい。学校には、素晴らしい先生たちがたくさんいる。学校は楽しいところ。楽しくなければいけないところだと私は信じている。

タブレットが学校に導入され、児童生徒の誰もがネット環境の中におかれるようになったことも影響してか、夏休み前からゲーム依存や生活時間等についての相談が増えてきた。学校で使っているのだからスマホやタブレットを買い与えたり、スマホを新しいものに買い替えたときに、それまで使っていた自分のスマホを子どもに与える保護者も多いと聞く。学校の意図とは離れて、それに伴うトラブル等も多くなってきた。親子で時間を決めていたのに守れない、隠れて布団の中でゲームをやって昼夜逆転。女の子はSNSに費やす時間が多く、Youtube動画をぼろと見たり、一晩中「知り合い、という名前も知らない人たちとの会話(?)」を楽しんでいるという。そんな中、「課金」についての相談も増えている。

小学校6年生の男の子が父親の後ろに隠れるようにして相談室に入ってきた。「こんにちは」と言う私の顔をちらっと見てすぐに顔を伏せた。隣に座った父親も緊張を隠せない様子で、「この子にどう接したらいいか、どう話し合ったらいいかわからない」と言う。

「ゲーム好きなんだ」と問いかけると、その子はやっと思をあげてうなずいた。

「なんのゲームをしているの？どれがいちばんおもしろいの？」

ゲームについて聞くと、彼の表情がだんだんほぐれていき、どうして課金をしたのかを話し始めた。初めは、小遣いの中での課金はやってもいいと父親から了承してもらっていたそうだ。

そこで私は、「課金をしたことではたくさん怒られたと思うけど、ちょっと違う話を聞いてくれる」と言ってスマホゲームによる健康への影響について話をした。両眼視ができなくなる、それによる視力低下、そこから始まる脳への影響、電磁波の危険性……。驚きの表情で聞いていた彼に、「初めて聞く話やる？」と言うと、一緒に聞いていた父親も大きくなずいた。「やめんといかんと思うけど、自信がない」と言う男の子に、私は、課金で使ったお金を自分の小遣いで計画的に返済していくことを提案した。

「エー！」と大きな声をあげた彼に、私はちょっと厳しい口調で言った。「お父さんのクレジットカードの番号を入れて、勝手に使ったんやろ。親子でもしたらいかんことをしたんで、払わんといかんとおばちゃんも思っているよ」

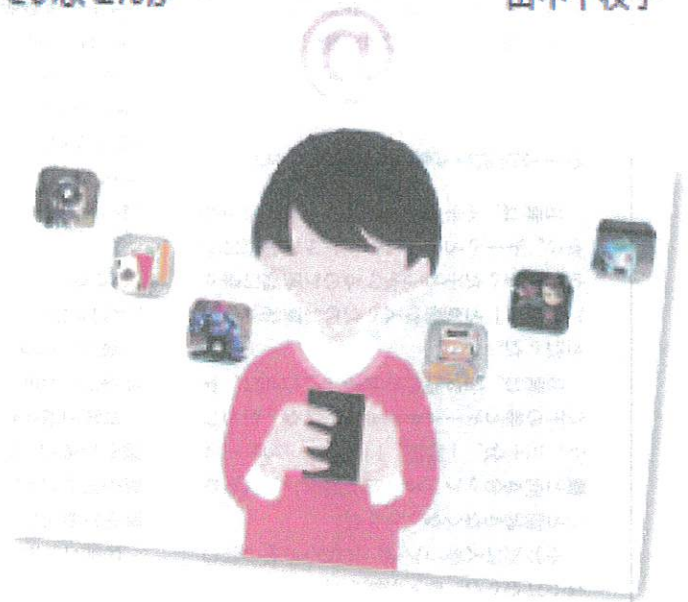
今度は父親が、大きくなずいた。そして、「子どもでも、責任をとるってことですね。僕もネットやゲームに任せきりにしないで、親子でできることをこの子と一緒に考えてやってみます。もっと小さいころは、よく遊んだ。楽しかったよね」と我が子に笑顔で話しかけていた。

小学生でもスマホで買い物をし、決済をする子どもが増え始めた。その子どもたちの保護者に聞くと、「いちいち干渉しなくても後から書類が来るき、何に使っているのかわかるから安心。小遣いの管理と監視ができる」「どうせ、これからキャッシュレスの時代になるから、練習だと思えばいい」と言う。

でもね、お母さん、お父さん。コンビニでアイスクリームを買って、レジでスマホを出して決済している幼稚園の年長さんや小学校低学年生を見て、「それでいい」って思いますか。たしかに、デジタル化が急激に進む中で、時代に逆行することは難しいと思う。

でもね、おじいちゃん、おばあちゃん。子どもの成長にとって最も必要なことは、バーチャルではなくリアルに向き合い、生身で付き合うことではなかっただろうか。

小さい子どもにも、「スマホに今月分の小遣い入れたから」とラインで通知し、「ありがとう」とラインで返す。いつの間にか世の中全体が、家族関係になっている……。それってちょっとしたミステリーではないだろうか。



コロナで家庭でいることが多かった1年。子どもたちは、学校にほぼ8カ月しか通っていなかった。友達と遊んだり勉強する時間よりも、1人で家庭で過ごす時間が多かった。テレビを見たり、本を読んだり、課題学習をしたり……。聞いてみると、ゲームをする時間が何よりも多かったようだ。

ゲームを始めるとゲームの世界に没頭し、家族もコミュニケーションが取りにくくなる。子どもが小さいときの読み聞かせは成長に大きな役割を果たすが、SNSで会話をしている今の生活では、なかなか向かい合い、見つめ合って共同の時間を過ごすことが難しい。



私の子どもころは、家庭に絵本がある家がほとんどなかった。それでも、今の子どもたちより昔話や童話を知っている。

夕方、手伝いが終わってから、近所の子どもたちが集まってきて、縁台に座ったり寝そべったりして、じいちゃんやばあちゃんの話を夢中になって聞いた。私は、ほぼ毎日、縁台で近所の友達が集まってくるのを待った。星が怖いくらいたくさん輝いていて、その中で流れ星を探す。空をみあげながらばあちゃんがぼそぼそと話してくれるお話が大好きだった。

「むかし、むかしね」から始まる話の中で一番好きだったのが、動物たちを従えて鬼退治に行く男の子の話だった。ばあちゃんの話は、いつも少しずつ違っていて、自分が子どもころ、家の農業を手伝っていた話が入ったりもする。

男の子が学校から帰って、すぐ田んぼに行った。この前は、犬を従えて、もっと前はキジを連れて、それから、田んぼのあぜ道の草を引いて輪っかにして座り、みんなで吉備団子を食べた。食べ終わるといつの間にか悪いオニを退治に行く話になっている……。

ばあちゃんの話に夢中になって、気がつくともみんな縁台に座ってばあちゃんの曲調に集まり、聞き入っていた。

数年後、学校の図書室で、「桃太郎」の絵本を見つけた。衝撃だった。きれいな絵本に格好のいい桃太郎さんが動物たちをひきつけて鬼退治に向かう。読んでいてばあちゃんに聞いた男の子がスーパーマンに思えてきた。最初から絵本を見ていたら、いろいろなストーリーが想像できなかったかもしれないが、絵本で確認しながらばあちゃんの話のをなぞるのも楽しかった。

今の子どもたちは、学校から帰ってきたらすぐ畑や田んぼに行って手伝いをし、親の仕事の何割かを担っていた数十年前の子どもたちの責任感や満足感のような思いを感じることができるだろうか。未知の世界を想像する、そんな幸せが今の時代にあるだろうか。わからないことはネットで調べ、知らない世界はネットで一瞬にして仮想体験できる。便利かもしれないが、それが本当に幸せだろうか。

時代が変わり価値観が変わったと、ひと言で済ますことはできないと思う。ばあちゃんの昔話、語り聞かせには生活がある。伝えたい思いが込められている。縁台に集まって、ワクワクしながら聞いたばあちゃんの話が無性に聞きたくなくなった。

わずかな時間でも構わない。おやつを一緒に作ったり、食べたりしながら、また、寝る前のひとときの語り聞かせはきっと楽しいに違いない。

家族ならではのストーリーを作ってみよう。

2022年9月1日

なかまのみなさんへ

高知県の夜間中学を育てる会
世話人 戸田雅威 林宏樹 澤田良文 細川英輔

「四国に開校した3校の夜間中学から学び合う」学習会

なかまのみなさん、こんにちは。

2学期が始まりました。8月末には、子どもたちの「生命」を心配するマスコミ報道がたくさんありましたが、夜間中学生・子どもたちの「いのち」は輝いているのでしょうか？

さて、今年4月に北海道札幌市、神奈川県相模原市、香川県三豊市、福岡県福岡市に公立夜間中学が開校して、全国の公立夜間中学は15都道府県に40校(県立2、市立31、区立7)となりました。来年度は、宮城県仙台市、千葉県千葉市、静岡県、兵庫県姫路市が開校予定です。

四国では、昨年2021年4月に「高知県立高知国際中学校 夜間学級」と「徳島県立しらすぎ中学校(夜間中学)」が、今年4月には、前述のように、香川県三豊市に「三豊市立高瀬中学校 夜間学級」が開校しました。その3校の夜間中学生、夜間中学の教員、そして、大阪府の夜間中学生、夜間中学の教員にも参加を呼びかけて、標記の学習会を下記の「内容」で計画しました。

「夜間中学の主役は夜間中学生、その生命線を握っているのは教員」です。夜間中学生・教員の「生の声」を聴き、「コロナ禍」の中でも、「対面で肉声で対話する」ことを大事にして学び合いたいと思っています。

また、会の後半では、東京都「荒川九中『夜間中学』卒業生」の高野雅夫さんと参加者が語り合う時間もつくっています。高野さんの「夜間中学にかける想い・願い」を参加者とともに学びふかめ分かち合いたいと考えています。

たくさんのなかまのみなさんの参加を心待ちにしています。

記

日時 2022年10月29日(土) 受付12時40分 開会 午後1時 閉会 午後6時
会場 高知市勤労者交流館(クンパル高知) 高知市丸池町1丁目1-14 TEL 088-883-2244

内容 ① 高知県・徳島県・香川県三豊市・大阪府の夜間中学生によるパネルディスカッション
② 高知県・徳島県・香川県三豊市・大阪府の夜間中学の教員によるパネルディスカッション
③ 東京都「荒川九中『夜間中学』卒業生」の高野雅夫さんと語り合おう

参加資料代 500円

主催 高知県の夜間中学を育てる会 高知県人権教育研究協議会

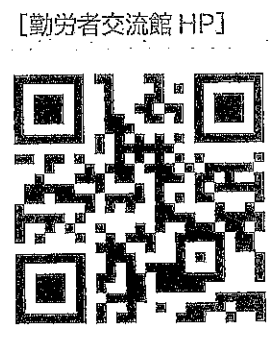
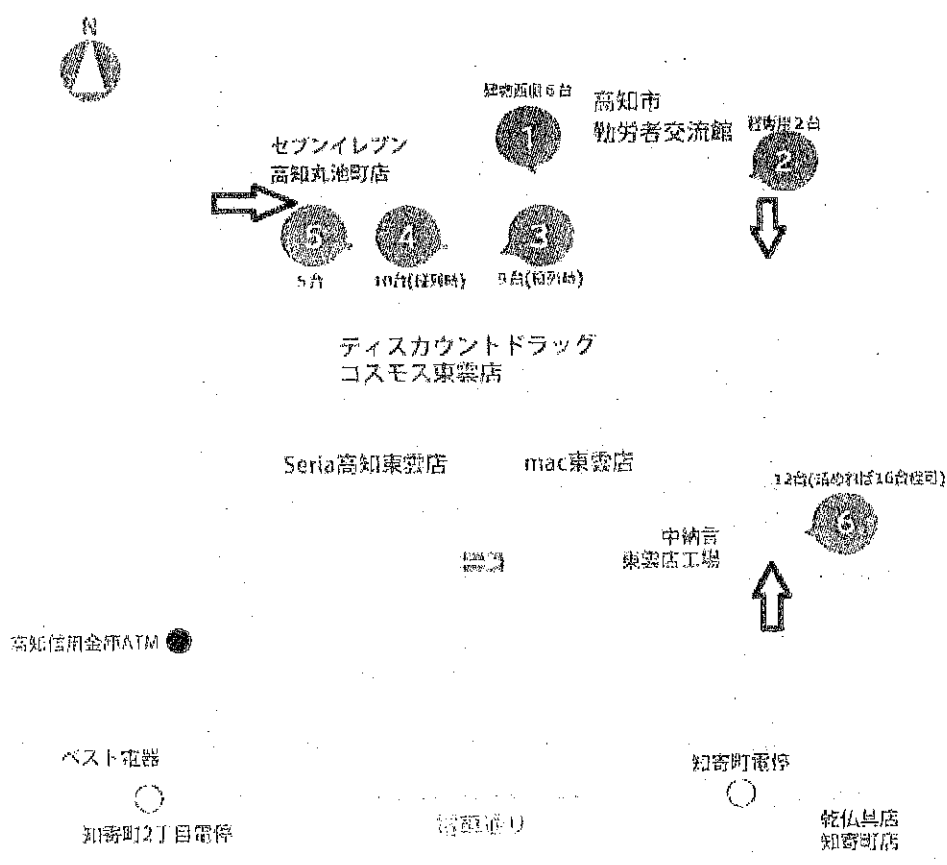
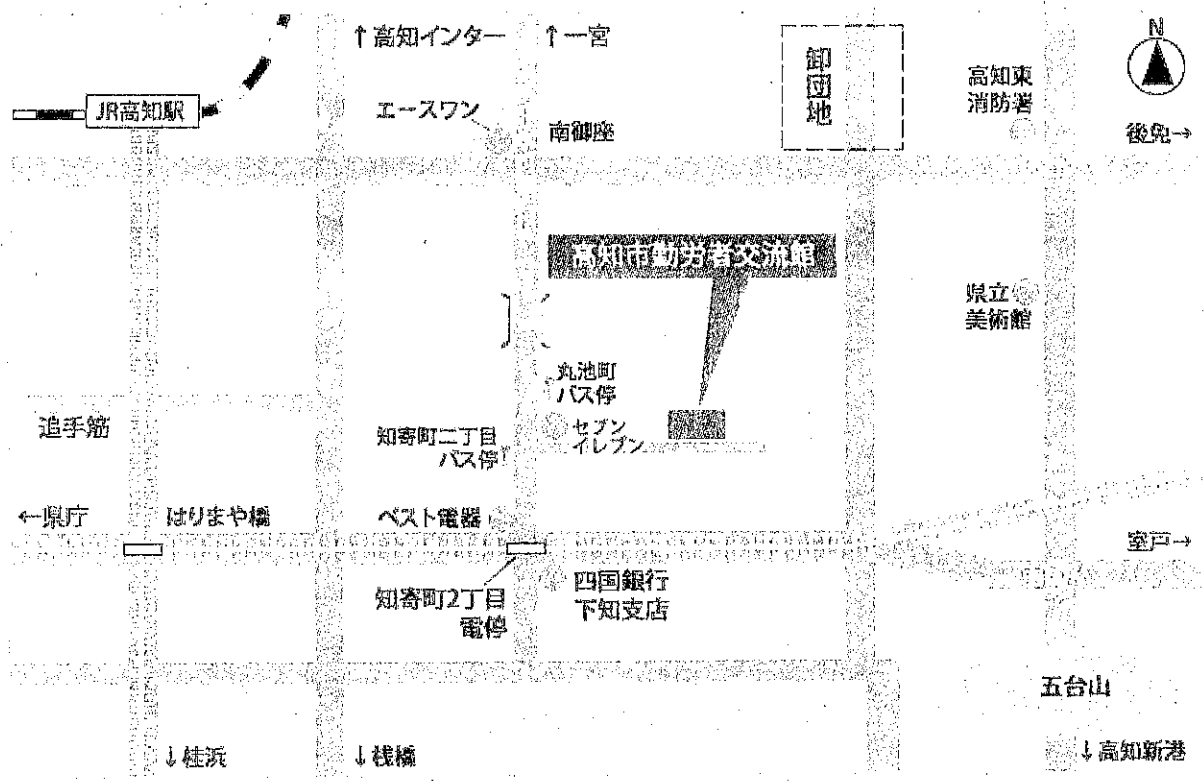
後援 高知県教育委員会 高知市教育委員会(申請予定)

※ 「コロナ禍」の中での実施になると思いますので、参加者数をしっかりと把握したいです。参加を希望される方は、下記の「連絡先」まで「参加申込」をお願いします。

※ 本学習会は高知県人教「人権問題課題別研修会」との共同開催です。

※ 駐車台数に限りがありますので、乗り合わせや公共交通機関のご利用など、ご協力をよろしくお願いいたします。裏面に会場付近の地図を貼付しています。

連絡先: (「育てる会」世話人) 細川英輔(090-7787-6962)
(「高知県人教」事務局) 大平武司(088-881-2330)



〒781-0802 高知市丸池町 1-1-14 (土佐電気鉄道 知寄町2丁目電停より北に約 500 ㍎)
 ※ 近隣の店舗等への駐車は絶対にしないでください。

第28回「日退教組織活動交流集会」(2022年10月14日)

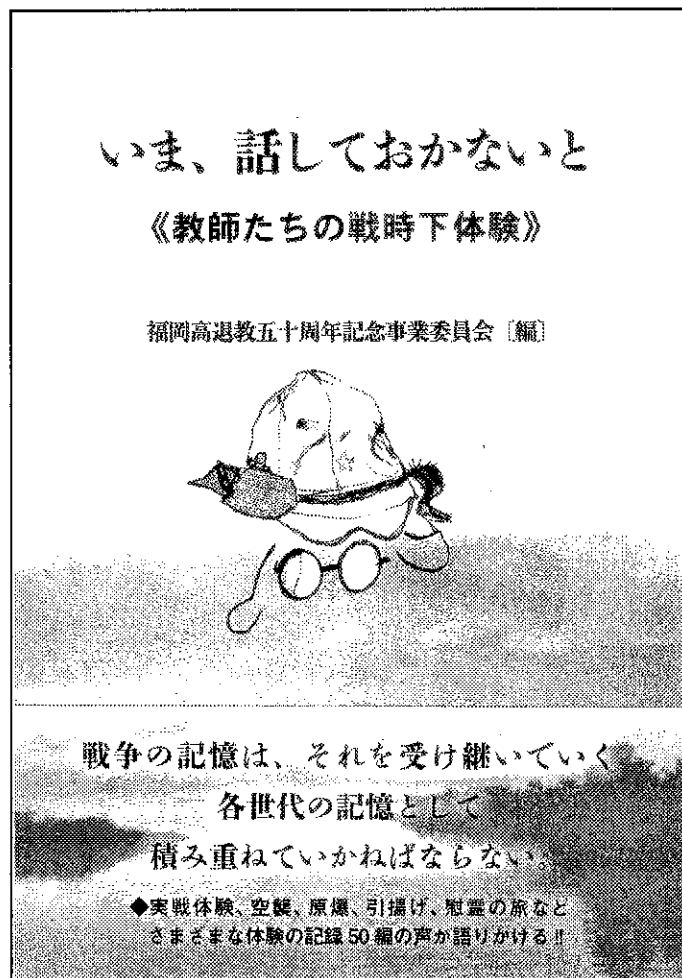
レポート

第2分科・分散会 「教育・人権・文化・組織」

⑧ 「戦争の体験を次の世代に伝えるために」

今橋省三 (福岡高退)

戦争の体験を 次の世代に伝える ために



1、福岡高退教の歴史と現状

① 発足から今日まで

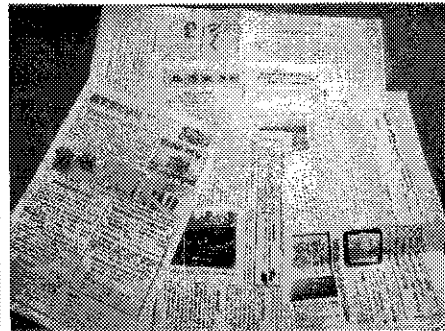
福岡高退教は、1972年に「福岡高教組退職・高齢教師の会」（略称：退高教）として結成されました。高教組退職者と55歳以上の現職組合員で構成される組織でした。結成当初は公務員に定年がなかったこともあり、退職勧奨をはねかえすとりくみが中心的課題でした。1985年に60歳定年が確定した以後は退職者を中心とする組織運営となりました。

2008年に正式に規約を改正して「福岡高教組退職教職員の会」（略称：高退教）とし、構成員は高教組の組合員であった退職教職員とすることになりました。2001年度末退職者から再任用制度が導入される中で再任用者も高退教会員として位置づけ、2007年にはそのうちの高教組組合員については高退教会費を免除する事を明文化しました。

② 現在の組織状況と活動

現在は会員数1120余名を有し、4地区14の支部で構成されています。高退教活動の中心は支部で、それぞれの支部では研修旅行、学習会、読書会、会員作品展をはじめ、退職者連合地協や退職協会との支会とも連携しながら、地域での活動が実施されています。

全支部でユニークな支部ニュースが定期的に発行され、幾つかの支部では毎月の発行と会員への手配りもなされて



ています。県が年3～4回発行する「高退教だより」と合わせて、会員相互をつなぐ「組織の血液」の役割をはたしています。

県全体のとりくみとしては、全国退職教職員いきがい支援協会の支援を得て、健康促進の観点から年1回街歩きを実施しています。2018年は中世博多の町めぐり、19年は歴史文化の街・久留米草野探索、20年は筑豊炭田遺跡群めぐり、21年は修験道の山・求菩提山探索と、各地区の特色ある歴史をたどりま

した。実施地区の会員が全県からの参加者への説明役を果たすことで、各地域の歴史的背景や魅力を知るとともに、会員の持つ専門性を活かしたとりくみとなっています。



③ 女性会員の参画促進

現在の女性会員は302名で全会員数の27%を占めます。県の方針には「様々な活動や行事において女性の参画を増やす」「支部役員に1名以上の女性役員を入れる」とうたっています。昨年度

まで県高退教会長は女性で三役 5 人のうち二人が女性でしたが、今年度の三役は女性枠の副会長一人のみです。支部代表の女性は一人だけで、役員に女性がいない支部が 5 支部あります。

県では女性の参画を増やすために、2020 年に県下から 23 名の女性会員が集まって女性交流会を開催し、支部活動への女性の参画を促すための意見交換をしました。それを受けて 21 年度は 3 地区で女性交流会が実施されました。



2、支部での平和を求めるとりくみ

① 京築支部

「自分たちの体験を子や孫に語り継ごう」と戦争体験文集『若い人たちへ』を、高退教会員が中心となって編集し、2004 年に福退連京築田川地区協議会で発行しました。その改定増補版を出すとりくみの一環として、2018 年には高退教で川崎市にある明治大学平和教育登戸研究所資料館を見学しました。翌 19 年には種子島の戦争遺跡巡検をするとともに、馬毛島の基地建設反対運動についても報告を聞いてきました。

② 八女支部

退職教職員や講師・母親・高校生が書き綴った『私たちの戦争体験の記録』集を発行していました。実体験のほか、先達への聴き取り、歴史観、平和授業のアンケート、新聞部のとりくみ、支部で実施した「沖縄平和学習の旅」の感想文などを掲載しています。

③ 筑後南支部

市民組織である「大牟田の空襲を記録する会」代表を会員がしており、空襲体験記録集『大牟田の空襲』を発行し続けています。その団体は他の 13 団体と合同の募金活動をもとに市内の公園に「大牟田空襲の碑」を建立し、毎年 4 月には「平和の集い」を開催しています。

今年 8 月には会の創立 50 周年の記念事業として、元自民党幹事長の古賀誠氏の講演会を実施しました。『憲法 9 条は世界遺産』の著書がある彼の話は、「沢山の涙があって憲法 9 条がある。抑止力で一番強いのが 9 条だ。9 条こそ財産であり、後世に語り継ごう。」と憲法 9 条堅持を訴える内容でした。

④ 福岡地区 4 支部

福岡地区の 4 支部では、従来から福岡市退教が開催する「平和祈念資料展」に実行委員として参加し、遺品も展示していました。繰り返し活動する中で、高退教としても資料展を開催しようということになり、コロナ禍で一年近く延期となりましたが、2021 年 3 月 23 日から 3 日間、高教組会館において「第 1 回戦争資料展」を開催することができました。小竹町にある私設の「庶民・兵士の戦争資料館」から、館長が収集された戦争遺品をお借りして



して展示する他、高退教会員の身内の戦没者の資料、高退教や福退教の会員が研究調査した資料や、高教組県教研集会平和教育分科会の資料等も展示しました。正面に掲げた「教え子を再び戦場に送

るな」の力強いスローガンや、会員が描いた戦死者の絵画も熱い思いとエネルギーを感じると好評でした。

参加者のアンケートからは「加害の資料もたくさんあり、戦争を違った視点で見ることができた。加害体験、侵略戦争だったことを忘れてはいけませんね。」との意見も寄せられました。

今年3月20日～22日には「第2回戦争資料展」を開催しました。ロシアのウクライナ侵攻開始直後の開催となりました。憲法9条全文を大書して正面に掲げ、寄せ書きやアンケートで参加者の意見を集約しました。また遺品を出品した会員を囲んで座談を実施し、その思いに深く触れることが出来たことも大きな収穫でした。

3、『いま、話しておかないと《教師たちの戦時下体験》』の刊行

県高退教は機関紙「高退教だより」を2003年から発行し、これまでに61号になります。その連載コーナーとして当初より「私の戦時下体験」を各地区持ち回りで掲載し、その記事の集積が42編になりました。今年が高退教結成50周年でもあり、その記念事業として後世に残るものを、との思いで「教師たちの戦時下体験集」に編集して出版することになりました。

手記42編を会員実体験の6章と、会員による体験者からの聞き書きの第7章に分け、そして「高退教だより」の支部報告から平和を求めるとりくみ6編を第8章として分類編集しました。

- | | | |
|------------------|-----------------|-----------|
| I 軍隊・戦地体験 | II 空襲と銃爆撃体験 | III 原爆体験 |
| IV 外地の生活と引揚げ体験 | V 戦時下の教育・勤労働員 | VI 戦時下の日常 |
| VII 戦後の聴き取りと語り継ぎ | VIII 平和を求めるとりくみ | |

<収録された本文の一節>

「看護兵は病人を逃げる時には置いていくと言っていたらしいが、その病兵は習った通りの自決の方法でのどに銃口を当て、足指で引き金を引くやり方で自殺した。脳みそが天井に円形を描いていた。」(I章P16)

「異国の地で若い尊い命の最後を看とるとき、……誰ひとり身寄りなく、私たちの手を握り『お母さんに逢いたい』と母の姿を思い浮かべて死んでいった兵隊さんたち。」「戦中私のこの手で多くの兵隊さんを中国の地に埋めてきたこと。……亡骸を毛布にくるんでわずかに土をかぶせてきたこと。戦争の悲惨さ、敗戦の惨めさは文章にはできない。涙が出て泣きながら綴る。でももう書けない。」(第I章P18、従軍看護婦)

「寝台に寝かされ、四人の兵士に両手両足を抑えられ、『今から切開手術する。麻酔は無いから軍人勅諭を暗唱しろ』と命令された。」(I章P20)

「赤ちゃんを抱いた女の人が飛び出してきて、すぐその後から物凄い勢いで大きな火柱が上がりました。後年、ベトナム戦争で子どもたちが逃げ回っている映像がテレビで流れるたびに、この空襲のことが思い出され、胸が苦しくなりました。」(第II章P36)

「出撃前の岡部平一ら三名の特攻隊員の様子を事細かに遺族に知らせた手紙である。その中には岡部平一の『有難う。後の事は頼みますよ。』という言葉に対して、義母は『お便りのことでしょうか。確かに引き受け致します。』と言うと、岡部は『いやその事ではありませんよ。後の世の中の事ですよ。』と笑って帰られた。」(第VII章P111)

先輩の先生方の文章は今日では読みが難しい漢字が数多くありました。「高退教だより」に掲載する時にはそれで構わないのですが、若い人達にも読み易いようにと振り仮名を多く付けました。また、軍事用語や戦争に関わる用語、そして現在と異なる学校制度、当時の日常生活にもそれぞれ語注を施し、戦争を知らない若い人達にも時代背景が理解され、語られた体験がより深く伝わるようにしました。

本の体裁として、どの体験も見開きで語注を含めて完結するようにしています。若い人達が家庭で子どもたちに語り聴かせる、また若い教師の方々が日頃の授業の一コマ、H・Rでの生徒への講話、そして平和学習、そうした際に活用出来るようにしました。

4、戦争反対を訴え続ける私達のなすべき課題

① ロシアのウクライナ侵攻で明らかになった事

2月末にロシアのウクライナ侵攻が始まりました。一旦戦争が始まると犠牲となるのは多数の一般市民です。SNS で情報が発信される現代は、戦場の姿を遠く離れていても映像で目にする事が出来ます。国家総動員体制下で国内に残される父親・夫に別れて国外に避難する高齢者・女性そして子どもの泣き叫ぶ姿、地下のシェルター(防空壕)で空襲音に怯える人々、道路に放置された犠牲者の遺体、焼野が原となったマリウポリの市街地。

これらの映像に触れると、戦争体験者から語り伝えられた77年前の日本の戦争を思い起こします。朝日歌壇に掲載された「地下壕にふるえ泣いている栗色の髪の少女はあの日の私」の短歌はまさにその通りだと心に響きます。

同時に、二度と戦争はこりごりだという当時の人々の決意を結集し、平和の大切さを高らかに宣言したのが日本国憲法前文や第9条であるということが深く理解出来ます。

「正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し」(前文)

「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意し」「国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」(9条)

② 私達の課題

あの戦争を直接体験した人は数少なくなってきました。体験者が語る言葉は戦争がない社会を築く上で貴重なものです。しかし、実体験した語り部がいなくなる時代がすぐそこまで来ています。そうなった時に、どのようにして次の世代に戦争の実相を語り伝えていくかが、これからの課題です。

戦後直ぐに生まれた私達は、戦争時の社会の雰囲気や少しだけ感じ取ってきました。直接聞き取った戦争体験者の言葉と、そして二度と戦争をしてはならないと考えるその姿を、戦争を知らない次の世代に様々な方法で伝えていくことが私達の世代の役割だと思います。

教研活動等を初めとして、何らかの形で現役の教師たちに戦争体験者の思いをつなげていく必要があります。この冊子はそうしたとりくみの一つとなると信じています。更に平和センターや退職者連合などにも可能な限り協力をお願いし、多くの人に冊子を広げていけたらと思います。

戦争体験者の思いを次の世代に繋げ、世代の記憶を積み重ねていくことが戦争をしない社会を築き上げていく大きな一歩となることを信じています。

『いま、話しておかないと』

《教師たちの戦時下体験》』（弦書房刊）

福岡高退教五十周年記念事業委員会 [編]

福岡高退教は今年結成 50 年を迎えました。記念事業の一環として、機関紙「高退教だより」に会員が投稿連載してきた「私の戦時下体験」を、一冊の書物にまとめて出版することにしました。

戦争を知らない世代にも貴重な体験を伝えたい

49 編の体験記録が、次の 8 章に編集されています。

- | | | |
|--------------------|-------------------|-------------|
| [I] 軍隊・戦地体験 | [II] 空襲と銃爆撃体験 | [III] 原爆体験 |
| [IV] 外地の生活と引揚げ体験 | [V] 戦時下の教育・勤労働員 | [VI] 戦時下の日常 |
| [VII] 戦後の聴き取りと語り継ぎ | [VIII] 平和を求めるとりくみ | |

当時の戦争を知らない世代の人達にも理解が得られ、語られた体験がより深く伝わるように、戦争や軍隊にまつわる用語、当時の日常生活や学校制度等には、見開きそれぞれの頁ごとに語注を加えています。

ウクライナで始まった戦争は、77 年前に終わった日本の戦争の記憶を今更のように甦らせました。一旦戦争が起これば、一般の市民に塗炭の苦しみを強いることは明らかです。二度と戦争をしてはならないとの戦争体験者の思いは、今こそ受け継がれなければなりません。

読み継ぎそれぞれの「世代の記憶」としよう

戦争の記憶は、実際に体験した世代、その人達から体験を語り伝えられた世代、それを受け継ぐ若い世代へ各「世代の記憶」として積み重ねていくことで、より豊富なものにしていく必要があります。その一助となることを願い、この書物は出版されました。

是非お買い求めいただき、語られた証言を皆さんがさらに伝えていただければ幸いです。

